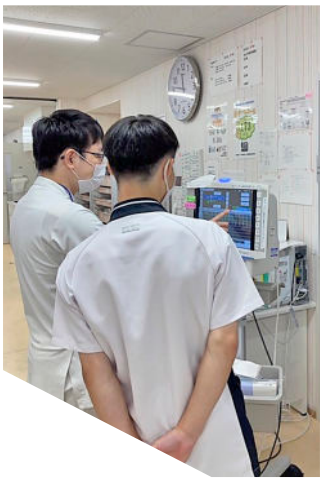


令和5年度(2023)

和歌山県地域医療支援センター

夏季実習 報告書

和歌山県
地域医療支援センター
CMSC
COMMUNITY MEDICAL SUPPORT CENTER
www.cmsc.jp/

令和５年度

和歌山県
地域医療支援センター

夏　季　実　習
報告書

CONTENTS

- ご挨拶 2
- 実施項目 3
- 病院・診療所実習 4
- 保健所実習 101
- 実習報告会・交流会 126
- おわりに 128

ご挨拶

和歌山県立医科大学地域医療支援センター　センター長・教授
和歌山県地域医療支援センター　センター長
上野　雅巳

平成 23 年度から実施している夏季病院実習につきましては、平成 25 年度から本学医学部地域医療枠学生と和歌山県出身の自治医科大学医学部学生、また、平成 27 年度からは近畿大学医学部和歌山県地域枠学生の実習希望者と共に合同実習という形で行っております。

3 年の長きに渡って新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本実習も中止や参加学生の制限を余儀なくされてきましたが、今年度はほぼ予定どおり実施することが叶い、ここにご報告できますことを大変嬉しく思います。

ご協力いただきました県内各病院・診療所、保健所、大学の先生方及びスタッフの方々には、お忙しい中多大なるお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

この実習の目的としては、学生が卒業後勤務する予定の県内各病院・診療所や保健所での実習を通して、地域医療への理解を深めること、様々な手技を体験すること、また先輩医師との交流の場を設けることなどが挙げられます。

本学地域医療枠 2 ～ 5 年生・県民医療枠 B,C 1 年生及び自治医科大学 1 ～ 5 年生は、県内公的病院・診療所で 2 日間の実習を行い、地域医療の実際の現場に触れることができました。本学地域医療枠 1 年生につきましては、保健所で 1 日間の実習を行い、地域における保健所の役割や仕組みを学びました。近畿大学学生は、本院において 1 日間の病院見学を行い、卒業後の研修プログラムなどについても知ってもらう機会となりました。

実習終了後には本学医学部地域枠学生・医師を対象とした実習報告会及び交流会を実施し、他学年や先輩医師と意見交換を行う場を設けました。令和 3,4 年度はオンライン開催でしたが、今年度は 4 年ぶりに対面開催でき、直に会って交流できることの良さ、温かみを実感しました。学生は、実習内容を共有することや先輩医師からの貴重なアドバイスをいただくことにより、医師としての将来像がより鮮明になったかと思います。

このような実習や交流会を通して、学生たちが互いに刺激し合い、共に高め合い、本県の医療を担う能力の高い医師へと成長してくれることを心より願っています。

私たち地域医療支援センター教職員一同、今後も学生たちが安心して卒業後の勤務に臨めるよう、サポート体制などの環境作りに取り組んで参りたいと思います。

実施項目

●実習の目的

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠・県民医療枠 B,C 学生、自治医科大学医学部学生及び近畿大学医学部和歌山県地域枠学生が、県内へき地医療拠点病院・診療所等や保健所等の医療現場で実習・見学を行い、医師を志す者として地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めることを目的とする。

●参加者

・和歌山県立医科大学医学部地域医療枠２～５年生	36 名	
・和歌山県立医科大学医学部県民医療枠 B,C １年生	5 名	
・和歌山県立医科大学医学部地域医療枠１年生	10 名	
・自治医科大学医学部１～５年生	12 名	
・近畿大学医学部和歌山県地域枠学生	2 名	計 65 名

●実習日程

〈へき地医療拠点病院・診療所等実習〉

令和５年７月 18 日(火) ～８月 24 日(木) の２日間

〈保健所実習〉

令和５年７月 27 日(木) ～８月 25 日(金) の１日間

〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和５年７月 18 日(火) ～９月７日(木) の１日間

●実習報告会・交流会

〈日　程〉 令和５年８月 19 日(土) 16：00 ～ 19：00

〈内　容〉 ①学生による実習報告会

②学生・医師の交流会

〈参加者〉 計 59 名

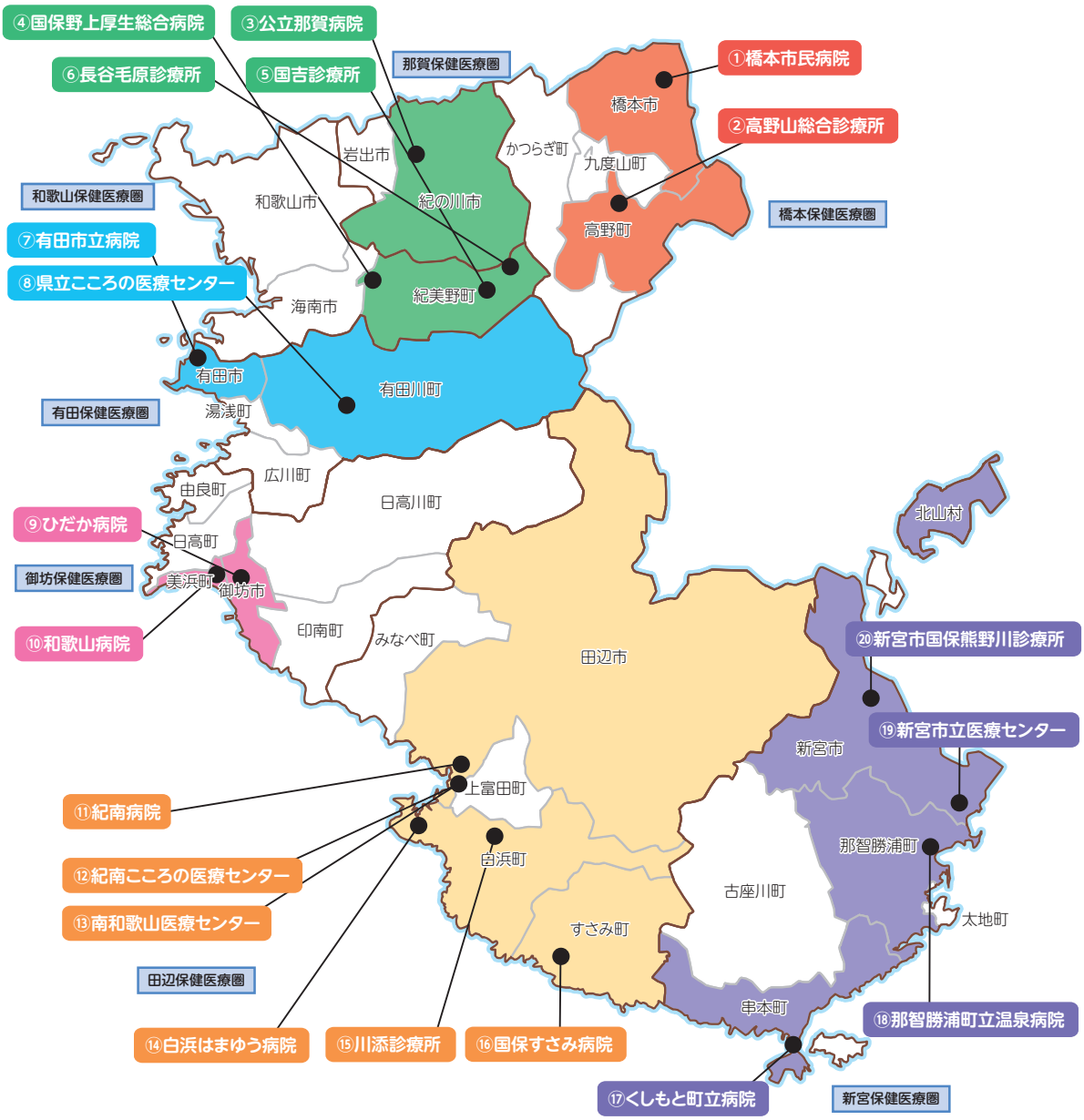
病院・診療所実習

〈病院・診療所実習〉

令和５年７月 18 日（火）～８月 24 日（木）の２日間、本学地域医療枠２～５年生・県民医療枠 B,C １年生（41 名）及び自治医科大学１～５年生（12 名）が県内 20 か所の病院・診療所に分かれて実習を行いました。本学地域医療枠、自治医科大学及び近畿大学和歌山県地域枠出身の先輩医師のご協力の下、１対１でご指導をいただきながら、卒業後勤務する予定であるへき地医療拠点病院等での仕事内容について学び、地域医療についての理解を深めることができました。

〈和歌山県立医科大学附属病院見学〉

令和５年７～８月に近畿大学医学部和歌山県地域枠学生２名が和歌山県立医科大学附属病院にて、希望する診療科を見学しました。実際の医療現場に触れるとともに、研修制度についての説明なども受ける機会を得ました。



●参加者名簿

和歌山県立医科大学医学部　地域医療枠・県民医療枠 B,C

実　習　先	枠	学年	氏　名	対応医師名	実習日 1	実習日 2	
橋本市民病院	地域医療枠	2	大饗　光	生駒　彩夏先生	8 月　2 日㈬	8 月　3 日㈭	
	県民医療枠 B	1	鶴見　愛海	西村　美咲先生	7 月 31 日㈪	8 月　1 日㈫	
	県民医療枠 B	1	中川　隼平	西村　美咲先生	7 月 31 日㈪	8 月　1 日㈫	
公立那賀病院	地域医療枠	5	西村　加奈	向井　陽祐先生	8 月 24 日㈭	—	中止
	地域医療枠	4	榎本　真太	中　暁洋先生	7 月 27 日㈭	7 月 28 日㈮	
国保野上厚生総合病院	地域医療枠	5	浦﨑　杏	北　綾子先生	8 月　1 日㈫	8 月　3 日㈭	
	地域医療枠	4	土山　徳季	北　綾子先生	7 月 27 日㈭	7 月 31 日㈪	
	地域医療枠	3	奥村　麗	貝持　裕太先生	7 月 18 日㈫	7 月 19 日㈬	
	地域医療枠	2	吉野　真登	師玉　拓季先生	7 月 26 日㈬	7 月 27 日㈭	
	県民医療枠 C	1	今西　悠登	田畑　倫代先生	8 月 14 日㈪	8 月 21 日㈪	
紀美野町国保国吉・長谷毛原診療所	地域医療枠	5	岩田　拓巳	多田　明良先生	7 月 31 日㈪	8 月　1 日㈫	
有田市立病院	地域医療枠	5	北畑　亮歩	石亀　綾奈先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	地域医療枠	4	中平　悠馬	岩橋　真子先生	7 月 18 日㈫	7 月 19 日㈬	
県立こころの医療センター	地域医療枠	4	橋爪　智大	魚谷　和史先生	7 月 20 日㈭	7 月 21 日㈮	
ひだか病院	地域医療枠	4	植村　香怜	川端　公貴先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	地域医療枠	3	中西晴奈加	小畑　智彦先生	7 月 18 日㈫	7 月 19 日㈬	
	地域医療枠	2	前北　萌瑛	小林　真生先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	地域医療枠	2	西本　羽那	山本　薫先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	県民医療枠 C	1	美馬　知波	中田久実子先生	8 月 23 日㈬	8 月 24 日㈭	
紀南病院	地域医療枠	3	東本　胡桃	井上　育美先生	7 月 19 日㈬	7 月 20 日㈭	
	地域医療枠	2	須藤　大喜	塩谷　一樹先生	7 月 31 日㈪	8 月　1 日㈫	
	県民医療枠 C	1	木内　大樹	宮脇　正和先生	8 月　2 日㈬	8 月　3 日㈭	
紀南こころの医療センター	地域医療枠	4	榊原　夏葉	林　菜摘先生	7 月 19 日㈬	7 月 20 日㈭	
南和歌山医療センター	地域医療枠	5	和田　愛梨	長井　善隆先生	8 月 17 日㈭	8 月 18 日㈮	
	地域医療枠	2	山本　悠介	仁木　龍登先生	8 月　3 日㈭	—	
白浜町国保川添診療所・白浜はまゆう病院	地域医療枠	5	山下　光	竹井　陽先生 栩野　祐一先生	8 月　7 日㈪	8 月　8 日㈫	
国保すさみ病院	地域医療枠	5	山路　千咲	竹中　雅子先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	地域医療枠	4	冷水　詩音	大橋　豪先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	
	地域医療枠	2	中硲　心優	立石　華穂先生	8 月　3 日㈭	8 月　4 日㈮	

実　習　先	枠	学年	氏　名	対応医師名	実習日 1	実習日 2
くしもと町立病院	地域医療枠	3	石田　聖葉	森　佑熙先生	8 月　1 日㈫	8 月　2 日㈬
那智勝浦町立温泉病院	地域医療枠	5	渕脇　颯太	谷河　育朗先生	8 月　1 日㈫	8 月　2 日㈬
	地域医療枠	4	福井　　凛	塩谷　悠先生	7 月 20 日㈭	7 月 21 日㈮
	地域医療枠	3	中西　歩登	寺本　寛先生	7 月 19 日㈬	7 月 20 日㈭
	地域医療枠	2	万谷　瑞姫	神田　真美先生	8 月　8 日㈫	8 月　9 日㈬
新宮市立医療センター	地域医療枠	5	井上　弘康	井上　慎吾先生	8 月　7 日㈪	8 月　8 日㈫
	地域医療枠	5	濱田琳太朗	西岡　俊彦先生	8 月　1 日㈫	8 月　2 日㈬
	地域医療枠	4	谷上　大典	山田　裕規先生	7 月 26 日㈬	7 月 27 日㈭
	地域医療枠	4	三住　晃士	川村　晃大先生	7 月 18 日㈫	7 月 19 日㈬
	地域医療枠	3	小林　太基	兼久　亮先生	7 月 19 日㈬	7 月 20 日㈭
	地域医療枠	2	西谷　美咲	宮井　優先生	8 月　2 日㈬	8 月　3 日㈭
	地域医療枠	2	野中　逸希	串　雅紀先生	8 月　7 日㈪	8 月　8 日㈫

自治医科大学医学部

実　習　先	学年	氏　名	対応医師名	実習日
橋本市民病院	5	宮本　　理	福井　智也先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
高野山総合診療所	1	井邊　礼子	田村　忠彦先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
	1	中野　智遥		
	1	中森　　蓮		
紀美野町国保国吉・長谷毛原診療所	3	八木　博己	多田　明良先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
有田市立病院	3	古久保遼河	中村　　諒先生 小山　史恭先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
ひだか病院	3	住　　茜音	岡本恵里花先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
和歌山病院	2	小濱　颯汰	加藤　真衣先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
白浜町国保川添診療所・白浜はまゆう病院	5	吉井　稜真	竹井　　陽先生 栩野　祐一先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
くしもと町立病院	2	虎地　美侑	玉置　佑麻先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
那智勝浦町立温泉病院	4	﨑山　晟旺	上野山郁人先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮
新宮市国保熊野川診療所	4	南方　紀香	田島　幸治先生	8 月 17 日㈭ － 18 日㈮

近畿大学医学部

見　学　先	学年	氏　名	見学日
和歌山県立医科大学附属病院	5	福原　惇心	7 月 20 日㈭
	5	山本　梨湖	8 月　4 日㈮

1　橋本市民病院

位　置　和歌山県橋本市小峰台２丁目 8-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

２年生　大饗　光

１．実習施設とその地域の概要・特徴

私は８月２日から３日の２日間にかけて橋本市民病院で実習を行った。橋本市民病院は和歌山県の北東端の県境にある橋本市にある医療機関で地域がん診療連携拠点病院の承認を受けるほか、和歌山県の災害拠点病院、臨床研修病院、へき地医療拠点病院などの指定を受けている。全部で 22 の診療科があり、300 床の病床を有する地域の中核病院である。

２．実習内容

本実習では卒後３年目の総合診療科の生駒彩夏先生にご指導頂いた。１日目の朝、内科全体

でのカンファレンスを行った後、3チームに別れてそれぞれの担当患者についてのカンファレンスを行った。

その後カンファレンスされた方の回診を行った。部屋に入る時は消毒を行い、回診では病気に関係すること以外も聞いていた。誤嚥性肺炎の患者さんの回診では左右の肺の音の違いを聞くことが出来た。

チーム別カンファレンスの様子

昼前から、熱中症で倒れた方の親族の方に家での様子のヒアリングを見学させていただいた。昼過ぎからは救急外来を見学した。高カリウム血症や憩室炎で運ばれてくる方がいた。

2日目も1日目と同様で全体カンファレンスの後チームごとのカンファレンスを終え回診した。回診で1日目に入院された憩室炎の方の腹部診察でエコーを用いた診察を見学できた。

3．考察

まず、状況の変わる患者さんを把握するために毎日カンファレンスに多くの時間をかけ、今後の対応などを話し合って丁寧に精査しているということが、色々な様態の患者さんが来る僻地医療では大切なのだと感じた。

4．謝辞

地域医療枠の先輩の仕事の様子を2日間近くで見せて貰い、自分の将来像を鮮明に想像することができる貴重な体験が出来ました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠B

1年生　鶴見　愛海

1．実習施設とその地域の概要・特徴

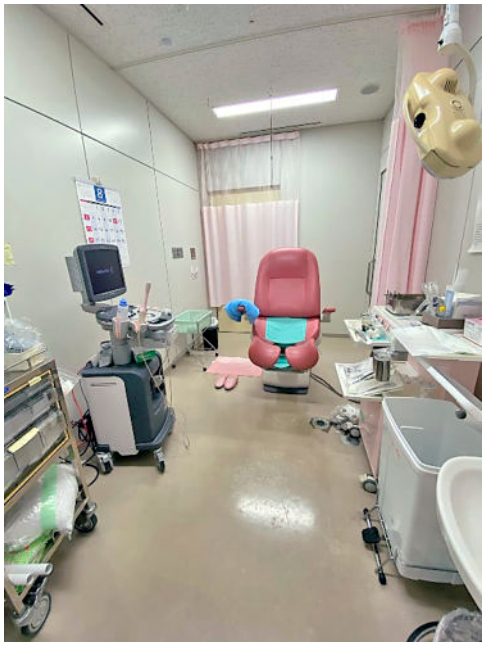
私は7/31，8/1の2日間、橋本市民病院の産婦人科で実習をさせていただきました。橋本市民病院が位置する橋本市は人口59,784人（2023年7月31日現在）の市で、高齢化率は33.3%（2020年）となっています。全国の平均高齢化率は28.7%であることから、全国的にみても高齢化が進行している市であります。立地的には、大阪府や奈良県、和歌山市のどの方面にもアクセスしやすいところにあり、また世界遺産高野山の麓にあり、市の中央には紀の川も流れる、山河の自然が豊かな市です。橋本市の特産品としては柿、卵、ブドウ、紀州へら

竿やパイル織物などがあげられます。

このような橋本市に地域中核病院としてあるのが橋本市民病院です。橋本市民病院は病院の敷地内にバス停があるため、高齢の方でもアクセスしやすくなっています。橋本市民病院の病室構成は個室 75 室、4 床室 54 室、特別個室 3 室、感染個室 6 室で計 300 床の病床があります。また、総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腫瘍内科、血液内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、リウマチ・膠原病科、病理診断科、救急科、健診センターの 28 の診療科があります。職員数は計 458 名で、うち医師 49 名、看護師 204 名、助産師 12 名、薬剤師 12 名のような構成になっています。

2．実習内容

私は 2 日間、産婦人科医の西村美咲先生に担当していただいて、実際の産婦人科の現場を見学させていただきました。1 日目は午前と午後で一件ずつ手術を見学しました。一件目は子宮頸部微小浸潤癌を患った 30 代女性の手術で、術式は腟式子宮全摘術、両側卵管切除術というものでした。また 2 件目は子宮下垂、膀胱瘤を患った 70 代女性の手術で、術式は全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH:total laparoscopic hysterectomy）、Shull 法（仙骨子宮靱帯吊り上げ術）というものでした。


診察室の様子

2 日目の午前は、まず診察に立ち会わせていただきました。一人目の患者さんは帝王切開後の方で、出血確認、内診確認、エコー検査確認、創部の状態確認をしていました。二人目の患者さんは、手術を数時間後に控えた方で、腟内の消毒、エコー検査確認を行っていました。次に病棟案内をしていただき、病棟、診察室、陣痛室、分娩室、新生児室を見学しました。午前の最後には、子宮内膜肥厚を患った 50 代女性の、子宮鏡による子宮内膜の観察を子宮内膜掻爬術という術式で行っているところを見学させていただきました。そして 2 日目の午後は、外来を見学しました。診察室と内診室がどんな感じになっているのかを初めて見ることができました。また婦人科外来ではがん検診・婦人科疾患の診察、産科外来では、妊婦検診や不妊治療を行っているということも教えていただきました。

3．考察

私は初めて手術の一部始終を見て、まだ医学の知識がほぼゼロな状態でありながらも、子宮

全摘というような目的が同じ手術でも患者さんの年齢なども考慮しながら術式を考えているということがわかりました。例えば子宮全摘なら、手術をする患者さんが閉経していないなら、卵巣は残しておくというように、医学を学べば当たり前のことなのかもしれないけど、しっかりと考えられているのだなと思いました。また今回手術室に入って、本当に医療従事者同士の協力体制が必要なのだなという風に改めて思いました。手術を始める前には麻酔科の先生が麻酔をし、手術中には複数の産婦人科の先生が協力してほかの臓器を傷つけないようにして手術を進めていき、看護師の方が器具を手渡すなど医師のアシストをしていて、本当にその場にいる全員が一つとなることで手術はうまくいくのだと実際に目で見て感じることができました。

また産科には、切迫早産の患者や経腟分娩後、帝王切開後の患者が入院していて、婦人科には、術後の患者やがん患者が入院しているということを聞き、私が思っていた以上に幅広い年齢層の方がいると思いました。だからこそ年齢を考えた治療というものが非常に大切になってくるのだと思いました。

4．謝辞

西村先生はじめ関わってくださった方々には非常に多くのことを教えていただきました。本当に貴重な二日間を過ごすことができました。今回の実習で学んだことを今後の勉強にも生かしていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠Ｂ

１年生　中川　隼平

1．実習施設とその地域の概要・特徴

名称 橋本市民病院

敷地位置 和歌山県橋本市小峰台二丁目 8-1

地域・地区 第一種中高層住居専用地区

敷地面積 43,904.08㎡

建築面積 7,640.54㎡

延床面積 23,350.89㎡

構造規模 鉄筋コンクリート造

最高高さ 22.98m

病床数 300 床

診療科目 総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腫瘍内科、血液内科、代謝内科、小児科、外科、乳腺

外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内治療科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、リウマチ・膠原病科、病理診断科、救急科、健診センター

橋本市の特徴：面積 130.55 平方キロメートル、人口、59,874 人（7 月 31 日現在）

「若い世代の希望をかなえる、住んでよかった住みたくなるまち」をスローガンとして、子育て環境・支援の充実、企業誘致、移住定住促進などの課題に取り組んでいるそうです。

2．実習内容

西村美咲先生にお世話になり、1 日目は午前午後ともに手術見学をし、2 日目は午前に診察の見学と病棟案内、手術、午後に外来見学をしました。具体的には、1 日目の午前は 30 代女性の子宮頸部微小浸潤癌に対する、腟式子宮全摘術、両側卵管切除術を、午後は 70 代女性の子宮下垂、膀胱瘤に対する、全腹腔鏡下子宮全摘術と Shull 法（仙骨子宮靭帯吊り上げ術）を見学させていただきました。2 日目の午前は帝王切開後患者の診察において、出血確認、内診確認、エコー検査確認、創部の状態確認と術前患者の診察において、腟内の消毒、エコー検査確認を見学させていただきました。また、入院患者は産科には切迫早産や産後の患者などが居て、婦人科には術後の患者や癌患者がいることを教えていただきました。病棟案内では、病棟、診察室、陣痛室、分娩室、新生児室を見学させていただきました。手術では 50 代女性の子宮内膜肥厚に対する子宮内膜掻爬術での子宮鏡による子宮内膜の観察を見学させていただきました。午後の外来見学では診察室、内診室を見学させていただき、婦人科では、がん検診や婦人科疾患の診療、産科では妊婦健診や不妊治療について実施していると教えていただきました。

3．考察

全腹腔鏡下子宮全摘術ではお腹の中に二酸化炭素を入れていた。これは腹腔鏡手術を行うためにお腹を膨らませる必要があるから入れているのだが、物質が二酸化炭素である理由は、手術で電気メスなどを利用する場合に燃えないようにしているのだと考えられる。また、エコー検査では検査部位にあらかじめゼリーのようなものを塗っていたが、機械と検査部位の間に空気がある場合、超音波が先に進まないため、超音波の伝わりを良くするために使っているのだと考えられる。

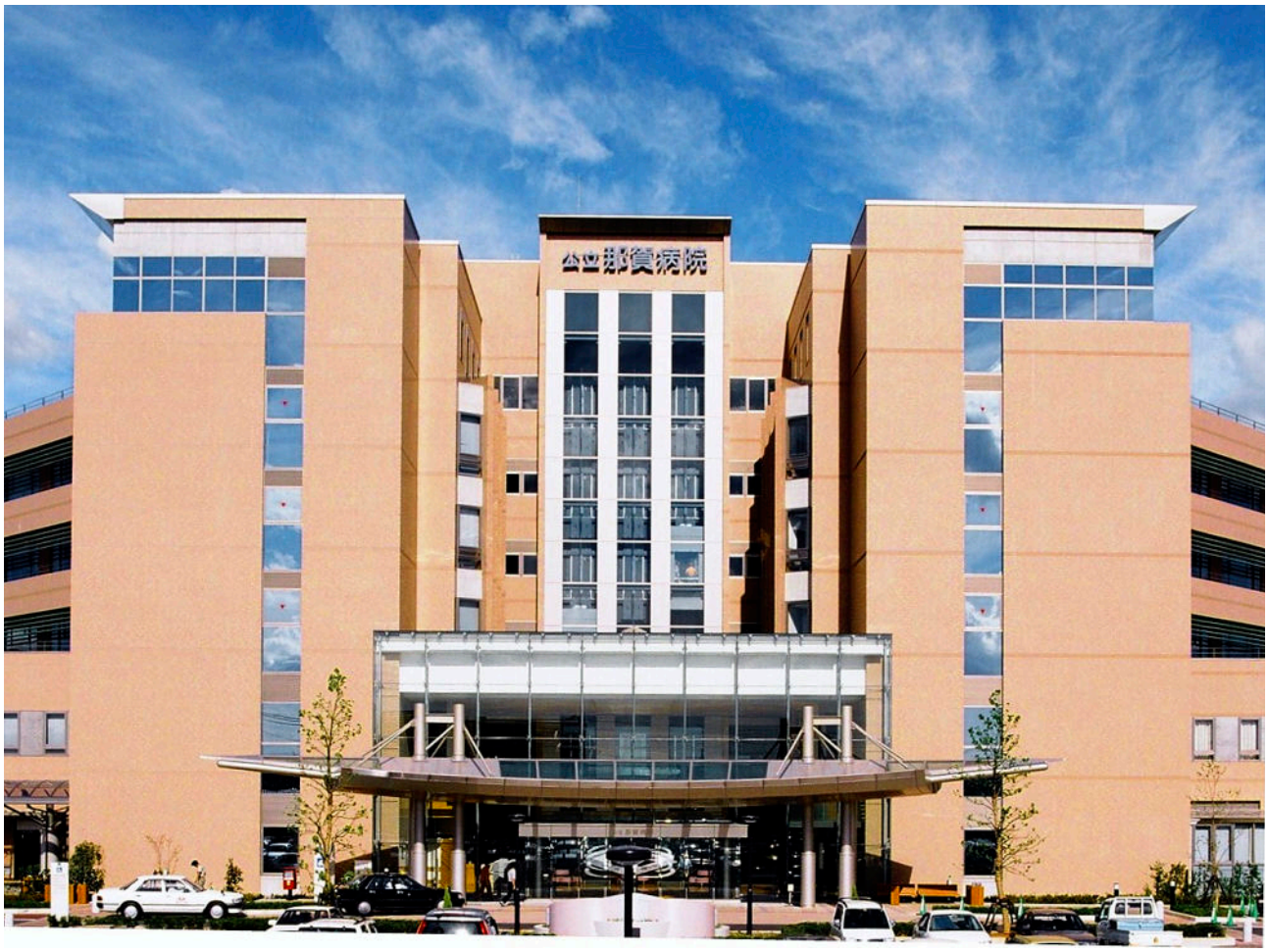
4．謝辞

この実習を遂行するにあたり、終始わかりやすく解説していただいた西村美咲先生をはじめ、橋本市民病院、産婦人科の先生方に感謝の意を表します。実習の実施にあたり、地域医療支援センターの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。また同じ実習の中で鶴見愛海さんには刺激的な意見をいただきました。ありがとうございました。

2 高野山総合診療所

位　置　和歌山県伊都郡高野町高野山 631

3　公立那賀病院



位　置　和歌山県紀の川市打田 1282

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生　榎本　真太

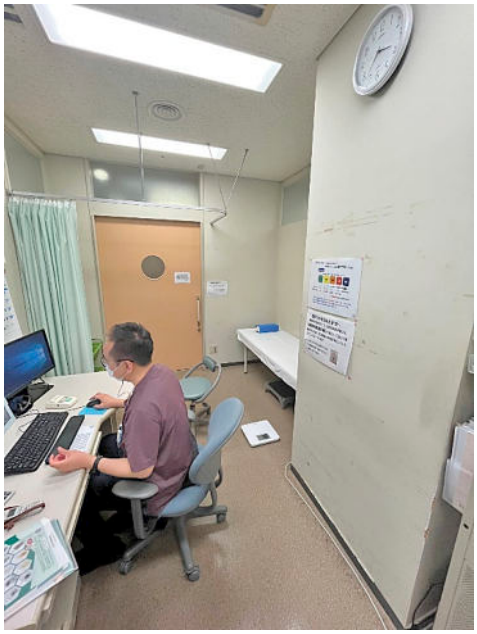
1．実習施設とその地域の概要・特徴

実習施設：公立那賀病院

場所：和歌山県紀の川市

今回の実習で参加させていただいた病院は和歌山県紀の川市にある公立那賀病院である。公立那賀病院の最寄りである打田駅までは紀三井寺駅から和歌山駅まで行き、和歌山線に乗り換え、電車で約 1 時間かかり、和歌山駅から打田駅方面の電車は 1 時間に 1 ～ 2 本であった。打田駅は無人駅で降りると駅から那賀病院までの道のりが分かりやすいように病院の方向を指す矢印→の看板が道のりの途中に複数設置されており、私自身、打田駅に降り公立那賀病院に

行くのは初めてであったが大変分かりやすかった。打田駅から那賀病院までは徒歩で約 5 ～ 10 分であった。紀の川市は南部には紀伊山地があり、市内には紀の川が流れていて自然が美しい町であり、それに伴って農作物が豊富で、桃や柿、いちじくなどの果物の産地であり、特に桃は「あらかわの桃」として有名である。また、伝統のある歴史や文化もあり粉河寺や三船神社などのいくつかの文化財がある。また和歌山県立医科大学の校章にも描かれているチョウセンアサガオを用いて世界で初めて全身麻酔下の外科手術に成功した華岡青洲を輩出している。公立那賀病院は岩出市と紀の川市を合わせた那賀地域の中核となる病院で、診療科としては循環器内科、呼吸器内科などの内科から脳神経外科、呼吸器外科などの外科、救急科や精神科まで合わせて 27 科あり、人工透析施設や化学療法室、血管造影装置や MRI など設備を充実させて医療を提供している。


診察室と中先生

2．実習内容

1 日目の 10 時ごろに病院に到着し、事務の人の指示に従い、先生に挨拶を終え、実習に移った。1 日目は 10 時～ 16 時まで外来患者の診察の見学をした。見学の際には患者さん一人一人がどのような病気を持ち、どのような状態かの説明を受け、今回私を担当してくださった中先生は医大では第一内科で登録されているが実際には消化器系の疾患なども診察していた。実際に見学した診察の疾患としては、潰瘍性大腸炎や糖尿病 1 型、2 型、アルコール性肝硬変、橋本病などの甲状腺疾患、肝細胞癌などがあった。また外来患者の診察とは別に胆嚢炎で入院している患者さんのドレナージを実際に行うところも見学した。そして 16 時からは病棟案内をしてもらい、1 日目の実習を終えた。

2 日目の実習は 9 時から始まり、この日は主に入院患者の回診と救急外来の見学を行った。入院患者の回診では腎臓のサンゴ状結石を治療中の患者さんに実際に取った後の結石も見させてもらった。救急外来では運ばれてきた患者の中に意識レベルが低下し、呂律困難で脳梗塞疑いだったが、実際は低血糖発作であった患者さんや、熱中症で運ばれてきた患者さんなどがおり、それらの治療の様子を見学した。そして 13 時からは内視鏡の見学もさせてもらい、2 日間の実習を終えた。

3．考察

私は前回の地域枠夏季病院実習は精神科で少し特殊な科であったため、大学病院以外の病院

胆嚢炎のドレナージを行った部屋

での内科の実習は初めてであった。実際に見学して内科の医師がどのような１日を過ごしているのかを知ることができた。実際に先生が色々な疾患を診察しているところを見学させていただいて自分の専門科以外の疾患も取り扱うことができる医師にならなければならないと感じた。また和歌山にはそのような総合内科が必要なのだと感じた。また私は４年生で臨床医学の講義を受けている中で出てきた疾患を診察している姿をみて、自分の知識の至らなさと講義の重要性を再確認することができた。これからもより勉学に励み、和歌山の地域に不可欠な医師になりたいと感じた。

４．謝辞

この度は、お忙しい中、病院実習に参加させていただき、ありがとうございました。２日間という大変短い時間でしたが、密度の濃い実習にすることができました。病棟や外来見学、入院患者の回診の見学、内視鏡見学など多くのことを知ることができました。これからの大学の講義を聞く際、今回の実習で学んだことを思い出しながら勉学に励みたいと思います。今回の実習で普段の日常生活、大学の講義では体験できないことをさせていただき、和歌山の地域の中核病院の実態を教えてくださった公立那賀病院の中先生をはじめとした先生方、患者様に深くお礼申し上げます。

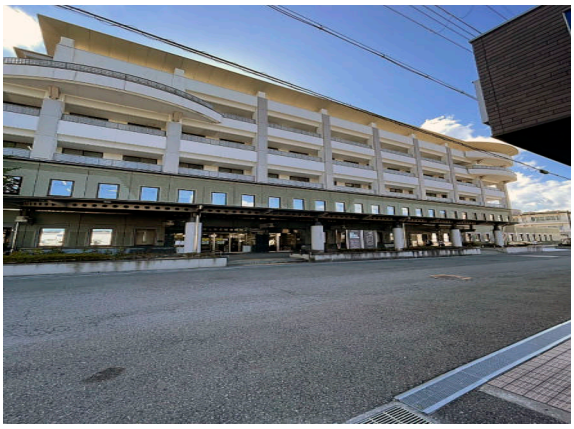
4　国保野上厚生総合病院

位　置　和歌山県海草郡紀美野町小畑 198

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
5年生　浦﨑　杏

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回の実習は、和歌山県海草郡紀美野町に所在する国保野上厚生総合病院で、地域医療枠卒後 8 年目の北綾子先生のご指導のもと行った。紀美野町は人口約 8,000 人で和歌山県の人口の約 0.9％を占めており、65 歳以上の高齢者率が 48.6％と高齢化が非常に進んだ町である。国保野上厚生総合病院は紀美野町内唯一の総合病院であり、病床数



病院外観

は一般病棟 100 床、精神病棟 100 床の計 200 床あり、診療科は内科、外科、眼科、神経精神科、脳神経外科、循環器内科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科がある。常勤医師数は 14 名であり、その他は大学をはじめとした非常勤の医師によって成り立っている。地域の特性もあり入院患者、外来受診患者ともに高齢者の割合が非常に高く、入院患者は 80 代～ 90 代の患者が大部分を占めている。

2．実習内容

実習 1 日目は、まず初めに病院案内をしていただいた。病院内は 1 階、2 階には外来診察室、3 階には手術室や地域医療相談支援センター、4 階、5 階には入院病棟があり、5 階建ての病院であった。病院の周りには栄養管理課や障害福祉サービス事業所のホームぬくもりや、職員専用の託児所であるコスモス保育所があった。病院案内をしていただいた後は、病棟回診の見学をした。入院患者の大部分が誤嚥性肺炎を罹患していることや、入院患者の高齢者率が非常に高く意思疎通が困難な患者が多いことが印象に残った。

実習 2 日目は救急外来、発熱外来の見学をさせていただいた。救急外来受診患者のうち入院が決定した患者がいたため、入院決定時に医師が行う書類業務や患者への説明、家族への説明方法などについて実際の症例を通して教えていただいた。大学の実習では既に入院している患者について学ぶ機会が多いため、入院までの一連の流れを教えていただけて非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、コロナウイルス感染症疑いの患者が来院した際、北先生に代わり今地先生の外来を見学させていただいた。一般外来は 1 日に 20 人前後の患者を診ることが多いと学んだ。大学に比べ 1 日に診察する患者数が少ないため、一人一人の診察時間が長く患者との距離が近い印象を受けた。

3．考察

本実習を通して、地域医療に携わる医師の役割や多職種連携の重要さについて学ぶことができた。地域医療に携わる医師は、常勤医師数が少ない環境で診察を行う必要があるため、幅広い知識を有し様々な疾患の患者を診察できる能力が必要であると感じた。今回実習でお世話になった北先生は腎臓内科専攻医であるが、へき地病院では地域医療枠医師として救急外来の担当を受け持っており、また過去には消化管内視鏡検査を行っていた期間があるとおっしゃっていた。特定の分野で専門性を高めることも非常に重要であると思うが、地域医療枠の医師はある分野で専門性を高めつつ地域医療枠の医師として内科全般の知識や技術を身に着けることができる点が非常に魅力的であると感じた。また、国保野上厚生総合病院のような常勤の医師数、看護師数が少ない病院では看護師や薬剤師、栄養士などといった他職種との連携が密に行われており、将来私自身もへき地の病院に勤める際は、看護師や薬剤師などの職務内容を理解し助けえるような医師になりたいと強く感じた。

4．謝辞

お忙しい中充実した実習を計画してくださった北先生はじめ国保野上厚生総合病院の皆様、2 日間ご指導いただき心から感謝申し上げます。学生生活も後半を迎え医師になる自覚が少しずつ芽生えておりましたが、この 2 日間の実習を受け北先生に教えていただいたこと、学ばせていただいたことが非常に多く、地域医療枠の医師像をより鮮明に思い描くことができました。2 日間、本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学地域医療枠

4年生　土山　徳季

1．実習施設とその地域の概要・特徴

場所：和歌山県紀美野町

実習先：国保野上厚生総合病院

今年度の実習先である国保野上厚生総合病院は海南駅からバスで 20 分ほどの所にある地域中核病院である。近くには貴志川が流れており、自然に囲まれた場所に病院はあった。患者さんの年齢層からも高齢者の方が多い地域だと感じ、実際に調べてみても半分弱が 65 歳以上の高齢者であった。そのため、この地域では国保野上厚生総合病院は高齢の方にとって、疾患を患った時に安心な治療を求められる大きな病院なのだと感じた。

2．実習内容

ご指導いただいた先生：北綾子先生

一日目は９時から実習が始まり、この日は病棟の見学、救急外来の見学をさせていただいた。まずは野上厚生総合病院の病床を見学した。北先生の受け持ち患者さんの回診を見学させていただいた。その次に精神患者病棟に行き、精神疾患で入院されている患者さんのいる病棟を見学した。また、病棟だけでなく、病院勤務の医師や看護師の子供を預けられる保育所も紹介してくださった。最近できた地域医療相談支援センターにもいき、そこでの業務や医師がコミュニケーションをどのように取っているのかを観察した。救急外来は患者さんが全く来なかったので救急患者が来たときどのような場所で処置を行っているのかを見学した。

救急外来の対応室

二日目も９時から実習が始まり、この日は外来患者さんの診察を見学した。

3．考察

国保野上厚生総合病院に見学に行って感じたことはいくつかあった。１つ目は入院している患者さんの疾患に関してである。高齢者の方が多いためか誤嚥性肺炎で食べ物を飲み込むことのできない人が多く入院していたし、外来に来た患者さんの中にも誤嚥性肺炎の疑いのある人がいた。そういった患者さんの多い中､北先生は看護師さんや栄養士さんと頻繁にコミュニケーションをとっており、どういう体勢なら誤嚥せずに食べることができるのか、どういう形状のものなら食べられるのかを相談しているのを多々目撃した。北先生が「この病院は看護師さんもそうだけど、栄養士さんともコミュニケーションをよくとって、それぞれの患者さんにあった食事を提供していて、栄養士さんの方から積極的に話しかけてきてくれて助かっている」とおっしゃっていて、医師としてもとても働きやすい環境だなと感じた。また、救急外来で救急患者が治療する場所を見学したが、その場所が普段外来する診察室より狭い場所で救急の先生も毎日変わり替わりで一人しかいないため、重症の患者さんが来た時にどのように対応するのか気になった。私が見学に行ったときはいいことに救急患者さんが来ることがなかったが、普段はもっと来るということを聞いてその時の状況も観察してみたかった。また、最近できた地域医療相談支援センターにお邪魔させてもらった時、ここで地域のいろんな施設と連携を取って今からくる患者さんの情報などを前もって集めたりしていて、とても感心した。

二日目の外来では、北先生の専門ではない疾患の患者さんが来てその患者さんを診察して、適切な薬を処方しているのを見て地域医療で必要な医師像というものを間近で見ることができてよかった。

4．謝辞

お仕事で忙しい時に見学させていただき誠にありがとうございました。北先生と一緒に働いている看護師さんや栄養士さんと仲が良い様子を見させていただいて、医師と看護師だけでなく、患者さんにかかわるすべての人との関係性の大切さがわかりました。また、専門の科だけ診られたらいいわけではないと頭ではわかってはいても、実際に臨床の勉強を始めてこの膨大な範囲の疾患に対峙しないといけないと考えたら、専門の科だけで手いっぱいになると思っていました。しかし、先生の外来の様子を見て患者さんとの問診から情報をきちんとくみ取って、疾患を鑑別している姿を見て自分もこうなりたいと改めて思いました。来年はポリクリも始まるのでさらに知識を持って地域枠の実習に臨めると思います。二日間ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
3年生　奥村　麗

1．実習施設とその地域の概要・特徴

国保野上厚生総合病院は昭和 24 年に設立され、昭和 53 年 4 月に「へき地中核病院」として指定を受けた。診療圏は和歌山県北西部に位置しており、海南市、紀美野町の 1 市 1 町で構成された一部事務組合によって運営されている。北は和歌山市・紀の川市に、南には「ながみね」山脈が東西に走り有田郡に、東は伊都郡・高野山にそれぞれ隣接し、西は紀伊水道をはさんで徳島県と向かい合っている。気候は温暖で冬でも降雪はほとんどなく、緑豊かな地域である。また、診療圏内 2 カ所の診療所に医師、看護師、薬剤師を派遣している。許可病床数は一般病床（地域包括ケア病床）が 99 床、精神病床が 100 床となっている。診療科目は内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、婦人科、泌尿器科、神経精神科である。その中でも内科、整形外科、神経精神科、眼科の各科に常勤医師を配置している。各種介護保険事業も積極的に取り組んでおり、地域住民の医療・保健・福祉に貢献している。

2．実習内容

1 日目

午前は外来診察の見学をした。福祉施設入所者が多く来院し、付き添いで来た介護スタッフの方に普段の施設での様子やご家族との関係などについて質問しながら診察を進めていたのが印象的だった。また、化膿性の炎症のような皮膚科領域の診察も行っていた。

午後は整形外科の松本先生が学会で発表する予定の資料の解説をしていただいた。骨粗鬆症や圧迫骨折についての資料で、数々のグラフやわかりやすいイラストを用いていて様々な工夫がされていた。その後、病棟見学をした。

2 日目

内科の外来診察の見学をした。既往歴に糖尿病がある患者が多く、現在の治療の様子や処方されている薬なども診察の際に合わせて聞いていた。

3．考察

外来で診察に来た患者のほとんどが 70 ～ 80 代の高齢者で定期的に通院されている方が多く、新患の患者は非常に少なかった。そのため、医師と患者は親しく接することができており、非常にスムーズに診察が進められていた。また、患者からかかりつけ医から処方されている薬

が多く飲むのが辛いので減らしたいという相談を受けていたという点からもその様子が伺えた。新患の患者でもその方の職業や普段の生活の様子などを診察の中で聞き出して今後どのような検査、治療を行うかを素早く判断することができていたのが印象的だった。診察の最後には「他に気になるところや、不安なところはありますか」という一言が添えられており、このようなコミュニケーションの取り方も患者の心配を少しでも取り除くために必要だと感じた。また、病棟見学の際にナースステーションにも伺わせていただいたが、そこで看護師やその他の医療スタッフの方と先日手術をした患者や長期間入院している患者についての情報共有を常に行っていた。これはチーム医療を円滑に進めるためのスタッフ間の信頼関係の構築につながっていると感じられた。さらに、診察の合間には症例についてわからないことがあれば同僚の医師に質問されており、積極的に学ぶ様子が見られとても参考になった。

今回の実習を通して、医師 - 患者間だけでなく、医師 - 医師間、医師 - スタッフ間などその病院に関わる全ての人との信頼関係が非常に重要であるということを学ぶことができた。

4．謝辞

最後になりましたが、今回の実習で担当医を務めてくださった貝持先生、その他お世話になった国保野上厚生総合病院の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。お忙しい中大変貴重なお時間をいただき、非常に有意義な経験となりました。誠にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生　吉野　真登

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回実習でお世話になった国保野上厚生総合病院は、診療圏を和歌山県北西部としており、海草郡紀美野町と海南市の境に位置する和歌山県の中核病院である。紀美野町は人口 8,256 人（令和 2 年 10 月 1 日）、面積 128.34㎢で過疎地域とされている。町内に鉄道は走っておらず、公共交通機関は JR 海南駅から紀美野町の登山口までをつなぐバスのみとなっている。

国保野上厚生総合病院は昭和 24 年、現在地に開設され、昭和 53 年 4 月「へき地中核病院」として指定を受け、診療圏内 2 カ所の診療所に医師、看護師、薬剤師を派遣している。平成 10 年の本館竣工に伴い、順次 CT、MRI 等の高性能の医療機器も買い換え、診療科は内科、整形外科、神経精神科、眼科、泌尿器科の各科に常勤医師を配置している。各種介護保険事業も積極的に取り組んでおり、地域住民の医療・保健・福祉に貢献している。海南市内及び紀美野町内に所在する 6 病院のうち 5 病院は海南市内中心付近に所在しているが、国保野上厚生総合病院だけは紀美野町西部に立地し、へき地医療拠点病院として紀美野町及び海南市東部の地域

医療を担っている。それに加えて紀美野町内のへき地診療所（4か所）も、へき地における地域医療を担っている。

2．実習内容

1日目は午後から担当してくださった師玉先生と今地先生に施設内の案内をしていただいた。師玉先生は発熱外来の方に向かわれたため、今地先生から案内中診療科の数や、病床数、どういった患者さんが多く来られるのか等の説明をしていただいた。その後師玉先生の回診に同行させていただき、その際に患者さんはどういった病気や症状で入院されているのか、また特定機能病院かつ高度救命救急センターである和歌山県立医科大学附属病院及び、高度救命救急センターである日本赤十字社和歌山医療センターと国保野上厚生総合病院の役割の違いについても説明していただいた。その後、今地先生と貝持先生から血圧測定とエコーの体験をさせていただいた。エコーは少しでも当てる角度や位置がずれると臓器が見えなくなるため非常に難しかった。

2日目は師玉先生の午前の外来見学をさせていただいた。見学の際、患者さんが入室する前にどういった症状で受診しに来られたのか、普段はどういった症状の方が多く来られるのか等を教えていただいた。また、心不全の患者さんから許可を得た上で、聴診器を用いて実際に心音を聴かせていただいた。事前に師玉先生から説明があった通り、心音に雑音のようなものが聴こえた。2年生の時点で実際に患者さんの心音を聴くという非常に貴重な経験をさせていただいたことで、医師として働くことの厳しさを実感した。

3．考察

今回の実習を通して感じたことは、地域医療を実践する上で、患者の諸症状から正確に診断する力が非常に重要であるということだ。まず診断をしなければ治療することができないことから、地域医療を行える臨床能力は必要不可欠なものである。診断する能力に加えて、患者と良い関係を構築するためのコミュニケーション能力もまた必要である。師玉先生の外来を見学させていただいていると、軽い雑談などから診察が始まり、患者は自分の抱える症状について話しやすそうに見えた。地域の特性上高齢の患者が多く、その際は大きな声でゆっくりと話されていたのが印象的だった。また、先生が他の先生に患者の検査結果の数値やレントゲンの写真等を見せてどう思うかを相談されている姿を見て、気軽に相談できる医師が近くにいるという点は地域医療枠の優れている部分だと感じた。今回ご指導していただいた師玉先生は卒後3年目ということで、初期研修が終了してまもなく外来をされていたので、自分も将来医師になっ

た際には３年目にはもう外来を担当しなければならないという厳しさを実感した。今はまだ、自分が将来血液検査の数値やレントゲンの写真等から正確に診断できている姿を想像できないが、これからの学生生活や卒業後の初期研修でしっかりと勉強と経験を重ね、地域医療を担うことができる医師になりたいと改めて感じた。

４．謝辞

この度はお忙しい中、貴重な実習をさせていただきまして誠にありがとうございました。病院実習は今回が初めてということもあり、外来の様子や実習先の病院・地域の特徴など多くのことを興味深く学ばせていただくことができました。将来、同じ地域で働いていく自分としましては、その地域の現状を実際に見て学び、働く意志を強められたこと、また同じ地域医療枠出身の先輩と直接お話できたことは、大変大きな収穫であったと思います。二日間丁寧なご指導をいただき、本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠Ｃ

１年生　今西　悠登

１．実習施設とその地域の概要・特徴

国保野上厚生総合病院は和歌山県紀美野町に存在している。紀美野町は人口 7,703 人ほどで、面積は 128.34㎢である。紀美野町の問題としては高齢人口比率が 47.1％と非常に高いことである（和歌山県の平均は 33.4%）。紀美野町の観光名所は野上八幡宮であり、国保野上厚生総合病院から歩いて５分の位置に建っている。

国保野上厚生総合病院は通常の病床が 100 床、精神疾患の患者用の病床が 100 床の計 200 床を持っているので、精神疾患の治療に力を入れているといえる。

２．実習内容

実習先では神経精神科医である田畑倫代先生にお世話になった。１日目の実習では、まず精神疾患の患者の方が入院する閉鎖病棟を見せていただいた。それから、リハビリの現場に連れられ、精神疾患の現場でも多職種の方と連携することが大事であると伝えられた。右の写真はその時に撮ったものである。

このようにリハビリの場はきれいにされており、ここでは歩行訓練のような運動だけでなく絵や編み物をすることができる。特に絵は脳をいい方に

刺激するだけでなく、描き方から患者の状態がわかるとも言っていた。左の写真は、リハビリテーションで見つけた患者が描いた絵である。

最後にデイサービスセンターを案内してもらった。ここでは、デイサービスの利用者が集まって、軽い運動や音楽鑑賞などをしていた。

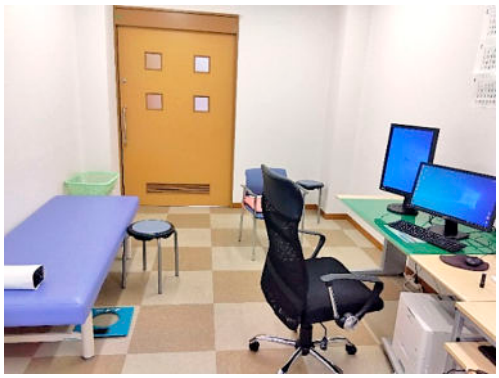
2日目には認知症の診断現場を見せてもらった。認知機能を診断する長谷川式認知テストやMRIが活用されているのを見て、将来に自分がすべきことがイメージしやすくなった。

3．考察

紀美野町は高齢化比率が非常に高い町なので、入院している患者は精神疾患の中でも認知症が大部分を占めていると思っていたが、現実には統合失調症の方が多かった。田畑先生によると認知症の患者はもちろん多いが、入院が必要な人はより統合失調症の方に多いらしい。そのため認知症のかたには、ほかの方に医学的なコストを割くためにも医療以外のアプローチが必要になってくると思った。そしてそのアプローチは具体的に何なのか考えるのは私たちの役割である。

4．謝辞

若輩者である私をご指導していただいた田畑倫代先生並びに国保野上厚生総合病院の職員の皆様、誠にありがとうございました。将来、一緒に仕事できることを願っております。



左の写真は田畑先生の診察室です。私もこの部屋で患者のために全力を注いでいる先生のようになれるように頑張ります。

5 国吉診療所

位　置　和歌山県海草郡紀美野町
野田 63

6 長谷毛原診療所

位　置　和歌山県海草郡紀美野町
毛原宮 254-4

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
5年生　岩田　拓巳

1．実習施設とその地域の概要・特徴

紀美野町は和歌山県の北部に位置し、人口 8,256 人である。そのうち国吉地区の人口は 162 人、高齢化率は 69％、長谷毛原地区の人口は 440 人、高齢化率は 59.3％である。産業は農業が中心であり柿・山椒が有名である。国吉診療所、長谷毛原診療所では、常勤医師数が 1 名であり、設置している検査機器は、X 線・エコー・心電図などがある。周辺の医療機関には、野上厚生総合病院がある。

診療所では、午前中に外来診察を行い、午後からは訪問診療を行っている。診療所それぞれの一日あたりの外来患者数はそれぞれ 12.8 人、19.5 人、訪問件数はそれぞれ、1.3 件、2.2 件である。また、他にも診療所での仕事には、地域サロンでの講話活動や保健事業（乳幼児健診、集団健診）、介護福祉事業（介護認定審査会、高齢者の移動支援）、学校医（内科検診、コロナ関連）、産業医（ストレスチェック、コロナ関連）など様々なことがある。

2．実習内容

7月31日

午前：多田先生の外来見学。

心エコーの使い方について学んだ。

午後：訪問診療に付き添わせていただいた。

8月1日

午前：多田先生の外来見学。

午後：後期高齢者健康診査の手伝いをさせていただいた。

訪問診療に付き添わせていただいた。

3．考察

2日間の実習を通じて、診療所における医療の現場を身近に感じることができた。まず、診療所では幅広い分野の疾患を見る機会があった。一日に診察する患者さんの中には、肩こり、心疾患、肺疾患、癌治療など様々な病気を抱えた方々がいた。このような経験を通じて、医療の現場では診療科や診療所の枠にとらわれず、幅広い知識と経験が認められることを実感した。また、診療所が地域の方々にとって身近な存在であることも感じた。多田先生をはじめ診療所の皆さんは、患者さんとのコミュニケーションをとても大切にされていた。それにより、患者さんの信頼関係が築かれ、一人一人に合わせた医療が提供されていた。患者さんが野菜や果物のお裾分けを診療所に持ってきてくださったり、訪問診療にいく道中で地域の方々とお会いした際に先生と地域の方々で気軽に世間話をされる様子を見て、診療所の皆さんと地域の方々から感じる温かみや思いやりを感じた。この関係性は、診療所ならではの特徴であり、患者さんによりよい医療を提供するうえで大きく関係していると考えられた。地域医療においては、地域の特性や文化を理解した上で医療を提供することが求められる。例えば、地方特有の病気や地域の風土病についての知識が重要であり、地域のニーズに応えることが求められる。この観点からも、患者さんを含めた地域の方々との交流は、その地域特有のことやニーズを知るきっかけにつながり、地域住民の健康状態改善に貢献することができると考えられた。

この実習を通じて、医療現場における幅広い疾患や地域の特性の理解、そして患者さんとのコミュニケーションの重要性を学ぶことができた。これらの経験を活かして、将来、医療者として働く際のスキルや心構えを築いていきたいと考える。

4．謝辞

この度はお忙しい中、2日間実習の機会をいただきありがとうございました。多田先生の豊富な知識や経験から様々なことを学ぶことができ、医療の実践における貴重な指導を受けるこ

とができました。また、看護師さん、事務の方々は、いつも笑顔で対応し、丁寧に教えてくださり、患者さんへの対応や診療の裏側を見る機会を与えてくださり、医療現場の大切な役割を学ぶことができました。今後もこれらの経験を糧に、より一層の成長を果たしていきたいと思います。ありがとうございました。

7 有田市立病院

位　置　和歌山県有田市宮崎町６

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
５年生　北畑　亮歩

１．実習施設とその地域の概要・特徴

有田市立病院は良質な医療を行い、地域医療に貢献し、利用者から信頼される病院を目指すことを理念としている病院である。理念を現実化するために、患者さんの視点に立った医療を行うこと、安全で確実な医療を重視すること、医療サービスを重視し、患者さんに充分な情報を提供すること、他施設との連携を密にし、効率的な医療を行うことを方針としている。有田地方唯一の公立病院としての責務を果たすため、地域の方からより一層信頼していただける病院づくりを目指し、地域医療に貢献している。昭和 25 年 10 月、有田市の前身である箕島町の国民健康保険直営病院として現在地に開設され、以降昭和 29 年の町村合併、同 31 年の市

制施行という開設団体の発展に伴い増大する地域医療の幅広い医療需要に応えるため、施設・設備の充実と診療機能の向上を図りつつ地域住民の健康の保持と増進に大きな役割を果たしてきた。また、令和５年４月１日より公益社団法人地域医療振興協会を指定管理者とし、新たな体制で運営を開始している。

（開設）

昭和 25 年 10 月 25 日

（病院種別）

一般病院

（許可病床数）

一般 54 床、地域包括ケア 99 床、感染症４床

（診療科）

13 科

内科・循環器内科・救急総合診療科・脳神経外科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科である。

２．実習内容

石亀先生から８月３日、４日の２日間ご指導いただいた。

・８月３日（木）

午前　救急外来、有熱外来の見学

午後　入院患者診察

・８月４日（金）

午前　内科外来見学

午後　入院患者診察、リハ室見学

１日目は午前中、救急外来を担当されていた。循環器や呼吸器など幅広い範囲を１人で診察されていた。午後からは担当患者の回診を行った。10 名弱の患者さんを担当されていた。

２日目は午前中、内科外来を担当されていた。１日目と同じく、慢性硬膜下血腫や下肢のしびれなど様々な疾患を取り扱っていた。午後からは担当患者の回診を行った。

３．考察

２日間を通じて感じたことは幅広い分野の疾患を取り扱っていたということである。１日目の救急外来では心不全の患者さんや喘息の患者さんを診察していた。午前中の救急外来は先生が１人で対応し、幅広い知識と全身を診る能力が必要だと感じた。２日目の内科外来も同じく、慢性硬膜下血腫の患者さんや循環器疾患を対応していた。

また、午後からは担当患者の回診を行い、午前に行った検査結果や今後の方針を伝えていた。回診に行く前に伝えるべきことをまとめ、1 人 1 人できるだけ長く対応していたのが印象的だった。高齢の方で自分がなぜ入院しているかはっきりと理解できていない患者さんに対してはわかりやすい言葉を用いて説明していた。

最後に、患者さんとのコミュニケーションはもちろん必要であるが、同じ医師や看護師さんなどともコミュニケーションが必要だと感じた。慢性硬膜下血腫の患者さんに対して今後の方針を決めるときに先輩医師に相談したり、入院の流れを決めるときに看護師さんと協力して計画を立てたりしていたからである。患者さん 1 人に対してチーム全員で対応するためにチーム内での協力が重要であると改めて感じた。

4．謝辞

このたびはお忙しい中、2 日間実習の機会をいただきありがとうございました。貴重なご意見をお聞きすることができ、大変有意義な時間となりました。実習を受け入れていただきました石亀先生をはじめ、有田市立病院のスタッフの皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生　中平　悠馬

1．実習施設とその地域の概要・特徴

有田市立病院は、和歌山県の北西部にある有田市の、有田川河口付近にある。有田市は、人口約 2 万 6 千人、面積約 37km² の市であり、有田郡の中心地である。有田みかんはもちろん、蚊取り線香発祥の地や、太刀魚の漁獲量が日本一であることで有名であり、美しい自然と豊富な食材が特長である。

本院は、昭和 25 年 10 月、有田市の前身である箕島町の国民健康保険直営病院として現在地に開設した。以降、地域医療の幅広い医療需要に応えるため、施設・設備の充実と診療機能の向上を図りつつ、地域住民の健康の保持と増進に大きな役割を果たしてきた。現在は、内科・循環器内科・救急総合診療科・脳神経外科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科の 13 科、一般病床 54 床、地域包括ケア 99 床、感染症 4 床を擁している。

2．実習内容

1 日目

午前　救急外来（有熱外来）見学

病院見学

内視鏡・エコー見学

午後　救急外来見学

2 日目

午前　新患外来

午後　まとめ

2 日間、岩橋真子先生のもとで実習をさせていただいた。

1 日目は、午前に先生が救急外来をされていたので、そちらを見学した。まず、めまいと吐き気が主訴の患者さんが来院された。運動障害や感覚障害等は見られなかったが、念のため CT をしたが、異常はなかった。末梢性めまいを疑い、嘔吐していたことから点滴を行ったのち、経過観察として帰宅させた。その後、時間が少しできたため、先生が病院内を紹介してくださった。新型コロナウイルス感染症患者は増加しているそうで、本館の隣のプレハブでは抗原検査や処方をしていると伺った。また、電話での処方も行っており、実際にこの日も何名かの患者さんに、発熱・せき・喉の痛みの有無、病歴等を聞いて、解熱剤等を処方していた。見学後、内視鏡とエコーの様子をそれぞれ見学し、エコーでは病院長の先生が肝臓の検査をしつつ、丁寧に解説してくださった。昼食前には製薬会社の説明会に参加した。午後からは、肋骨に慢性的な圧痛がある患者さんが整形外科からの紹介で来院された。問診・診察後に CT と採血を行い、異常がなかったため帰宅させた。次に、下肢のむくみと内出血が主訴の患者さんが来院された。この患者さんは、深部静脈血栓症の既往があり抗凝固薬を飲んでいたことで出血傾向となり、圧が上昇してコンパートメント症候群となった。そのため和医大へ搬送となった。最後に、午前にめまいで来院され、点滴後に帰宅された患者さんが、帰宅後に体調を崩したため再度来院された。先生がご本人及びご家族と話し合いをし、入院することになった。

2 日目は、まず昨日めまいで入院された患者さんの病室を一人で訪れ、体調をうかがった。回復されており、午後から退院されそうだとおっしゃっていた。その後、この日は新患外来を見学した。1 人目は脳梗塞で入院中の患者さんで、関節痛に対してステロイドを始めるにあたり、持病の糖尿病のコントロールのために紹介で来られた。同様に、院内で入院している患者さんを他科から紹介されて診察する場面が何度か見られ、他院、他科との連携が重要だと教わった。多くの病院に通われている患者さんにおいては、薬の服用が多くなりすぎていないかを調べ、なるべく減らせないかを考えていた。一方で、内服薬を頓服している患者さんには、定期的に服薬する必要性を丁寧に伝え、患者さんも納得されていた。また、自治体の定期検診で異

常が指摘されて来院される患者さんも多かった。大腸検査にて夫婦で便潜血が陽性と判定され、2 人で訪れた患者さんもいた。内視鏡検査に不安を持たれる奥さんに対して、先生が丁寧に説明していた。さらにこの時期特有の症状として、熱中症の患者さんもいた。昼過ぎまで診察した後、昼食後、まとめをして実習は終了した。

3．考察

昨年、入学後初めて地域の病院を見学し、地域医療を支える医師の病院での姿や、日々の生活を知ることができて以来、この夏季病院実習を楽しみにしていた。

4 年生となって大半の臨床の授業と試験を受けてきたことで、昨年の実習時よりも格段にわかることが増えていると実感した。一方で、まだまだ詳細な知識が身についていないと感じることが多く、現場を見て改めて知識をきちんと身に着けないといけないと思った。

地域枠の先生は 3 年目から現場で新患外来を行うので、専門の上級医がいないところだと大変だとうかがった。また、市中病院で働いている期間は 1 年ごとに転勤することが多いので、先生の負担も大きいが、患者さんの立場からしても、短期間で担当医が変わるのは不安になるだろうと話されていた。人口の少ない地域の医療を支える、地域枠の先生方の責任の大きさを実感した。

エコーの際には、病院長の先生が私に教えてくださっている横で、先生も総胆管の見つけ方などの疑問点を質問し、学ばれている姿が印象に残った。地域医療の場では経験が浅いときから一人で内科全般を診ないといけないので、手技はその場ごとに先輩の姿を見て学び、それをすぐに実践していかないといけないと実感した。来年からはいよいよ私も臨床実習が始まるので、地域医療の現場を意識して先生方の手技を学びたい。

4．謝辞

お忙しい中実習を受け入れてくださった、有田市立病院の皆様、実習にご協力いただいた患者様に御礼申し上げます。担当してくださった岩橋真子先生には大変お世話になりました。救急外来や新患外来では多くの患者さんが来院されて忙しい中でも、先生は私にそれぞれの病気や診察の方法ついてわかりやすく説明してくださりました。また、救急外来時に入院された患者さんの回診をする、貴重な経験もさせていただきました。さらには、入局の話など、キャリアについてのご経験やご展望をうかがうことができたことは、自身の進路を決めるうえでとても大きな経験となりました。本当にありがとうございました。

8　県立こころの医療センター

位　置　和歌山県有田郡有田川町 31

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生　橋爪　智大

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回、私は有田郡有田川町にある県立こころの医療センターに受け入れていただき、地域実習を行った。本レポートでは、本部の医大病院以外における精神医療の実態、診察内容を学習することを目的とし、その実習の内容について記載する。

県立こころの医療センターは和歌山県有田郡有田川町に位置する病院であり、地域での精神医療の中心となっている。診療科目は精神科、内科であり、精神科は県内でも少ない精神救急を行っている。内科は外来のみ行っており、医師は紀南病院から派遣されていると同時に、県

立こころの医療センターからも紀南病院に精神科医の派遣を行っている。

病床数は 300 と多く、精神科の特徴といえる。常勤の精神科医は 2023 年現在で９名であり、うち５人は精神保健指定医である。また、アルコール依存症に力を入れており、アルコール依存症外来を行っている。

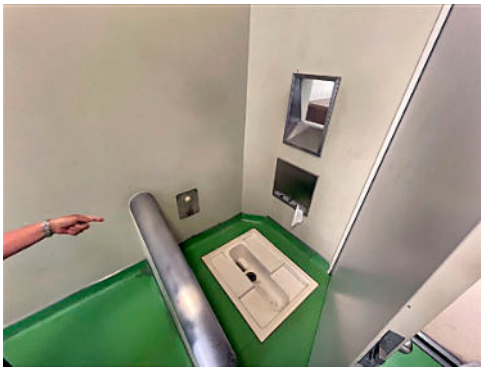


写真 1. 隔離室のトイレ

写真 2. 隔離室の窓、布団

次に施設の構造について記載する。一階には受け付け、外来、リハビリテーション室があり、奥には男性病棟とアルコール病棟があり、男性病棟ではおもに統合失調症患者が入院している。アルコール病棟ではアルコール依存症患者が入院しており、様々な程度、年齢の依存症患者が入院している。2 階には急性期病棟があり、症状の強い患者が入院しており、疾患は様々である。以上が本院において重要な施設であり、以下ではそこで学んだことについて述べる。

2．実習内容

実習は 2 日行われ、1 日目は外来の見学、2 日目は施設見学を行った。

1 日目の外来ではアルコール依存症、躁鬱病に関連したアルコール依存症など、アルコール関連の問題が多いように見えた。次に多かったのは認知症患者であった。両疾患に共通することとして、たいていの場合親族に連れられて来院するという点があった。外来の見学中、何度か診察室外で待機するよう言われることがあった。これは診察するうえで、部外者がいると問題が生じる患者が来たためであり、後に聞いた話では長期間の不登校を主訴とする学生、睡眠中の幻聴を主訴にする患者がいた。

外来の中で最も印象的であったのは、軽度の統合失調症を疑う学習障害の患者である。作業所についての相談をしている際にところどころで「悪口が聞こえる」などの幻聴を訴えていた。こういった目に見えない症状が精神診療の難しさのように感じた。

2 日目では施設の見学を行った。最初に驚いたのは、精神科病棟の扉はどれも鍵がついており、出入りするたびに施錠をしないといけない点である。これは患者の脱走防止のためであり、患者の保護のためでもある。一階の病棟では重度の統合失調患者が入院しており、中には 10 年以上入院している患者もいた。扉は 3 重に施錠されており、荷物のやりとりは小窓から行う。水を自由に摂取できるようにすると水の飲みすぎによる低ナトリウム血症を発症する危険性が

あるため、水の管理は外から行う。アルコール依存症の病棟の患者は外見、言動ともに健常人のそれであったが、アルコールに起因する問題を抱えており、その治療を行うために入院しているとのことであった。2 階には急性期病棟があり、うつ病、ウェルニッケ・コルサコフ症候群、発達障害など疾患も重症度も様々な患者が入院していた。もっとも印象に残ったのは反社会性パーソナリティ障害の患者で、本人も普通の生活は難しいと理解しているため退院しないとの話を聞き、精神科入院の特徴を目の当たりにした。

3．考察

精神科病院の外来では、身体所見が乏しいため他の科以上に患者とのコミュニケーションが重要となり、細かな愁訴から疾患を予想する能力が必要であると感じた。副作用が強い薬を使う場合には投薬を中止する患者の教育も必要である。入院患者は長期の治療が必要となる場合が多く、10 年近くの入院も珍しくないため、長い目で見て治療を行うマインドが必要である。

4．謝辞

実習に協力していただいた精神科医の魚谷先生、県立こころの医療センターの職員の方々、諸々の手配をしていただいた地域医療支援センターの方々、ありがとうございました。

9 ひだか病院

位　置　和歌山県御坊市薗 116-2

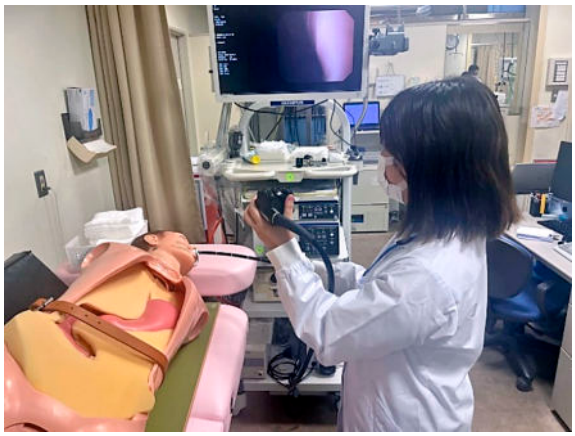
和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
4年生　植村　香怜

1. 実習施設とその地域の概要・特徴

私が今回実習施設として伺ったのは、和歌山県御坊市にあるひだか病院です。ひだか病院は昭和 24 年に設立され、今年で 75 年目をむかえます。御坊市、美浜町、日高川町、由良町、日高町、印南町の一市五町が設立母体です。現在は 367 床、内訳としては、一般 263 床、感染床 4 床、精神科 100 床です。総合病院として、この地域の急性期医療、周産期医療、精神科医療および災害医療等を担っています。19 の診療科を確保しています。またこの病院の特色として、和歌山県内の地域中核病院の中で、唯一、精神科（100 床）を有することです。加えて第 2 種感染症指定医療機関であり、新型コロナ感染が猛威をふるった 3 年間は、ひとつの

病棟をコロナ専用病棟に変換し、56 床の規模で新型コロナ感染症を受け入れてきたという迅速かつ心おける対応をしてきた実績があります。地域の概要としましては、御坊市は和歌山県中部に位置し、人口 21,851 人（2023 年 4 月調べ）の街です。緑を感じながらも生活するに充分たる商業施設などが展開されており、利便性のある場所となっています。

2．実習内容



実習の日は朝 9 時に内視鏡室に集合し、今回お世話になった消化器内科の川端先生と合流しました。合流後は、内視鏡検査を見学させてもらいました。また、ミーティングルームで数名の医師と、仕事の話や数年後医師として従事する自分にも関係あるであろう生活等の話を伺いました。その後、人体模型を先生が用意してくださり、実際に内視鏡検査の体験をさせてもらいました。手元を動かすだけでなく、モニターにうつる体内と自身の体の向きを変えながら、作業をするという指導をしていただきました。また、その後は外来の見学もさせていただきました。患者さんが診察室に入室する前は、カルテを入念に確認し、患者さん診察時には、口頭だけでなく、身体を触診することも時にはしながら、個々の病気に合わせた診察を心がけているであろう姿を目にしながら学ばせていただきました。

3．考察

私が実際、身体の不調を訴え病院を訪ねるときによく思っていたことがあります。それは、どうしてこんなにも診察までの待ち時間がかかるのかということです。患者にとって目に見える医師の仕事は患者の診察です。ですが、今回の病院実習を終え、医師が個々の多様な患者にしっかりと向き合うためにいかなる行動を取っているのか非常に理解することができました。問診票に記載された訴えだけに目を向けるのではなく、患者の態度や姿をみて、他の異変に気付き声をかけていたのは印象的でした。また、先生は、この病院は最期を迎える人も多い、だからこそ、彼らが、どこで、だれと、最期を迎えるのかではなく、迎えたいのかに重点をあてながら、診療することが大切なのだとおっしゃっており、胸に響きました。仕事としてのみ関わる医師の姿ではなく、そこには 1 人の人間として感情をもった接し方を患者さんにしていて、私の憧れる姿そのものでした。

4．謝辞

最後にはなりますが、コロナウイルスが猛威をふるいはじめた頃 2020 年に大学に入学した

私にとってこのように実際医療の現場に出向き、学びを得る機会をいただけたこと非常に感謝しております。今回お世話になったひだか病院の川端先生は、患者に一様の態度で診察するのではなく、それぞれの患者に合わせた声や診療提案等を行っていました。連日朝早くから遅くまで勤務するなか大変なことは多いと思いますが、時には冗談を言い、周りを明るくするそのはつらつさが病院内の人たちに笑顔をもたらしているのではないかと強く感じました。このような医師としての鏡の様な方のそばで本実習に臨むことができ、自身のモチベーションにも繋がりました。再度にはなりますが、臨床医学を学ぶ今４年生のときに病院でリアルを見ることができたのはとてもよかったですし、これを機にもっと成長したいと思いました。このような実習を企画してくださった方々、ひだか病院で出会った医療スタッフ、患者の方々すべての人に感謝を申し上げます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

３年生　中西　晴奈加

１．実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院のある御坊市は紀中地域に属しており、紀中地域には有田市と御坊市の２つの市があるが、有田市が紀中地域の最北端に位置し、御坊市は紀中地域のちょうど中心程に位置している。和歌山県御坊保健医療圏は、面積が579.02km²、人口60,324人、高齢化率34.10%（65歳以上）である。ひだか病院は、災害拠点病院・へき地医療拠点病院に指定されている。ひだか病院は1949年に御坊町外11ケ村国保組合が母体となり国保日高病院として設立され、1979年に複数科の増設に伴い国保日高総合病院と改名し、令和元年にひだか病院と改名された。ひだか病院の診療科は、消化器内科、糖尿病･内分泌内科、循環器内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科、救急科がある。病床は、一般病床が263床、精神病床100床、感染症病床が４床であり、総合病院としてこの地域の急性期医療、周産期医療、精神科医療及び災害医療等を担っている。

２．実習内容

１日目午前　　ERCP見学・外来見学
１日目午後　　内視鏡検査見学
２日目午前　　内視鏡検査見学
２日目午後　　内視鏡検査見学

1 日目の午前はまず、ERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）の見学をさせていただいた。これは消化器系の検査の中で難しいらしく、週 1 回ひだか病院に来てくださる先生からアドバイスなどをもらいながら行っていた。今どのあたりを管が通っているかなどを映像を見ながら教えていただいた。その後外来見学をさせていただいた。4､5 人の患者さんの対応を行っていた。患者さんのほとんどが 70 代から 80 代で、血尿のため診察に来た患者さんや腹痛のため、胃ろうをつくってもらうためなど様々な患者さんがいた。消化器内科では薬を出すだけで診察が終わるのではなく、血液検査や CT 検査、内視鏡検査など様々な検査を行って治療することが多いことを学んだ。1 日目の午後、2 日目は内視鏡検査の見学をさせていただいた。去年の実習では 3 分程度の見学だったが今回は 5､6 人の患者さんの内視鏡検査をはじめから最後まで見学させていただいた。10 分程度で検査が終わるときもあれば、痛がって動いてしまう患者さんや腸のある部分で屈曲の強い患者さんの場合は 30 分程度かかるときもあった。今どのあたりに到達したかや管の入れ方のコツなどについて教えていただいた。

3．考察

実際に医療現場を見学させていただき、貴重な経験を積むことができた。3 年生で臨床の授業をまだ受けておらず分からないことが多かったが、解剖の授業を受けたり、病理の勉強をしていたので去年よりは理解できることや聞いたことのある単語が増えていた。地域の病院ではご年配の患者さんが多いので、大きな声でハキハキと少しゆっくりめに話し、わかりやすくやさしい口調で伝えることが大事だと感じた。また、看護師さんと情報を共有している様子も見られ、医療はチームで行われるものであると改めて認識した。若手の医師は先輩医師から症例検討やアドバイスをもらうなど少しでも分からないことがあれば質問や相談をし業務に取り組んでおり、医師になってからも様々なことを勉強してスキルアップすることの大切さを感じた。

4．謝辞

この度はお忙しい中、2 日間実習を受け入れてくださった、小畑先生をはじめひだか病院の先生方、ありがとうございました。普段の勉強では学ぶことのできない貴重な経験をさせていただき、たくさんのことを学ぶことができました。今回の実習で学んだことを生かせるよう、より一層勉学に励みたいと思います。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
2年生　前北　萌瑛

1．実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は御坊市の紀州鉄道紀伊御坊駅から徒歩3分のところに位置する。ひだか病院は昭和24年に御坊町外11ヶ村国保組合が母体となり、国保日高病院として設立され、今年で75年目を迎える。設立以来、御坊市、美浜町、日高町、由良町、日高川町、印南町において地域中核病院として医療を担っている。診療科は消化器内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科、救急科がある。病床は一般病棟263床、精神病床100床、感染症病床4床の計367床で、ひだか病院の特色は、和歌山県内の地域中核病院の中で唯一精神科（100床）を有することである。

2．実習内容

一日目

10時から12時　外来見学

松野先生に指導していただき、外来を見学させていただいた。松野先生は毎回患者さんのおおまかな病名を教えていただきCT画像などをみせていただいた。薬の名前はわかるものがなかったが、病名はわかるものもあり勉強してきたことを実際に使われている様子を間近に見ることができた。糖尿病の患者さんが多く年代も高齢の方が多かったが若い方もいらっしゃった。ほかにもバセドウ病、橋本病、末端肥大症などの患者を外来で診察されていた。

高血圧の患者の血圧コントロールについて先生に教えていただいた。高血圧の患者さんには血圧を下げるように薬を出すが、血圧が下がりすぎるとしんどくなる。そのため若い患者さんにはしっかりと基準の血圧まで下げるような指導をするが、高齢の患者さんには基準の血圧まで下げてしまうと逆にしんどく感じる方もおられるのでそこまで基準をしっかり守る必要はないと教えていただいた。

また他の科や他の病院にかかっている患者さんもいて、他の科での診察を考慮した上で互いに連携をとっている姿を目にし、連携の大切さを学ぶことができました。

外来の診察室には、患者さんと医師の目の前に四ヶ月分のカレンダーがあっていて二週間ごとにマグネットがついており、先生も患者さんも次の診察を決める際にわかりやすくなっていた。

13時から17時　研修医の方と院内見学

午後は研修医の中野先生と串上先生につきそわせていただいて病院内を見学させていただいた。中野先生担当の患者さんで先日ペースメーカーをつけた方の様子見に付き添わせていただ

いた。高齢の方だったので大きい声ではっきり伝えられており、また方言を使っていたことが印象的であった。その後、串上先生担当の糖尿病の患者さんに糖尿病合併症の検査のため、腱反射と音叉による検診をさせていただいた。膝蓋腱反射とアキレス腱反射、音叉の順に実際にさせていただいた。先生は、検診の前にうまくできるように何回か練習をさせて下さり、音叉は内果にあてることや振動を感じる時間の正常値などを教えていただいた。またなぜこの検診を行うのかについても教えていただいた。糖尿病合併症は神経、眼、腎臓の順に進行する。その初期段階である神経の検査にあたる。また検診後、結果が芳しくなかったので、神経に合併症が進行していると患者さんに説明し、進行を遅らせるために治療を頑張っていきましょうと説明なさっていた。最後にエコー検査の実践をさせていただいた。中野先生にエコー検査を当てさせていただいた。部位ごとにプローブを変えたり、持ち方を教えていただいた。エコー検査を当てる際の注意事項などを実践で教わることができた。

中野先生に今度の学会で発表する症例についての話を聞かせていただいた。コロナ後にバセドウ病と眼筋型重症筋無力症候群を発症された患者さんの話を聞いた。

二日目

午前　外来見学

小林先生に指導していただき外来見学をさせていただいた。

午後　病棟・精神科棟見学

病棟を見学させていただいた。その後併設されている精神科棟の見学もさせていただいた。聞いたことはあったが実際見たことがなかった保護室を初めてみせていただいた。精神科棟は病棟に入るには職員のみがもつ鍵が必要で、患者さんが外に出てしまうことを防ぐために毎回しっかり鍵をかけていることが印象的だった。

3．考察

地域医療枠でのキャリア形成についても教えていただき、一人で診察するために研修医のときから知識や経験を積んでおかなければならないのだとひしひしと感じた。また、外来や病棟での診察の様子を見学し医師の仕事を間近に見ることができた。同じことを伝えるのでも、どう言った方が患者さんに伝わりやすいか、どう言った方が安心感があるのかを常に考えながら言葉を選んでいることに気づいた。伝え方もしっかり学んでいく必要があるのだと感じた。

4．謝辞

最後になりましたが、この度お忙しい中実習を受け入れてくださった小林先生、ひだか病院のスタッフの皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。実習を通して、実際の医療現場を見ることができ、また地域医療を支える医師に必要なことを理解できました。モチベーションの向上となりました。今後の学業に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
2年生　西本　羽那

1．実習施設とその地域の概要・特徴

実習施設の概要・特徴

ひだか病院の特色は、和歌山県内の地域中核病院の中で、唯一、精神科（100 床）を有することである。これにより、地域医療の柱である五疾患（がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、六事業（周産期、救急、小児救急、災害、へき地医療、新興感染症対策）を単体で遂行することが可能になっている。また、第 2 種感染症指定医療機関であり、新型コロナ感染症が猛威をふるったこの 3 年間は、ひとつの病棟をコロナ専用病棟に変換し、56 床の規模で新型コロナ感染者を受け入れた。人口の超高齢化による社会構造の著しい変化の影響で、疾患のありようは以前に比べ変貌し、急性期病床だけでなく回復期病床の重要性が高まっている。そのため、ひだか病院では、急性期に対応する HCU8 床と一般病床 173 床の他に、回復期に対応するための地域包括ケア病棟 52 床と脳卒中や整形外科疾患、心筋梗塞後のリハビリを行う回復期リハビリ病棟 30 床を有する。これにより急性期から回復期にかけて、余裕をもって入院治療を続け、切れ目のない医療を提供している。さらに、救急医療にも力を入れており、救急医療に迅速に対応するという医療の原点に立つということで、信頼できる病院として地域のセイフティーネットを守るという役割を果たしている。

地域の概要・特徴

ひだか病院が位置する御坊市は、2023 年 7 月 31 日の時点で人口は 21,713 人、世帯数は 10,867 世帯である。有名なチェーン店や映画館が集まるストリートもあり、生活や娯楽にそこまで困らないように感じた。紀三井寺駅からだと 1 時間少しで到着したり、近くに駅があったりと、アクセスにも問題無さそうな様子であった。

2．実習内容

ご指導いただいた先生

精神科の山本薫先生をはじめとする多くの方々

実習の時間割と内容

1 日目

10:00 ～ 11:30　担当医の外来見学（精神科）

患者さん本人が診察に来た外来と、患者さんは来ずに患者さんのご家族の方とケアマネジャーさんが来て認知症の患者さんをどのようにサポートしていくかを話し合う外来を見学させていただいた。

11:30 ～ 13:00　休憩

13:00 ～ 15:30　訪問リハビリ見学

訪問リハビリに行く方の車に乗せていただき、実際に患者さんの家にお邪魔して訪問リハビリの様子を間近で見学させていただいた。3 名の統合失調症の患者さんの家を一緒に回らせていただいた。

15:30 ～ 16:00　病棟見学

精神科の病棟を普段の業務などを担当の先生に説明していただきながら回った。

16:00 ～ 16:20　質問対応

担当の先生に、精神科についての質問に答えていただいたり、地域医療枠の先輩として将来についての相談にのっていただいたりした。

2 日目

9:00 ～ 10:00　精神科デイケアについての説明とデイケア内の案内

まず、作業療法士の方から精神科デイケアとはどのようなものなのかについて説明していただいた。その後、デイケア内を説明しながら案内していただいた。

10:00 ～ 10:30　ラジオ体操と朝の会

利用者さんたちと一緒にラジオ体操をし、朝の会では自己紹介をさせていただいた。

10:30 ～ 11:30　午前のプログラム（ペタンク）

2 チームに分かれ、最初に投げて基準となった球に向かって順番に球を投げていき、その基準の球の最も近くに自分の投げた球を止めることができたチームに点数が入るというようなペタンクというスポーツに利用者さんたちと一緒に参加させていただいた。

11:30 ～ 12:30　総合病院の精神科の特色などについての説明と質問対応

総合病院の精神科の特色について担当の先生に説明していただいたり、質問に答えていただいたりした。

3．考察

外来を見学させていただき、精神科ではカルテの書き方が他の科の書き方とは少し違うということを教えていただいた。精神科のカルテでは、医師の質問と患者さんの答えを言った言葉そのままで記入していて、さらにはそのときの患者さんの態度や表情などについても事細かく記入しているということを初めて知り、とても興味深いと思った。精神科では、他の科のよう

に特別な検査などがあまりないため、診断を外来でのやり取りで判断しなければいけない分、後から見直しても外来時の様子を詳細に思い出すことができるようにカルテに正確に記入することが大事なのだろうと考えた。

また、訪問リハビリでは、ただ単に体調確認をして業務を淡々とこなすのではなく、普段の悩みごとを聞いて一緒に解決策を考えたり、たわいもない世間話をしたりとコミュニケーションを大事にしていた。精神疾患の患者さんは偏った考え方になりやすく、さらに世間との繋がりが薄い方が多いため、訪問リハビリを通してコミュニケーションの機会や他の人の意見を聞く機会を増やす目的もあるということを学んだ。

最後に、総合病院の精神科の特色としては、他の科に入院している患者を診ることが多いと聞いた。精神科は認知症と関連が強く、他の科の入院患者さんも高齢者の方が多いため、精神科の診断が必要になることも多いと聞いた。このようなことからも、ひだか病院の精神科の患者さんは若い人よりも高齢者の方のほうが多いそうだ。地域の特色が医療にもよく表れていると感じた。

4．謝辞

最後になりましたが、山本先生をはじめとするひだか病院の皆様、この度はお忙しい中、貴重な時間を割いてくださり、誠にありがとうございました。この度の実習では、外来の見学、訪問リハビリの見学、デイケアの見学などのさまざまな経験ができるようにと計画してくださり、とても有意義な 2 日間を過ごさせていただきました。また、質問にも丁寧に答えて答えてくださり、多くのことを学ばせていただきました。今回の実習で学んだことを今後に活かし、日々精進したいと思います。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠Ｃ

1 年生　美馬　知波

1．実習施設とその地域の概要・特徴

ひだか病院は 1949 年に御坊市に設立された。御坊市は人口が 2.748 万人、面積が 43.91㎢であり、紀中・日高地域の中核都市である。ひだか病院で働く人の多くが和歌山市から車で通勤している。ひだか病院の許可病床数は、一般病床 263 床、精神病床 100 床、感染症病床 4 床の計 367 床で診療科には、内科、小児科、産婦人科、外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、精神科、整形外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、形成外科、リハビリテーション科、救急科がある。ひだか病院は和歌山県内の地域中核病院の中で唯一精神科を有し、5 疾患 6 事業を単体で遂行できる。また、産科に関しては年間 400 件の分娩を取り扱っている。

2．実習内容

今回は産婦人科の中田先生にご指導をいただいて、2 日間産婦人科で実習させていただいた。

実習の時間割

《1 日目》

午前　：　お産見学
　　外来診療見学

午後　：　帝王切開見学
　　卵巣腫瘍摘出手術見学

《2 日目》

午前　：　帝王切開に関する講義

午後　：　帝王切開見学
　　卵巣腫瘍摘出手術見学

実習内容

今回、幸運なことに 1 日目にお産を見学することができた。妊婦さんは 2 度目の出産ということで子宮口が全開してから約 30 分で赤ちゃんが生まれ、比較的早いお産であった。初産婦であれば約 2 ～ 3 時間程度要する。生まれた後は胎盤を出したり、赤ちゃんの動きや肌の色を見て健康に異常がないかをチェックしたりする様子も見学させていただいた。その後は、妊婦健診の様子を見学させていただいた。内容は、おなかの張り具合や薬などについての相談、子宮の検査であった。午後からは手術見学をさせていただいた。妊婦さんは、以前子宮筋腫切除の手術を受けていたため、子宮破裂の危険を防ぐために帝王切開での出産であった。手術の影響で癒着がみられ、執刀医の方が術後、難しい手術だったとおっしゃっていた。赤ちゃんが出てきたとき寒くないよう、手術室は汗をかくほど暖かくしてあった。赤ちゃんは 10 分前後で生まれた。手術の後半、緊張と暑さのためか気分が悪くなったので、少し休憩してから卵巣腫瘍摘出手術を見学させていただいた。患者さんは若い女性だったため、傷口が小さい腹腔鏡手術であった。切除した卵巣腫瘍を見て、触らせてもらった。これで 1 日目の実習は終了した。

2 日目は曽和先生に帝王切開についての講義をしていただいた。以下にその内容の一部を述べる。帝王切開は年々増えており、現在の日本では出産の約 20％を占める。これは助産師の数を考慮した場合の産科医の数が多いことが一つの要因である。帝王切開は自然分娩と比べてリスクが大きいため、これを減らすためにひだか病院では助産師の教育に力を入れている。また、逆子を正常な位置に戻すこと、帝王切開の経験がある妊婦さんの自然分娩にも力をいれている。そのため、ひだか病院では帝王切開の割合が約 12％と少ない。講義を終えると、午後は 1 日目と同様、帝王切開と卵巣腫瘍摘出手術を見学させていただいた。卵巣腫瘍摘出手術は患者さ

んが高齢であることから、手術時間が短く負担が小さい開腹手術であった。これで２日間の実習が終了した。

３．考察

今回私は県民Ｃ枠で産科医志望ということで、産婦人科のみを二日間実習させていただいた。手術見学や診察見学など初めてのことばかりで学ぶことがたくさんあった。まずお産の現場では、痛みに寄り添う声、母親の不安を和らげる声がけ、いきむタイミングでの声がけなどたくさんの声がけがきこえてきた。現場では母親、助産師、産婦人科医、小児科医全員が一体となっているのを感じた。そして、出産は命懸けときいていたが、実際に自分がその場に立ち会ってみるとそのことをとても実感し、母の偉大さに感動した。また、帝王切開の現場では一瞬の気の緩みも許されない状況で、とても緊張感があった。どちらの出産でも赤ちゃんの産声が聞こえたとき、安心と喜びを感じた。そして卵巣の手術については、卵巣腫瘍という同じ病名でも手術の方法が異なっていた。このことから患者さんの年齢や体型などを考慮して、患者さんにあった方法で手術を行うことの大切さを学んだ。妊婦健診については見学時間が少し短かったので、次回はエコー検査なども含めてより長い時間見学させていただきたいと思う。

この実習を通して、自分が将来医者として働くことを改めて実感した。また、手術には集中力・理解力・判断力・手先の器用さ・忍耐力が必要であることを知り、今後の学生生活で身につけていきたいと思った。そして手術だけでなくほかの様々な場面でも自分に足りていない医師になるうえで必要なことに気づくことができ、この実習はとても貴重な機会であった。

４．謝礼

この度はお忙しい中受け入れてくださったひだか病院の皆様、担当してくださった中田先生、そして地域医療支援センターの皆様、貴重な機会を設けてくださり心より感謝申し上げます。地域の医療に貢献したいという気持ちと産婦人科医になりたいという気持ちがより高まりました。今回学んだことを忘れず、より一層勉学に励み、学生生活での様々な経験を通して精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

10 和歌山病院

位　置　和歌山県日高郡美浜町和田 1138

11 紀南病院

位　置　和歌山県田辺市新庄町 46-70

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生　東本　胡桃

1．実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は田辺市に位置する。昭和 20 年に、近隣の農業会と国民健康保険組合の共同出資により、地域住民のための病院として「紀南病院」の名称で開設して以降、地域中核病院として、救急医療、災害医療及び周産期医療などを提供している。地域基幹病院として 23 診療科 356 床（感染病床 4 床）の体制で診療を行っており、病棟も急性期病床を担う 7 病棟に加え、在宅復帰を目指す患者を支援する回復期のための地域包括ケア病棟を 1 病棟設置している。地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関、救急告示病院、和歌山県災害拠点病院、へき地医療拠点病院、洋上救急協力医療機関に指定され、7：1 看護

体制も整備している。特に心疾患治療に関しては、心臓センターも開設しており、循環器内科と心臓血管外科が共同して 365 日 24 時間体制で診療を行っている。

2．実習内容

スケジュール

【1 日目】

10:30 ～ 12:00　外来
14:30 ～ 15:00　外来
16:00 ～ 16:30　カンファレンス

【2 日目】

10:00 ～ 11:20　心エコーの見学
13:30 ～ 13:50　入院患者の診察
14:30 ～ 15:00　救急外来の見学

実習内容

今回の実習では、内科の井上育美先生の下で見学させていただいた。1 日目は外来患者の診療の様子を見学させていただいた。外来診療では、ペースメーカーを装着した患者さんの診察や尿潜血や貧血、肺炎などの様々な症状の患者さんたちの診察が行われていた。カンファレンスでは、患者さんに対する診断について様々な方向から意見交換がなされていた。

2 日目は、まず心エコーの様子を見学させていただいた。午後から、肺炎で入院される患者さんの診察の様子を見学させてもらい、その後、救急で運ばれてきた患者さんの診察の様子を見学させていただいた。

3．考察

内科の外来では、様々な症状を訴える患者さんが来院する。患者さんの話を聞いたり、外見上の変化などを観察することにより、疾患の候補を絞っていく。はじめに、主症状を聞いた時点でどのような疾患が考えられるか、あらかじめ予測した状態で診察することで、より詳細に候補となる疾患を絞っていくことができるとわかった。観察力と同様に、外来を訪れた患者さんから短時間で症状や過去の病歴について聞いたり、身体の状態について正しく理解してもらうためにわかりやすく説明しる必要があったりする中で、改めてコミュニケーションの重要性を感じた。また、内科だけで診療を行うのではなく、複数の検査を行い、他の診療科と連携して多面的に患者さんへの治療が行われているとわかった。さらに、医師だけでなく看護師や検査技師の方々など多くの方と連携して、患者さん一人一人に向き合っていることがわかった。

ここでも、他の医療スタッフと円滑に情報交換を行ったりするためにもコミュニケーション力が大切になると感じた。

心エコーによる検査を行うことで、表面上はわからない心臓の弁の動きや心嚢内の様子がわかり、どのような病気なのか様々な面から検討されていることがわかった。また、現在治療していても続発性がある疾患の場合の今後の患者さんに対するリスクやそれを踏まえたうえでの治療方針なども考えられていることがわかった。

また、救急外来では、意識レベルが低下した患者さんが搬送されてきた場合、患者さん自身から身体の状態について聞くことが難しい場合が多い。その場合は、患者さんの身体全体を観察、診察し治療を行うため、より一層観察力が必要になるとわかった。

4．謝辞

最後になりましたが、この度お忙しい中実習を受け入れてくださった、井上先生をはじめ、紀南病院の皆様に厚くお礼申し上げます。今回の実習で学んだことを今後に生かせるよう、より一層勉学に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生　須藤　大喜

1．実習施設とその地域の概要・特徴

紀南病院は、終戦直後の昭和 20 年 12 月に田辺市・白浜町・上富田町・みなべ町の 1 市 3 町によって開設され、現在は和歌山県田辺市新庄町に位置している病院であり 23 の診療科と 356 の病床を持つ。内 ICU は 8 床あり、オープンの形としてさまざまな診療科の先生が利用する体制である。また、紀南病院は地域がん診療提携拠点病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院を初めとする多くの施設認定を受けており、健康診断や疾患治療、がん診療、周産期医療、救急医療など幅広い医療を提供している。

田辺二次医療圏は和歌山県の中で最も大きな医療圏であり、紀南病院が位置する田辺市と、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町から構成されている。2020 年の国勢調査によると、田辺二次医療圏の人口は 120,871 人、高齢化率は 34.20%、人口密度は 76.50 人となっており、全国平均と比べるとそれぞれ高齢化率は 28.00%、人口密度は 338.20 人となっており、田辺二次医療圏は全国的に見ても高齢化、過疎化が進んだ地域であることがわかる。

2．実習内容

○ご指導頂いた先生　塩谷 一樹　先生

○実習の時間割

7月 31 日（月）	午前	病院見学
		予診外来見学
		ICU 見学
	午後	病棟見学
8月　1 日（火）	午前	救急外来見学
		CT 室見学
	午後	内視鏡見学
		ICU 見学

○実習の内容

1 日目はまず紀南病院内を案内して頂いた後、一般内科の予診で外来患者が訪れるのを待ち、実際に患者の問診を見学させて頂いた。その後 ICU を見学し、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症となった現在でもコロナ患者の集中治療室があった。私が見学した際の ICU 患者は全員高齢者であった。昼食をとった後、午後は病棟（コロナ病棟以外）を見学し、ナースステーションにも入らせて頂いた。ナースコールの対応はもちろん、患者の健康状態がかかれていたり、カルテがおいてあったりいろんな記録が置かれていて多くの業務があると知った。

2 日目は午前中に救急外来の見学をさせて頂いた。塩谷先生の救急用の携帯電話に電話がかかってくると一階の救急外来へ行き救急車から搬送されてきた患者に問診、触診を行い適切な検査を行っていた。実習日の患者に付き添い、CT 検査室に入らせて頂き CT 室、CT の撮影を見学させて頂いた。自身が CT を受けることはあっても検査する側の部屋に入るのは初めてだったので新鮮な体験だった。午後は健康診断で胃カメラを行っている患者の内視鏡見学をさせて頂いた。映像は非常に見やすかったが、内視鏡自体は外から見えないので、操作が非常に難しそうだと感じた。1 日目に続き 2 日目も ICU へ行き、気管挿管の状態を見させて頂いた。口から挿管する経口挿管を受けている患者と、喉に穴を開けて経気管挿管を受けている患者がいた。ICU では一日中患者のバイタルチェック、睡眠薬を含むさまざまな薬の準備がされていた。

3．考察

問診では患者の体調の変化から考えられる病気を推測して、さらにその病気からどのような症状、兆候が現れるかを考え患者にこのような兆候が起きてないですか、などと尋ねあてはまる兆候があるとその病気に罹患している確率が高いとして、どのような検査を行うべきかを決定し、「○○科でこの検査を受けてください。」というように、他の診療科との連携を行いながら医療を行っているとわかった。他の診療科との連携が重要であること、医師は病気に対する

知識の深さだけでなく、兆候からどのような病気が考えられるかも広く知っている必要があることを再確認し、患者との円滑なコミュニケーション能力に加え医師含む医療スタッフとのコミュニケーション能力も非常に重要であり、また医学を体系的に記憶して扱えるようになることが必須条件であると気づいた。

初めて ICU に入らせて頂いたが、私は ICU を集中治療室という名前から重篤な状態にある患者を集中的に治療する、つまり手術室のような場所だとイメージしており、治療が終わり次第病棟に移って療養するのだと考えていたが、実際はそんなことはなく、ICU 内でベッドが並んでおり一日中 24 時間常に患者の状態を確認している場所であり、常に血圧や脈拍が測られ点滴により薬の投与がなされていて、体調に変化があった際は対応できるように患者のすぐ近くに薬が並べられていた。

救急外来は、紀南病院では救急の先生がいるわけではなく当番制で、幅広い年齢、症例を持つ患者を診ることになるため非常に幅広い医学的な知識を有する必要があると知って驚いた。また、先生は朝に病棟患者の回診を行った後に外来患者の問診を行いながら病棟患者の体調の変化にも気を払い、外来と病棟を行き来しながら医療を行っていて、ただ目の前の患者だけでなく自身が担当している患者のことも考えている必要があると知った。医師として多くの業務を同時並行しながら行えるスキルも必要だとわかり、医学の勉強に加え広い視野を持てるようになる必要があると思った。

4．謝辞

この度はお忙しい中私たちの実習を受け入れてくださった紀南病院の皆様、ご指導して頂いた塩谷先生、夏季実習を企画してくださった地域医療支援センターの皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。今回初めての病院実習、見学をさせて頂き、この 2 日間が私にとって非常に貴重な体験となりました。これからより勉学に励むのはもちろんのこと、多くの人とコミュニケーションをとり、広い視野を持てるように一層励んでまいりますので、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。この度は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部県民医療枠Ｃ

1 年生　木内　大樹

1．実習施設とその地域の概要・特徴

田辺保健医療圏は 1 市 4 町（田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町）により構成されている。また、田辺保健医療圏の総人口は、減少の一途をたどると推計される一方で、75 歳以上高齢者人口は 2040 年をピークに増加していく見込みである。人口規模は、和歌山保健

医療圏に次いで大きい圏域であるものの、地理的に県面積の 30％を占めることから分かるように広大で、山間地域を中心に高齢化の進行が顕著であり、圏域内においても人口構造の地域差が見られる状況である。このような高齢化の進行による医療需要の増加や疾病構造の変化に対応するための医療連携体制の構築が必要である。

田辺保健医療圏の中に位置する紀南病院は、平成 17 年に和歌山県田辺市新庄町に移転し、地域基幹病院として 23 診療科 356 床の体制で診療を行っている。紀南病院は、災害拠点病院、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修病院、第二種感染症指定病院、その他多くの学会の認定施設となっており、紀南地方の医療を支える施設の一つとなっている。特に、小児科は紀南地方で唯一 NICU を有しており、紀南地方の新生児医療を支えている。実際、和歌山県内にある和歌山県立医科大学の関連病院としては、和歌山県立医科大学付属病院に続いて、二番目に多い小児科の年間外来数、年間入院数である。また、関連施設として紀南こころの医療センターがあり、精神科の診療を行っている。

2．実習内容

8 月 2 日、3 日の 2 日間、小児科の宮脇正和先生のもとで実習をさせていただいた。実習の時間割は、以下の通りであった。

1 日目　午前　小児科の外来の見学をした。
　　午後　NICU の見学をした後、再び小児科の外来の見学をした。
2 日目　午前　小児科の外来の見学をした。
　　午後　乳幼児健診の見学をした。

NICU の殺菌管理の厳格さについてお話いただいた。また、小児医療と成人医療の違い（大人に採血するときは針を押さえるが、子供に採血するときは押さえないなど）について教えていただき興味深く感じた。見学中には、何度か医学的な質問していただいたが答えられなかったので、次の機会があればもっと勉強してからいきたいと思った。

3．考察

今回の実習では、医師が患者の入退院を決定する過程、退院後のフォローを行っているところを実際の現場で見ることができた。外来の見学の時は、研修医の先生について見学させていただいたので、将来自分が医師になっている姿を想像することができた。また、上級医によるフィードバックが綿密で、医療をより良くしようといる熱意が感じられた。紀南病院では主治医制をとっており、研修医も患者を担当するので責任が重い分、より一層鍛えられるように思った。今回の

実習の中で、小児科は患者さん本人とその保護者に伝えるという特殊な診療科であることが分かった。特に、患者さん本人にも理解してもらうことのハードルが高いので、難しいことを分かりやすく伝える技術が必要だと感じた。このような技術は、大学在学中でも身につけることができると思うので、以後精進していきたいと思う。

4．謝辞

この度はお忙しい中、私たちのために夏季病院実習を計画していただいた地域医療支援センターのスタッフの皆様、病院実習を引き受けていただいた紀南病院のスタッフの皆様、特に宮脇先生をはじめとする紀南病院小児科の皆様に心より感謝申し上げます。この度の研修を通して小児科医になりたい思いが強まりました。この度の経験を活かして、今後の勉学に精進していきたいと思います。ありがとうございました。

12 紀南こころの医療センター

位　置　和歌山県田辺市たきない町 25-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生　榊原　夏葉

1．実習施設とその地域の概要・特徴

紀南こころの医療センターは、和歌山県田辺市たきない町にある、公立紀南病院組合が運営する病院である。田辺市は、和歌山県中南部に位置する市で、人口・経済の点で和歌山県第二の都市であり、和歌山県南部の経済・産業の中心地でもある。この病院は、1956 年に開設された歴史ある病院であり、病床数は 198 床となっている。田辺医療圏域内で唯一の精神科病院として精神障害者の地域生活支援と長期在院患者の自立生活支援を含め、精神科医療全般を担っている。また、和歌山県精神科救急医療システム整備事業の中で精神科応急入院指定病院と精神科救急医療施設として 24 時間体制で精神科救急患者に対応している。

2．実習内容

実習全体を通して、担当の林先生を始め、病院長の糸川先生、桐村先生、福島先生、平田先生、看護師の方、精神保健福祉士の方、作業療法士の方など、たくさんの方にお世話になった。

1 日目

始めに病院内の見学をした。主に患者さんが交流をするための大部屋や、入院施設などを見学させていただいた。入院病棟はいくつかに分かれており、通常の見た目の入院部屋でも鍵なしの部屋もあれば鍵付きの部屋もあり、症状がさらに重い患者さんは、鍵付きの鉄格子の部屋に入院されていた。その後、林先生の回診に付き添わせていただいた。双極性障害で入院している患者さんや、統合失調症で理由不明の足のそう痒感を訴える患者さんのお話を聞いた。その後、初診の認知症患者さんの認知度スクリーニングテストを見学させていただいた。スクリーニングは、患者さんと臨床心理士さんが一対一で行われ、長谷川式認知症スケールや、MMSE が使われていた。それが終わると、同じ患者さんの外来診察を見学した。担当の先生が、ケアマネージャーさん、患者さんの奥さんに、患者さんのこれまでの病歴や認知機能がいつごろ落ちてきたのか、今の生活で一番困っていることは何なのか、服薬歴や施設への通所の状況などについて細かく問診していた。その中で、認知症にはいくつかの種類があることや、その種類によっては薬の適用がないものがあること、また服用しても根本から病気が良くなるわけではなくて、対症療法が治療のメインとなることなどをしっかりと説明されていた。また、家での介護ができかねるとおっしゃる奥さんに対して、他人に暴力を振るうなどの重症さがみられない場合なかなか入院は難しいため、ケアマネさんを通じて早急に入所可能な施設を探すようにアドバイスする場面も見られた。

訪問看護で足の浮腫を
確かめている様子

お昼からは訪問看護に付き添わせていただいた。統合失調症で妄想があり、かつ足腰の痛みにより病院に 1 人では通えないおばあさんの訪問をした。訪問では、最近の体の調子を聞いたり、血圧や体重の測定をしたり、ケアマネージャーさんやヘルパーさん、看護師さんが共同で記入しているノートを見て近況を把握したりということを行った。統合失調症の薬の副作用で常に口渇を感じ、水分を 1 日に 2 リットル以上飲むため水中毒になっていたり、妄想で家の外から人の気配がするから怖いといった発言をしたりする様子も見られた。

2 日目

午前中は、病棟の精神科作業療法の見学をした。病棟に入院している患者さんが、一つの部屋に集まって、卓球をしたり、編み物をしたり、木のかごを編んだり、折り紙をしたり、塗り

絵をしたりと、様々な活動に取り組んでいた。作業療法士さんが患者さんに、編み物や木のかごの編み方を教えていた。途中で外の散歩の時間があり、私も同行させていただいた。その後、認知症の医療保護入院の患者さんが来院されたので、入院に至るまでの流れを見学させていただいた。医療保護入院は、患者さんの同意を得られない場合に家族の同意を得て成り立つ入院である。今回の患者さんの場合は、夜間せん妄で本人の自覚がなかったため、本人は入院を希望していなかったが、同居する息子さんにとって介護が重荷となっていること、DV の可能性も見られることから、短期の医療保護入院となった。その後、担当医の桐村先生から、治療計画書や服薬指導の PC での作成について教わった。

午後からは、デイケアの見学をした。午前に見学した精神科作業療法と内容は似通っていたが、精神科作業療法は病棟の患者さんが行うもので、デイケアは外来の患者さんが行うものであるという違いがある。デイケアで今年から始まった取り組みとして、野菜の栽培も見せていただいた。患者さんや、発案された先生が交代で水やりをしており、出来上がった野菜は患者さんが持って帰るそうだ。デイケアの終わりには、「終わりの会」といって患者さんがその日の感想を 1 人ずつ述べていく会もあり、何となく学校に近い雰囲気を感じた。

その後、また外来に移動し、不眠の患者さんの初診を見せていただいた。一ヶ月程前から急に眠れなくなった患者さんで、近医にて睡眠薬を処方されているがそれでも眠れないという。また、不眠に伴って血圧も急激に上昇しているそうで、それを心配して来院された。先生は、まず一ヶ月前に大きな出来事やショックな出来事はなかったか、現在心配事はないか、興奮することや気分が落ち込むことはないかなど問診をし、不眠以外の精神疾患がないことを確かめていた。次に、患者さんの 1 日の生活を聞き、生活の中で不眠に繋がる問題行動はないか確かめていた。その上で、まず服薬指導の前に、夜寝る前のテレビやゲームの使用を避けること、無理に寝ようとせずに眠くなってから布団に入ること、寝る前に温かい飲み物を飲むことなどの生活指導をしていた。また薬については、内科で今まで出されているベンゾジアゼピン系の薬は依存性があることや、アルコールに近い形で意識を朦朧とさせて寝させるタイプのお薬であることを説明し、今回は覚醒睡眠のリズムを整えるタイプのお薬でアプローチを試みることを伝えていた。

3．考察

紀南こころの医療センターは、医師だけでなく看護師、作業療法士、精神保健福祉士など、多職種で密に連携を取って日々の診療を行なっていることが分かった。また、外来診療の見学を通して、精神科は患者さんをその時の症状や検査結果だけで見るのではなくて、どういった人生を歩んできたのか、これから生活していくためにどういった援助が必要なのか、といった過去から現在、未来にかけて患者さんを診ていくという特徴があり、そのような診療の仕方はとても魅力的だなと感じた。

4．謝辞

2日間の実習を通して、担当の林先生をはじめ桐村先生、病院長の糸川先生、福島先生、平田先生などたくさんの方にお世話になりました。休憩時間に滞在させていただいた医局の雰囲気もとても良くて、居心地の良い2日間を過ごせました。院長先生も気さくな方で、非常にフレンドリーに接してくださり有り難うございました。元々精神科に興味があって紀南こころの医療センターを希望しましたが、実習を終えてさらに精神科への興味が増しました。本当に有り難うございました。

13 南和歌山医療センター

位　置　和歌山県田辺市たきない町 27-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生　和田　愛梨

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回実習させて頂いた南和歌山医療センターは、平成４年７月１日に、国立医療機関にふさわしい機能の質的強化を図るため、「国立病院・療養所の再編成計画」に基づき、国立田辺病院と国立白浜温泉病院が統合し、国立南和歌山病院として設立された。そして、平成 16 年４月１日に、独立行政法人化により国立病院機構　南和歌山医療センターに改名された。和歌山県紀南地域を主たる診療圏として、がん・循環器疾患に対する医療、脳神経外科を主たる対象とする救急医療などの診療体制の強

化を図り、基幹病院として地域医療を担っている。一般病床数は 316 床で、診療科は呼吸器科、消化器科、循環器科などの内科、整形外科や脳神経外科などの外科を含め 25 診療科がある。また、救急医療（救命救急センター（三次救急）、二次救急、病院群輪番制病院）体制について、ICU2 床、HCU20 床を整備して 24 時間体制で心筋梗塞・脳卒中・頭部外傷などの重篤患者への集中治療・手術などを行っている。

南和歌山医療センターがある田辺市は、和歌山県の南部に位置し、人口は 68,844 人（2023 年）で、和歌山県内では和歌山市に次いで第 2 位である。龍神温泉や湯の峰温泉など有名な温泉資源に恵まれており、世界遺産の熊野古道や熊野本宮大社など歴史的文化資源を数多く有しているため、外国人の来訪も多いことが特徴である。

2．実習内容

1 日目の午前には定期外来の見学をさせていただき、通院している患者さんは 70 ～ 80 代と高齢の方が多いことや、山間部に住んでいたり家族が都市部に出て行ってしまったりして病院に来ること自体が負担になっている方がいることを教えていただいた。午後には入院患者の回診を見学し、今困っている症状について話を聞いたり、薬の飲み方について相談したりしている様子を見せていただいた。

2 日目には新患外来の見学をさせていただいた。新患外来では、コロナで咽頭痛を訴える方からの問い合わせに対応したり、日本紅斑熱疑いの患者さんが来院された際には保健所と連携して対応したりしている様子を見て、地域に根ざした医療のあり方について学ぶことができた。

3．考察

今回の病院実習を通して、医師が患者さんの主訴から重要な項目を整理して鑑別診断を考え、必要な検査をオーダーするまでの実践的な過程を実際の地域医療の現場で知ることができた。そして、患者さんは高齢の方が多く、入院した後なかなか自宅に戻れず退院できなかったり、介護できる人がいなかったりなど、少子高齢化社会の現状を思い知らされた。地域の病院は大学病院などと比べて、不明熱や腹痛など漠然とした症状で来られる方が多いため、自分の専門とする領域の専門的な知識だけではなく、幅広い科の内科的知識も必要不可欠であることを学んだ。また、今回の実習では地域医療枠出身の先生に卒後の具体的な流れや志望科の考え方などについての貴重なお話を聞くことができ、本当に有意義な経験になったと思う。

4．謝辞

最後になりましたが、お忙しい中時間を作って優しく指導して下さった長井善隆先生をはじめ、今回の実習を企画して下さった地域医療支援センターの皆様、南和歌山医療センターの皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
2年生　山本　悠介

1．実習施設とその地域の概要・特徴

南和歌山医療センターは和歌山県の中南部、田辺市に位置する 316 床の中規模病院である。田辺市は海や山など豊かな自然と、「世界遺産熊野古道」に代表される歴史と伝統の町で、病院は観光地としても有名な南紀白浜まで車で 15 分ほどの場所にある。当センターは田辺医療圏で唯一の地域医療支援病院であり、田辺医療圏は田辺市以外にもみなべ町や白浜町なども含んでおり、和歌山県の医療圏で最も広い。当センターは超急性期から終末期、在宅医療まで患者さんの多様な状態・状況に応じた医療サービスを提供できる病院であり、地震等の災害時の医療救護活動において、中心的な役割を担う災害拠点病院でもある。その他、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、認知症疾患医療センターなどの専門医療にも携わっており、多彩な機能を有している。

2．実習内容

実習日程
8 月 3 日(木)
9：00　カルテのチェックを見学
10：00　施設見学
12：30　薬説に参加
(予定されていた日程は 2 日間であったが、先生との予定が合わず、1 日間の実習となった。)

実習内容

今回の実習は、３年目の内科の仁木 龍登先生の元で行われた。仁木先生は、腎臓内科を専門とされているが、内科全体を見る立ち位置にいらっしゃる。つまり、外科の先生から頼まれて、血糖値のチェックをしたりして、専門内科の先生も交えて相談し、患者さんの処置を決めていく。先生は自分で、何でも屋と表現されていた。だが、どんなことでも経験することができるという利点があるとおっしゃっていた。他にはカルテを見てどのように抗生剤を変えていくかなどの仕組みを学んだ。入院時に行う、抗生剤や点滴を変えたりするという処置を施す際に、ウイルス感染の症状や認知症が進みやすくなる、ということもおっしゃっていた。ちょうど試験を終えたばかりの生理学の分

野も関わっており、大変興味深かった。

施設見学では、南和歌山医療センターが三次救急に強いということもあり、救急の設備が充実しているように感じられた。

薬説という、薬剤会社が医者向けにする説明会に参加した。新たな薬などを推奨したりするものと聞いていた為、難しい話で理解できないと捉えていた。しかし、偶然仁木先生がカルテのチェック時に話されていた血糖値のチェックをするのに採血をせずにスマートフォンで常時チェックできるリブレという商品の説明であった為、楽しく理解することができた。

3．考察

施設見学の際に仁木先生が担当されている方の入院部屋にお邪魔させていただいた時に次のことが印象に残った。優しくゆっくりとハキハキとした言葉遣いをされており、一方的な説明ではなく、相手に何か気になることがあるかを聞かれていた。外来の患者にも同様に接するように心がけているのだろうと感じた。

また、カルテのチェック時に仁木先生がおっしゃっていたことが印象に残っている。それは、医師として働き出してから重要なことである。大学で莫大な量を勉強するが、全ての知識を頭の中に完璧に残すことは難しく、発展し続け医学の世界では分からないことだらけである。その為、分からないことをすぐに聞ける人を周りに作ったり、調べられるものをすぐに引き出せるようにスマートフォンに保存するなどの工夫が大事であるそうだ。

4．謝辞

大変お忙しい中、今回の夏季病院実習を計画してくださった地域医療支援センターの方々、私たち学生を引き受けてくださった南和歌山医療センターの皆様、そして多くのことを経験させてくださった仁木先生には心より感謝申し上げます。今回学んだことで、自分が医師になった時のイメージが少しできた上、これからの勉強のモチベーションにもなりました。

14 白浜はまゆう病院

位　置　和歌山県西牟婁郡白浜町 1447

15 川添診療所

位　置　和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野 1103

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生　山下　光

1．実習施設とその地域の概要・特徴

川添診療所は和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野に位置し、川添地域は 200 人程の人口である。担当医は 3 人で診療科は内科である。検査機器は、X 線・心電図・超音波検査がある。医療機関として、白浜はまゆう病院と直接連携している。

2．実習内容

・実習 1 日目（川添診療所）

実習内容としては、主に外来を見学した。

患者の年齢層としては、80 歳前後の人が多く、その日は午前と午後合わせて 5 人の患者さんの診察を見学した。診療所の主な仕事内容としては、外来・検診・ワクチンなどがあるとおしえていただいた。

先生は診療所での外来に加えて、白浜はまゆう病院の担当患者についてのフォローも遠隔で行っており、終始忙しそうな様子だった。

・実習 2 日目（白浜はまゆう病院）

実習内容としては、施設案内をしていただき、病棟訪問を一緒に回らせていただいた。施設として、介護医療院や保健センターが院内にある点が印象的だった。病棟は急性期病棟と地域包括ケア病棟に主に分かれていた。

3．考察

2 日間の実習を通じて、地域での一般内科としての働き方を学ばせていただいた。

患者さんは高齢の方が多く、残りの人生を考えたとき、積極的な治療介入が必要かの判断はとても大切だと感じた。例えば、透析導入についてだ。腎機能が大幅に落ちた時に透析を考えるが、一度透析を始めると一生しなければならず、また血液透析の場合は週に 3 回、4 時間も病院に拘束されることになり患者さんの QOL に大きく影響する。治療による QOL 低下と本人の残りの人生、その点を患者さんの家族も含めて十分に話し合い、治療を進めていくことが大切だと感じた。

また、診療所には全体的には病勢の安定した患者さんが訪れてくるが、心筋梗塞や脳梗塞などの患者さんも来るため、緊急を要するかの判断は大切であると感じた。例えば、往診に行った際に、患者さんが寝ていた時、それを寝ているだけと捉えるかそれとも意識障害と捉えるかその見極めは大切である。間違えるはずがないだろうと思う人もいるだろうが、見落としてしまうとそれだけで患者さんを殺してしまうため、十分注意することが必要である。

地域の病院では、専門医だけでなく外傷や日常でよく見られる疾患に幅広く対応できることが大切で、また、医師の数が少ないからこそ他科同士の繋がりがより大切だと感じた。専門医となったとき、自分の専門以外は診られない医師は地域では通用しないということを実習を通して肌で感じた。将来、自分の専門を持ちつつも、一般内科的な幅広く診られるスキルをつけていけるよう、今後のポリクリや研修を回っていきたいと思う。

4．謝辞

この度は、お忙しい中、病院実習の機会を頂きまして、誠にありがとうございました。2 日間、一般内科の働きについて栩野先生の近くで、現場の雰囲気を感じ取ることが出来たことは、私にとってとても良い経験になりました。今回の実習で得られた貴重な経験をもとに、今後の学生生活や研修に励んでいきたいと思います。ご指導をいただいた皆様、またこの度の実習を企画していただいた皆様に、心から感謝しています。ありがとうございました。

16 すさみ病院

位　置　和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見 2380

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5年生　山路　千咲

1．実習施設とその地域の概要・特徴

すさみ町は紀伊半島の南南西部に位置しており、白浜町、古座川町、串本町と隣接する、太平洋に面した町である。令和 5 年 7 月 31 日時点で総人口は 3,623 人、そのうち 65 歳以上の人口は 1,730 人と高齢者が半数近くを占めている。主要な産業としては農林漁業と観光が挙げられる。レタス栽培が盛んであり、ストックやカスミソウなどの花卉栽培も行われている。漁業は黒潮本流に近いことから、カツオ、ヨコワ、ブリなどが水揚げされている。

国保すさみ病院は、常勤医師は 5 名、診療科は内科、外科、リハビリテーション科があり、病床数は一般病床 48 床、療養病床 24 床の計 72 床設置されている。外来だけでなく、訪問看

護も実施されており、ドクターカーも設置されている。さらに、すさみ町が町内の山間地域に開設している佐本診療所、大鎌診療所、大附診療所の３つの診療所に対する医師の派遣も行っている。また、現在の病院は、南海トラフ地震で想定される津波浸水区域内であることや人口減少、建物の老朽化を理由として、より高台に新築移転されることになった。移転先の病院は今年の秋頃に開業予定である。

2．実習内容

・１日目

11：30- オリエンテーション

12：00- 昼食

13：10- 佐本診療所見学

15：30- 新築移転先の病院見学

16：00-17：00 映画鑑賞

・２日目

9：00- 外来見学

12：00- 昼食

13：00- 映画鑑賞（続き）

13：45-14：15 病院案内

3．考察

オリエンテーションにて大学病院と地域の病院の違いや地域医療において実施されている取り組みなどについてお話を伺った。地域の病院では、単に病気を診るだけでなく、その患者の生活や周りの環境、経済的な面においても目を向け、手助けやアドバイスなどができる能力が必要となってくることを理解した。さらに、現時点での健康の維持・増進を図り、病気になることを防ぐ予防医療にも力を入れることが求められているとも感じた。

続いて、国保すさみ病院が医師を派遣している３つの診療所のうち、最も患者数が多い佐本診療所の見学をさせていただいた。佐本診療所は、国保すさみ病院から車で約 20 分の位置にあり、週に１回、木曜日の午後に診療を行なっている。１日の患者数は 10 人前後で、実習日の患者数は８名であった。患者

の年齢層は 80 ～ 90 代が多く、診療所へのアクセスとしてバスがあり、そのバスが集落を回って患者の送迎が行われていた。診療所にて実施可能な検査としては、血液検査（結果は次回受診時にて患者に伝える）、血糖値測定、心電図検査のみであり、より詳細な検査を行える設備は設けられていない。そのため、診療所では問診に加えて前回受診の際に行った血液検査の結果や聴診、浮腫や黄疸、脈といった身体所見から正常か異常かを判断し、疾患の有無を推測していく必要があると感じた。また、ある患者において、体重測定の結果を見ずとも痩せてきていると判断されていたことなどから、診療所に訪れる患者の多くは長年通われている人々であるため、医師はその患者の性格や生活環境、今までの経過などをよく理解されていることが伝わってきた。

診療所見学後、移転先の病院の内部を見学させていただいた。まだ工事中ではあるものの、中はほとんど完成されていた。より高台に建てられているため津波の心配もなく、また天井が高く、木の香りがして、外からの光がよく入る設計となっており、医療者、患者のいずれにとっても、安心できる空間になると思われた。病院の前には広い屋根が設置されており、これは災害時にてより多くの患者を診ることができるようにと設けられたと聞き、災害に備えて様々な工夫が施された病院になるであろうことが大変理解できた。

映画鑑賞では、マイケル・ムーア監督の『SiCKO』というアメリカの医療保険制度における問題をテーマとしたドキュメンタリー映画を観させていただいた。アメリカでは、日本と違い、まず医療保険に加入することが難しく、命を守るはずの医療保険が正しく機能しておらず、救えるはずの命が救われないという事実に衝撃を受けた。この映画を通して、日本の保険制度がいかに人々の健康を支えているのかを知ることができた。

外来見学では、一人一人に対して優しく丁寧な対応をされていたことが大変印象的であった。大学での実習を経験したことによって、地域の病院では一人の患者に対する診察時間の違いがより感じられた。また、実習期間が夏であったことから、病院、診療所のいずれにおいても患者の訴えとして食欲の低下や倦怠感が多かったことも印象的であった。家でクーラーをつけているかの確認をすると、つけていなかったり、日中のみ使用しているといった回答が多かった。一日中クーラーをつけるように伝えることも予防医療の一環であると感じられた。さらに、診察の合間に、地域医療枠の医師として今後どのような流れで経験を積んでいくべきかの相談や実際に経験されてどうだったかなどのお話もして頂けて、自分の将来像を考える上で大変貴重なお話を伺うことができた。

4．謝辞

高垣院長、竹中先生をはじめ、国保すさみ病院の皆様、この度は新型コロナウイルス感染症の増加傾向が認められたことも相まって、大変お忙しい中、貴重な実習の機会を与えてくださったこと、心から感謝しております。今回の実習は、実際に医師として地域医療に携わる立場となった時、何ができるのか、どのような能力が必要であるのかを考える良い機会となりました。この実習で得られたことを活かせるよう、より一層精進してまいります。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4年生　冷水　詩音

1．実習施設とその地域の概要・特徴

【実習施設】国保すさみ病院

【すさみ町の概要・特徴】

すさみ町は人口約 4,000 人。紀伊半島の南西に位置し、太平洋に面した海岸線は豪壮な海岸段丘で、吉野熊野国立公園に指定されているなど、豊かな自然に恵まれた町である。高齢者比率は 40％を超えており、独居高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が多い。また町域が広く、特に山間部では隣の家との距離が遠いなど、高齢者等の見守りが難しい環境にある。このような環境ゆえに、効率的に利用者宅を訪問できるよう、地域単位で担当保健師を配置するなどの工夫が行われている。

【国保すさみ病院の特徴】

国保すさみ病院はすさみ町唯一の病院であり、診療科は内科・外科・リハビリテーション科の 3 科である。ドクターカーが配備されており、すさみ町にある 3 つの診療所（佐本診療所・大鎌診療所・大附診療所）への医師派遣や訪問診療も行っている。二次救急医療機関であるが、夜間・休日は当直の検査技師、放射線技師不在のため当直医師、外来当直看護師のみで救急外来業務を請け負っている。

2．実習内容

【ご指導いただいた先生】

院長　　高垣有作先生
副院長　　山本修司先生
内科医師　竹中雅子先生
内科医師　大橋　豪先生
内科医師　立石華穂先生

【実習の時間割】

2023 年 8 月 3 日（木）

12：30 ～ 15：00　佐本診療所訪問・診察見学

15：00 ～ 16：00　新設 国保すさみ病院見学

16：00 ～ 17：00　医療ドキュメンタリー映画「SiCKO」鑑賞

2023 年 8 月 4 日（金）

8：30 ～ 12：00　外来診察の見学

13：00 ～ 14：00　医療ドキュメンタリー映画「SiCKO」つづき鑑賞

14：00 ～ 14：30　すさみ病院設備見学

【内容】

佐本診療所訪問：毎週木曜日の午後に行われている佐本診療所での診察を見学させていただいた。国保すさみ病院からは自動車で蛇行する山道を 20 分ほど行ったところに位置していた。この日の外来は 8 人。患者さんのほとんどが 80 代～ 90 代で、診療所までは巡回バスを利用するか徒歩で来るとのことだった。診療所では採血や心電図程度の検査しか行えず、CT や MRI 等の精密検査が必要な場合は、ふもとの国保すさみ病院まで来院するよう伝えておられた。薬剤は診療所に備蓄があり、役場の方の手伝いのもと調剤・支払いがなされていた。しかし他の 2 つの診療所には薬剤の保管はなく、そちらで診療する際は、後日郵送で届けたり、用事がある際に一緒に持っていったり、今後はドローンを活用しようとの試みもあるとのことだった。医療へのアクセスが難しい地域での診療を目の当たりにする良い経験となった。

新設 国保すさみ病院見学：津波・災害対策を背景に国保すさみ病院は今年の 11 月より山間方面に高台移転するとのことで、建設中の新設国保すさみ病院の一部を見学させていただいた。消防署・保育所・給食センター・交番・病院といった町の公共施設がひとところに集まっており、災害時も機能する医療体制と町づくりを肌で感じることができた。

医療ドキュメンタリー映画「SiCKO」鑑賞：高垣院長おすすめの医療ドキュメンタリー映画を鑑賞させていただいた。破綻したアメリカの医療保険制度を、他の欧米諸国の医療制度と比較しながら風刺した作品で、医療とはどうあるべきか、日本の医療保険制度がいかに恵まれているのかを考える良い機会となった。

外来診察の見学：高垣院長の外科外来診察を見学させていただいた。午前の外来診療だけで

も、指の切創の縫合、抜糸、糖尿病、乳がん術後のリンパ浮腫、栄養失調など、外傷から内分泌系の疾患にいたるまで幅広い診察をされており、地域医療の総合診療の実際を目の当たりにする非常に良い機会となった。また、院長が診察の際に心掛けておられることとして、「その診察で一度は笑ってもらうことがポリシー」なのだとおっしゃっていたことがとても印象的だった。ただ単に疾患・病気のことを聞くだけではなく、その人の生活や暮らしについてもコミュニケーションをとることで患者さんとの信頼関係を築き、その「人」をみる全人的な医療の姿勢を院長の背中から学ばせていただくことができた。

すさみ病院施設内見学：竹中先生にすさみ病院内の設備を案内していただいた。診察室をはじめ、CT 室、レントゲン室、カメラ室、エコー室、リハビリテーション室、入院療養施設、オペ室等を案内していただいた。

3．考察

この実習を通して、地域医療の実態や地域医療を担っていく上で必要な事柄をたくさん学ばせていただいた。その中でも特に印象に残った 2 つのことについて述べたいと思う。1 つは「専門分野にとどまらない幅広い知識と技術」が必要だと言うことである。すさみ町のような地域では、病院といえばそこしかなく、あらゆる疾患・外傷で患者さんが訪れる。大きな病院に運ぶには時間を要するこの地域では、勤務する医師皆が自分の専門分野が内科か外科かによらず、一時的な外科的処置や治療ができることも必要なのだと今回の実習を通して深く感じた。もう一つは、「地域の人々との信頼関係の構築」が重要だと言うことである。特に診療所での診察の際は看護師、薬剤師等の医療従事者の人手が十分でなく、調剤や支払いは役所の方々の協力のもとで成り立っている。決して医師ひとりで医療が提供できるわけではない。地域の人々と信頼関係が良い医療を提供する上で非常に大切なのだと感じた。

4．謝辞

最後になりましたが、大変お忙しい中で、地域医療枠の学生を受け入れ温かくご指導くださった高垣院長はじめ、お世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。この実習で学ばせていただいたことを胸に勉学に励んで参ります。この度はお世話になり本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
2年生　中硲　心優

1．実習施設とその地域の概要・特徴

すさみ町の人口は令和5年8月31日現在3,627人で、その内1,726人が65歳以上で約半数を高齢者が占めている。紀伊半島の南南西部に位置し、紀伊山地を背に、白浜町、古座川町、串本町と隣接し、雄大な太平洋に面している。気候は沖合を流れる黒潮の影響により温暖で、年平均気温は約17℃である。農林漁業と観光を主要産業としている。

国保すさみ病院は1973年に開設された。一般病床数は48床で標榜診療科は内科、外科、リハビリテーション科である。佐本診療所、大鎌診療所、大附診療所の3つの診療所に医師を派遣している。現在南海トラフ巨大地震で想定される津波浸水区域内にあることと建物の老朽化などを理由に、高台に新たに建設されている。

2．実習内容

1日目は病院内で昼食を取った後、車に30分ほど乗って佐本診療所に移動し、そこでの診察を見学した。体調確認を行い、服薬状況を考えながら処方していた。患者は高齢者ばかりで、クーラーをつけるように注意喚起を行っていた。病院へ帰る途中に移転先の建設中の病院を見学させていただいた。木を基調とする暖かい病院で完成間近だった。災害対策に力を入れていた。病院に着いた後、マイケル・ムーアのシッコという映画を見た。この映画は、アメリカの医療保険制度についてのドキュメンタリー映画である。保険に加入しているからといって必ずその恩恵を受けられるという制度ではないことに驚いた。

2日目は、病院での外来見学を主にした。見学したほとんどの患者が定期的に通われていた。高齢者の方が多く、高血圧や糖尿病の患者の方が多かった。患者さんは同じ医師に通っていた。血圧をほぼ全員に聞いていて、前回病院で受けた採血や検尿などの検査結果や、患者さんの毎日の血圧の記録、他で受けた検査などを元にして診察していた。患者さんの要望や患者さんの身体状況によって服薬している薬を変えることもあった。病院見学も行った。

3．考察

今回の実習では、初めて外来の様子を間近で見ることができた。先生からも伺ったが、診察して処置することのできる医師になる必要があると実感した。また、専門分野だけでない幅広い知識が必要であり、薬のことも含めて勉強する必要がある。外来の様子を見て思ったのは、

患者さんの話からいかに体調を聞き出すか、患者さんとのコミュニケーションの大切さである。患者さんの意思を尊重するために、家族に自分の病気のことと考えを話しておくことも必要だと分かった。もし伝えていないと、倒れて意思疎通が行えない時に、家族の方の意思に沿うことになるからである。患者さんが担当の医師に定期的に通うことによって信頼関係を築けるし、医師も患者さんの状況を把握しやすいと思った。

4. 謝辞

2日間本当にありがとうございました。診療所と病院での外来の様子をみることで働くイメージを持つことができました。先生方からたくさん興味深い話を聞くことができました。今回の実習で学んだことを忘れずに日々勉強していきたいと思います。

17 くしもと町立病院

位　置　和歌山県東牟婁郡串本町サンゴ台 691-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生　石田　聖葉

1．実習施設とその地域の概要・特徴

くしもと町立病院は国保直営串本病院と国保古座川病院を統合し、平成 23 年に海抜 53m の高台にあるサンゴ台に開院された。診療科目は内科、外科、整形リハビリテーション科、婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科（8 診療科）である。一般病床だけでなく、地域包括ケア病床や療養病床があり、在宅医療に移行するための設備が整えられている。高齢化が進む中、この町で医療が完結することを目指した病院である。

くしもと町立病院がある串本町は和歌山県東牟婁郡、本州最南端にあり、人口 13,908 人、面積 135.67㎢の町である。最南端の潮岬のほか、国の天然記念物である橋杭岩や世界で唯一

の「非サンゴ礁海域に存在するサンゴ礁」がある自然豊かな町である。

2．実習内容

1 日目（8 月 1 日）

8：50　院長、管理者へのあいさつ
9：00　外来診察見学
15：00　カンファレンス

2 日目（8 月 2 日）

8：50　説明、病棟回診
10：30　救急対応
14：00　診察体験
15：00　外科手術見学

1 日目の実習の初めに院長の坂本先生と、管理者の城谷先生に挨拶させていただいた。城谷先生が「ここは和歌山市の 10 年後の医療現場だ」とおっしゃっていたのが印象的だった。生産人口が減り、高齢化が進むくしもと町立病院で行われている医療を学ぼうと気合いが入った。

外来で来られる患者は、糖尿病や脳梗塞の手術後で定期的に来られている方や、腹痛や吐き気を訴える方などがいた。平均的には 70 歳代以上、80 歳以上の患者も多いそうだ。糖尿病は自覚症状があまりなく、病識の低い患者も多い。患者が治療に積極的になるよう生活指導をしたり合併症の話をしたりしている様子が見られた。金銭面を気にしている患者がいた場合には診察の隙間時間に保険料について確認し、患者にとっての最善を検討している様子が見られた。この日は新患もおり、実習の担当をしてくださった森先生は朝から 15：00 まで休憩なく診察していた。診察には医療クラークがついており、事前検査の結果を出したり患者に処方箋を渡したりスムーズな診察を行っていた。

カンファレンスでは院長や看護師長が集まって入院患者の情報共有、治療方針の相談をしていた。

2 日目は受け持っている患者のお話を事前に聞いた上で病棟へ患者の様子を見に行った。看護師が患者を看ていて気になったこと、医師に診てもらいたいことを書き留めているノートがあり、その内容について確認を行ったり、退院の準備を進めるためご家族に連絡を取ったりしていた。

この日は森先生が救急の担当だったので救急車で運ばれてきた患者の対応も見学させていただいた。脱水症状で運ばれてきた高齢の女性で、もともと患っている心不全もありモニターは常に不安定で緊張感があった。その後は病床に行き、落ち着いたころに今後の治療について話していた。

発熱外来で PCR 検査陰性だった患者がくしもと町立病院で働く看護師の方で、その方を相手に診察の体験をさせていただいた。質問事項はあらかじめ森先生に書いていただき、それに

沿ってお話したが私のメモはまとまりのないものになった。話を聞きながらカルテを書いている医師の器用さに改めて気づいた。

実習の最後に整形外科の先生が大腿骨転子部骨折の手術を見学させてくださった。患者以外の立場で手術室に入るのは初めてで、その空間や雰囲気に圧倒された。整形外科の手術は大きな器具を使ったパワフルな手術だった。手術準備中、研修医の先生が大転子の骨折は高齢者に多いことや麻酔の種類などお話してくださった。

3．考察

まず外来診察の様子を見ていて思ったことは、患者の協力がないと思い通りの治療はできないということだ。医師が検査結果や数値を見て患者の状況を知り必要な治療を提案しても、患者にはその重大さが伝わっていなかったり、分かっていても仕事への支障が出ないか気になったりして、必要な治療がいつでも行える訳ではないのだとわかった。だからこそ森先生がしていたように合併症の話をして治療しないことの危険性を伝えたり、金銭など患者の気にする部分が少しでも解決に向くように検討したりすることが大切なのだと思った。患者の積極的な治療への参加を促すのも医師の務めであると思った。

病棟の回診についていったとき、看護師が薬の処方について確認をとったり、患者の様子を報告したりしていた。看護師が清拭を行っていた際に皮膚にこぶのようなものがあったことが気になって先生が確認したところ、皮膚がんではないかと気づくことができた。病棟の患者を近くで見ている看護師だからこそ気づいたことだと思った。診察での医療クラークの協力もそうだが、医師一人では不十分な面もあり、だからこそ医療スタッフ間での連携が大切なのだと感じた。

くしもと町立病院を訪れる患者さんは高齢の方が多い。現在は治療法も多いが治療することだけが最善ではないと森先生はおっしゃっていた。高齢者だからこそ身体に負担が大きい治療を行うことを望むのかというのは、ご家族や本人の意思を尊重すべきところである。長く生きること、病気を治すことだけが医療ではないのだと学んだ。

4．謝辞

お忙しい中時間を割いていただき、貴重な体験をさせていただいたくしもと町立病院の森先生をはじめとする先生方に深く感謝申し上げます。病院外でも先生方が串本町ならではの生活を楽しんでいる様子が見られ、いきいきとした姿が素敵でした。多くの先生方にお声がけいただき、診察や手術見学など思ってもいなかった体験までさせていただきました。先生方の温かさを嬉しく思います。実り多い実習となりました。本当にありがとうございました。

18 那智勝浦町立温泉病院

位　置　和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字天満 483-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
5年生　渕脇　颯太

1．実習施設とその地域の概要・特徴

那智勝浦町立温泉病院は東牟婁郡那智勝浦町に位置し、勝浦駅から徒歩 10 分ほどの場所にある。近くには那智勝浦町消防本部があり、震災時には那智勝浦町消防本部を起点にドクターヘリにて患者の搬送が行われる予定となっている。また、那智勝浦町に取り囲まれるように存在する太地町には公立の病院が存在しないため、那智勝浦町立温泉病院は那智勝浦町と太地町を守備範囲としている。隣接する新宮には新宮市立医療センターがあり、那智勝浦町立温泉病院で治療できない、より重症の患者さんは新宮市立医療センターに搬送されることになっている。那智勝浦町立温泉病院は平成 30 年 4 月に現在の高台へと新築・移転している。

診療科は内科、リハビリテーション科、整形外科の 3 科が基本であり、その他、眼科、循環器内科、糖尿病内科については非常勤医によってまかなわれている。一般病床数は 120 床となっている。うち 60 床をリハビリテーション科が占めている。

病院の特色としてはリハビリテーション科に力を入れていることであり、大学病院にも引けを取らない設備が揃っている。2022 年には NHK の Dear にっぽんにて「日本一リハビリの厳しい病院」として那智勝浦町立温泉病院のリハビリテーション科が紹介されている。

2．実習内容

〈1 日目〉

病院につくとまず、病院内の案内をしていただいた。那智勝浦町立温泉病院は平成 30 年に新設されていることもあり施設内は非常にきれいであった。また、高台にあるということで外を見ると那智勝浦町を一望でき、さらに海も山も見ることができる非常に眺めの良い病院であった。特にリハビリはこの景色を眺めながら行うことができ、キャッチコピーである「日本一厳しいリハビリ」を患者さんが耐え抜く上で大きな助けとなっていることが想像できる。

14:00 からは大腸内視鏡を見学させていただいた。那智勝浦町立温泉病院では週に 2 日内視鏡検査を行っているそうである。胃カメラは需要が高く重要な技術であるため、案内してくださった谷河先生も科に関わらず胃カメラを行っているそうである。私が見学させていただいたのは大腸ポリープの患者さんで複数のポリープのうち、不整形の小さなポリープが 1 つあったため、その 1 つのみ切除し終了した。大学病院とは異なり内視鏡は観察がほとんどで切除等はほとんど行わないそうである。

15:00 からは担当患者さんの回診を見学させていただいた。内科全般を担当するということで患者さんは誤嚥性肺炎、DKA、脳腫瘍、脳梗塞、癒着イレウス、手術待ちの肺炎、と多岐に渡っていた。また、日本紅斑熱の患者さんもいたのだが、和歌山県内では特に那智勝浦地域に多い感染症だそうである。

最後に内科入院カンファレンスに参加させていただき、1 日目の実習は終了となった。

〈2 日目〉

8:30 から内科カンファレンスに参加させていただいた。1 日目のカンファでも感じたことであるが、呼吸器から消化器、血液、糖尿病、感染症と多岐に渡る患者さんを内科として担当しており、地方では特に専門科だけでなくメジャーな疾患を全般的に診ることができる能力が必要であることを改めて認識した。

カンファレンスが終わると、朝の回診を見学させていただいた。回診後は地域の特色、医療システム、那智勝浦町立温泉病院についてのお話を聞かせていただいた。

10:30 からは研修医の先生の予診見学をさせていただいた。定期検査で貧血を指摘された患者さんであるが自覚症状もなく、貧血の原因となるような異常所見も認められなかったため血液検査にて精査を行うこととなった。超高齢の患者さんであったのだが、高齢の患者さんが大多数を占める地方では患者さんの状態やニーズに応じた対応がより重要であることを感じた。

最後に、救急室の見学と説明をしてくださり実習は終了となった。

3．考察

今回、臨床実習が始まって初めての大学病院以外への病院実習であったのだが、医療施設や患者さんの様子、提供できる医療の質や量など様々な視点で大学病院との違いを感じることができた。特に感じたのは提供する医療においての比重の違いである。可能な外科的処置が限られることに加えて高齢の患者さんが多いため、那智勝浦町立温泉病院で選択できる治療には制限が生まれる。また、高度な医療を受けるためには大学病院や新宮市立医療センターに行く必要があるため、都市部と比較して移動に要する患者さんの労力が重くなる。これらのことがあり、患者さんは延命よりも QOL の改善や維持に重きを置いているように感じた。地域や病院の規模によって患者さんのニーズに違いがあることを理解した上で、地域の患者さんの特徴を掴み、ニーズに合わせた医療を提供していくことの必要性を感じた。また、毎年思うことではあるが地方で医療を提供する以上、特に包括的な知識の習得が不可欠であることを改めて感じる 2 日間であった

4．謝辞

実習を受け入れて下さった中紀文院長先生をはじめ、担当して下さった谷河先生、病院の先生方、看護師の皆様、2 日間ありがとうございました。また、実習の準備を行ってくださった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの皆様、和歌山県医務課の皆様、今年もこのような機会を作っていただきありがとうございました。今回の 2 日間の実習を通して臨床医学を学ぶ上での意欲をより高めることができ、将来、地域で医師として働くイメージをより固めることができました。今回の実習に関わってくださった皆様本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
4年生　福井　凛

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回、僕は那智勝浦町立温泉病院で7月20、21日に実習を行い、そこで卒後5年目の塩谷悠先生にお世話になりました。那智勝浦町立温泉病院は質の高いリハビリテーション医療を提供することを特色しています。Whole bodyの観点から障害者に対応し、QOLの改善に取り組んでいます。対象疾患は関節リウマチ、糖尿病などの代謝内分泌疾患等が中心です。那智勝浦町は2020年時点での65歳以上の高齢者化率が全国平均の28.00%よりかなり高い43.90%と高齢化が進んでいるので、そのような高齢者の多い地域医療にはリハビリテーション医療は欠かせないものになっています。

2．実習内容

1日目（7月20日）

10：30	病院到着
10：30～12：00	病院施設見学
12：00～13：00	休憩
13：00～15：00	救急外来見学

2日目（7月21日）

9：00～10：00	待機
10：00～12：30	外来見学

那智勝浦温泉病院は温泉療法の研究にも取り組んでいて、病院内にも憩いの場として足湯を設置しています。空き時間に体験させてもらいました。

1日目はまず病院内のリハビリテーション室や透析室などの施設の見学をさせてもらいました。リハビリテーション室は想像よりもかなり大きく、見慣れた器具の他にみたことのないような器具もありました。ランニングマシンのかなり大きいバージョンのようなリハビリ器具は上から吊るすことで患者さんの安全を守りながらリハビリできるもので日本でも数台しかないそうです。透析室は10床の程のベッドが用意されていて、当日は行われていませんでしたが、月・水・金に新宮市立医療センターから腎臓内科の先生が来て透析ができるようにしているとのことでした。昼からは救急外来の対応の見学をしました。時間内に2件ほどきて、そのうち1件は発熱外来でコロナ陽性のため見学できませんでしたが、もう1件は高齢の女性が介護をしてもらっていた60代の息子がアルコール性肝硬変で入院になったので、12日以内という期限付きになるレスパイト入院をする目的での救急要請でした。大学病院ではこういう救急はあまりないけれど地方ではよくあると先生はおっしゃっていました。

2日目は最初の1時間は入院されている肝硬変の患者さんが急変されたようでその対応をされていたため医局で待機していました。そこからは外来の見学をしたり、塩谷先生から地域医療の話などを聞いたりしました。塩谷先生は今年から那智勝浦温泉病院に勤務になったようですが、最近ではもう住み慣れてきたとおっしゃっていました。この病院はリハビリがメインだからこの病院では対応できない患者さんが来たら新宮市立医療センターに搬送することが多いこともおっしゃっていました。地域医療では自分の専門分野でなく総合診療をしていくことの難しさや、やりがいについても教えてもらいました。

3．考察

那智勝浦町に初めて来ましたが、とても居心地の良い場所で、病院もそれほど大きな規模ではないけれど、だからこその医師同士や医師と看護師の関係性や協力がしっかりしていると感じました。高齢化の進む地域の病院にはその地域のニーズに応えていくために特色を出すことが大事で、また周りの病院や和医大とのコミュニケーションも重要であると感じました。

4．謝辞

今回2日間担当してくれた塩谷先生にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

3年生　中西　歩登

1．実習施設とその地域の概要・特徴

那智勝浦町立温泉病院が位置する那智勝浦町は人口およそ1.4万人であり、那智の滝や温泉、マグロなどが有名な観光地である。駅周辺では観光客が多く見られ、和歌山市内との違いを感じた。

那智勝浦町立温泉病院は平成30年に移転して現在の位置にできたため、外装や医局なども新しく、非常に働きやすそうな印象を受けた。特にリハビリ科が全国でも有数の病院である。病院内に足湯があった。

2．実習内容

1日目

8:30- 8:45　カンファレンスに参加
9:00-11:30　外来見学
13:00-14:00　病院内見学・先生とのお話

カンファレンスでは前日に搬送されてきた患者や起こった出来事などを共有し、また治療方針などを周囲の医師に相談する場となっていた。医師同士での情報共有や相談の機会が多く設けられていることで、自身の成長や治療方針の失敗などを防ぐことができ、良い機会であると感じた。またその話の中で、先生同士での垣根の低さを感じた。

外来見学では実際に先生が診察を行っている様子を見学させていただいた。印象深かったのは不安がる人や診てほしそうな人に対しては聴診などの手技を行うことで健康を確認し、対して診察に消極的な患者に対しては行わなかったりとその人に合わせた診察方法を使い分けることで安心感を与えているということがあった。

また外来見学では高齢の男性が脱水の疑いで診察を受けていたときに、医療の観点だけでなく、社会的な観点（家族構成や家族の希望）から入院の有無を決めていたところである。大学において、疾患やその対処について医療の観点からのみ学ぶために、社会的な観点の大切さを実習を通して学ぶことができた。

病院見学では病院内の様々な施設を見学させていただいた。前述の通り、病院は新設されてそれほど時間がたっていないため、病院内は非常にきれいであった。

2 日目

8:30- 8:45　カンファレンスに参加

8:45-11:30　救急外来見学

救急外来の見学では救急車が来ず、平和な時間を過ごした。

3．考察

今回の実習で一番印象に残ったことは先生がお話してくださった病院の役割についてである。今回見学させていただいた那智勝浦町立温泉病院では内科・整形外科・リハビリテーション科・眼科以外の科がないため、重症な患者や診ることが難しい患者については新宮市立医療センターに搬送することになっている。このような状況で「この病院ではどのような治療方針を立てることが患者・家族にとってベストかを決めること」「診ることが難しい患者を『新宮に運ばなければいけない』と思えること」が重要であり、いわゆる 1.5 次救急病院のような役割を果たしているということの理解が大切なのであると教わった。

以上のようにただ漠然と医師としての仕事を行うだけではなく、派遣される病院に合わせた診察・行動が大事であることを知った。また基礎的な医療知識が臨床現場でどのように生かされているのかを知り、自身がいかに知識が不足しているのか、また習ってきたことや今後習う内容がいかに大切なのかを知ることができた。

4．謝辞

お忙しい中、実習に時間を割いてくださった寺本先生をはじめとする那智勝浦町立温泉病院の先生方に拝謝申し上げます。この実習を通して地域医療の実情の一端をつかむことができたと思います。この実習で学んだことを生かし、今後とも勉学に励んでいきたいと思います。どうもありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生　万谷　瑞姫

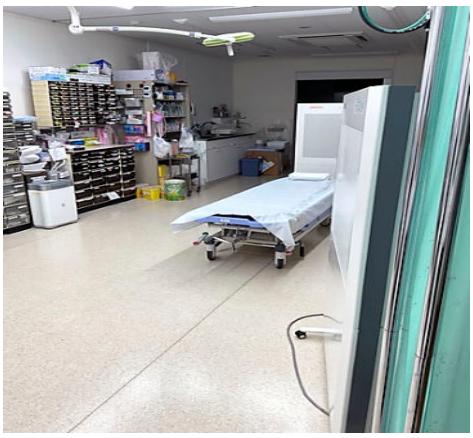
1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回の実習では那智勝浦町立温泉病院へ伺った。那智勝浦町は和歌山県東牟婁郡に位置する。人口は約 13,860 人（令和 5 年 7 月末現在）で、面積は 183.31 平方キロメートル。県内一の源泉数を持つ温泉や、那智の滝をはじめとする世界遺産など、観光業が中心となっている。322km も離れた富士山が見える峠があり「富士山が見える最遠の地」と言われていたり、全長 800m におよぶ広大な砂浜「ブルービーチ那智」があったりなど、非常に絶景スポットの多い町だと言える。勝浦漁港は近海でとれたマグロが集まり賑わいを見せる場所で、はえなわ漁法による生鮮マグロの水揚げ量は日本一。町内にはマグロの無人販売所が複数あり、そのお手頃な価格から観光客だけでなく地域住民の方々にも親しまれている。

那智勝浦町立温泉病院は、紀伊勝浦駅から徒歩約 7 分のところに位置する。2018 年 4 月に津波浸水の恐れがあった旧病院から新築移転された新病院が開院し、玄関には「悠久の湯」という足湯が設けられた。診療科目は内科・整形外科・リハビリテーション科を基本としており、一般病棟 90 床、障がい者病棟 30 床の計 120 床が設置されている。

2．実習内容

1 日目（8 月 8 日）は、まず救急外来を見学した。実習日の救急患者は 1 名で、腸穿孔と診断された。その方は意識がなく、血圧が低下しているなどの状況だったことから、手術をするかどうかの判断をご家族と神田先生がお話されていた。救急室には看護師さんもいらっしゃり、患者さんの病態について逐一確認をとりながら、入院の手続きに関する相談や治療方針の共有をされていた。



続いて、内視鏡検査を見学した。画面に映る映像を見ながら、腸のどの部分が映っているのかをどのように判

断しているのか、カメラをどのように操作しているかなどについて教えていただいた。

２日目（８月９日）は、外来見学を行った。定期受診されている方も、腹痛などにより予約なしで来院された方もいらっしゃって、それぞれの患者さんへの対応の仕方や、コミュニケーションの取り方を学んだ。患者さんから予定になかった検査の依頼があり、急いでオーダーを作成したり、患者さんの食生活に関する質問をして、それに合わせた今後のアドバイスを行ったり、臨機応変な対応が必要な場面が多々あった。

また、合間の時間に施設内を案内していただいたり、診察室で血圧の測定方法を教えていただいたりした。

３．考察

那智勝浦町立病院の内科は地域枠卒業の先生方がほとんどで、若い先生が多いため、全員で相談しあいながら協力して治療を進めているという印象を受けた。困ったことがあっても相談しやすい雰囲気からチームプレーの大切さが感じられた。

外来見学では、医師と患者さんやご家族がお話している様子を初めて客観視して、コミュニケーションを取る上での工夫がたくさん見つけられた。まず、ご高齢の方とお話するときは、大きな声でゆっくりと話したり、専門用語を使わずに説明を行ったりされていた。また、薬を飲むタイミングや、次の来院予定など、必ず伝えなえればならないことは最後にもう一度説明するように意識しているということだった。ご家族とお話するときは、伝え方には気をつけながらも、伝えなければいけないことが伝わっていないということがないように意識されているようだった。ご家族の納得・同意が得られるまで丁寧に説明し、ご家族の方々の意見に耳を傾ける姿を見て、医療における会話の重要性を改めて感じた。

外来見学の合間に神田先生から、畑や草むらなどに立ち入ったときに感染する「地域の病院ならではの感染症がある」というお話をしていただいた。原因不明の熱などの症状がみられたときに、そのような病気があるということを選択肢に入れられるかどうかで、治療の進め方は大きく異なるため、その地域の方々の生活や多い病気などの知識を学んでおくことも大切だと考えた。その際にも、地域の方々や他の医療従事者の方々とコミュニケーションを取ることが必要となるため、やはり、人とのつながりと医療、特に地域医療は切っても切り離せない関係にあると感じた。今後、地域医療に医療従事者として関わる際は、専門的な知識だけでなく、周りの方々と積極的に関わること、地域の特徴を知ることなども意識していきたいと考える。

4．謝辞

最後になりましたが、神田真美先生、那智勝浦町立温泉病院の皆様、この度はお忙しい中ご指導、ご協力いただきありがとうございました。初めての病院実習で右も左もわからない状態でしたが、地域医療に触れることができ、たくさんの学びも得ることができました。地域に関すること、外来などの基本的な業務に関すること、地域枠としての活動に関することなど、今回教えていただいたことは今後の活動に活かしたいと思います。

また、今回の実習にご協力いただいた地域医療支援センターの皆様に感謝申し上げます。非常に貴重な体験ができた 2 日間でした。本当にありがとうございました。

19 新宮市立医療センター

位　置　和歌山県新宮市蜂伏 18-7

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
5年生　井上　弘康

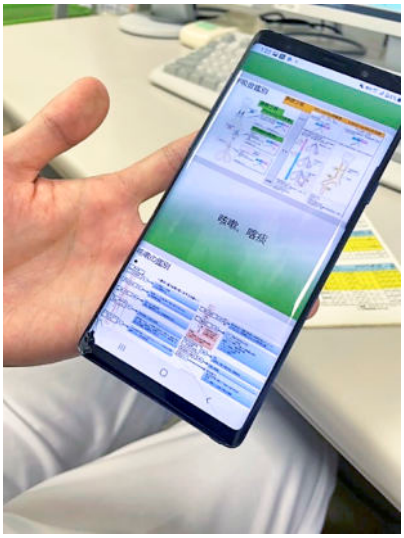
1．実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市立医療センターは、和歌山県の新宮市に位置している。新宮市は、和歌山市から車で 3 時間ほどの距離に位置している。人口は約 27,000 人であるが、1990 年には約 38,000 人であったことから、人口減少が伺える。高齢化率は 38.4% で全国平均の 28.7% を上回っている。

新宮市立医療センターの病床数は、285 床ある。

診療科は、内科、腎臓内科、循環器内科、外科、脳神経内科、脳神経外科、泌尿器科、呼吸器外科・心臓血管外科、整形外科、小児科、産婦人科、皮膚科、眼科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科の 19 の診療科がある。

2．実習内容



■ 1 日目

外来見学、内視鏡検査

■ 2 日目

カンファレンス、褥瘡回診

1-1. 外来見学

外来見学の内容自体は、ポリクリで見学したり、実際に自分が病院を受診したとき時と同様のものでした。ただ、進行癌に罹患された患者さんの 1 人が他院でのセカンドオピニオンを求められており、それについての説明を見るのは初めてでしたので、勉強になりました。Stage Ⅳだったので、どこでも方針は変わらないのではないかと自分は考え、どう答えるのだろうと思ったのですが、先生がセカンドオピニオンは患者さんの権利であると説明した上で、病状の説明を再度行い手続きの方法について丁寧に説明されていました。自分がいきなりそういったことを言われたら面食らってうまく答えられていなかったと思うので、勉強になりました。

また、指導して下さった先生が、各診療科別に鑑別や一般的な症状、治療の方針などを記した自作の PowerPoint のスライドを自分のスマートフォンにダウンロードしていたことが印象に残りました。自分も将来、わからないことがあればその都度勉強していかなければならないのだと、具体的なものを見て改めて感じました。

1-2. 内視鏡検査見学

内視鏡検査見学は、通常の検査や、ポリープに対する EMR などを見学しました。新宮市立医療センターの周りの地域では、内視鏡検査での治療を行う施設が少なく、下血などがあればとにかくここによく運ばれてくるとおっしゃっていました。遅い時は午後 8 時や 9 時頃まで内視鏡検査をすると聞いて、勉強だけでなく、体力も必要であると感じました。

2-1. カンファレンス

カンファレンスは、前週の金曜日から火曜日に入院した患者について、主訴や、現病歴、検査所見、SOAP を確認したりと、ポリクリで見るカンファレンスと概ね同様でした。

2-2. 褥瘡回診

入院されている患者について、褥瘡の処置を行っていく回診を行いました。これは、自分を指導して下さった先生が和医大の整形外科に入局されている方で、もう 1 人和医大の形成外科に入

局されている方がいらっしゃり、義務ではないが、独自に行っているとおっしゃっておりました。

褥瘡のある患者に対して、ガーゼを変えたり、洗浄を行っておりました。洗浄は褥瘡部分を手でこすったり、ピンセットで掻いたりと、見ていて少し痛々しかったです。また、VAC 療法という、褥瘡に対してガーゼを当てて陰圧をかけ、効率的に褥瘡を回復させる治療を施行するところも見学させていただきました。褥瘡はよく聞くメジャーな病態にも関わらず、どういう治療を行うのかを知らなかったので、勉強になりました。

3．考察

外来見学の際に指導医に教えて頂きましたのが、新宮市立医療センターでは医師数が少ない中、ある程度の医療をここで完結させる必要があるということです。そのためにも、一般内科の知識はある程度修得したうえで、自分の専攻した診療科についての深い理解が必要とのことでした。自分が将来地域で働く像が少しイメージでき、残りの学生生活勉強を頑張る励みとなりました。

4．謝辞

今回の夏季病院実習を計画してくださった地域医療支援センターの方々、学生のために実習を引き受けてくださった新宮市立医療センターの皆様、そして 2 日間に渡り多くのことを教えてくださった井上先生には心より感謝申し上げます。今後自分が医師となる中で、非常に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

5 年生　濱田　琳太朗

1．実習施設とその地域の概要・特徴

【病院の概要】

新宮市立医療センターでは新宮市・東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市本宮町・奈良県十津川村・三重県熊野市及び南牟婁郡からの広範な地域の人口約 10 万人の医療対象者を受け持つ。診療科は 19 科あり内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、

脳神経内科、呼吸器外科・心臓血管外科である。急性期病床を中心としつつ、地域包括ケア病棟を含む 285 床を擁している。

【地域の概要】

新宮市は和歌山県、奈良県および三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置して太平洋に面し、温暖で高湿多雨な気候風土により豊かな水資源と樹木育成に恵まれた素晴らしい自然環境の中にある。人口は約 27,000 人である。歴史的に古くは、神武天皇東征のコースにあって、日本書紀などには熊野神邑（くまのかんのむら）と呼ばれ、熊野信仰の中心都市として栄えた。中世には熊野速玉大社の門前町として発展。明治以降は熊野材の生産地、製紙業や製材業で繁栄した歴史を持ち、今日まで熊野地方の行政、経済、文化、教育の中心都市として発展してきた。平成 16 年 7 月 7 日世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道「大雲取越え」「小雲取越え」「高野坂」や川の参詣道「熊野川」など、熊野の海や山や川の織りなす豊かな大自然にあふれている。野文化と豊かな自然を活かして地域の活性化を図るとともに、時代の潮流に対応した快適な都市づくりを目指し、全ての人と文化が集い交流しにぎわいを見せる、まち全体が華やいだ都市づくりに努めている。新宮市は、JR 東海と JR 西日本の分岐点に位置し、名古屋へは特急で約 3 時間 20 分、新大阪へは約 4 時間でアクセスしている。

2．実習内容

1 日目（8 月 1 日）	12：30 ～ 13：30	病院案内
	13：30 ～ 14：30	デブリードマン見学
	15：00 ～ 16：00	救急外来見学
2 日目（8 月 2 日）	9：00 ～ 11：00	内視鏡検査見学

今回の実習ではまず、担当の先生に挨拶をした後、病院内を案内していただいた。大学病院に比べ落ち着いた雰囲気があったが看護師さんの人数などが少なく感じた。その後、褥瘡の患者さんのデブリードマンの処置の見学をした。ポリクリ実習でも褥瘡の患者さんを見たことはあったが実際にデブリードマンをしているところを見学するのは初めてで良い勉強になった。デブリードマン見学後、休憩を挟み、その際に担当の先生に新宮市の魅力や地域医療枠の医師としての 1 日の働き方などを教えていただいた。救急外来を 1 時間見学したのちに 1 日目の実習は終了となった。 2 日目は内視鏡検査見学を行った。下部消化管の内視鏡検査で巧みに内視鏡を操り、うねる大腸の中に内視鏡を進め出血点を探していることが印象的であった。

3．考察

今回の実習は非常に有意義なものとなったと感じる。それは大学病院でポリクリ実習をしているため、大学病院と地域の病院の違いを認識する事ができたためである。地域の病院では十分に人手が確保できているわけではないため自分一人で対応する必要がある場面が存在する。そのため、地域医療枠の医師であると外科の専門医であろうと幅広い内科的な知識が必要になると感じた。将来、地域医療枠の医師として地域医療に携わるため今のうちから幅広い知識を身につけ、どんな疾患にも対応できるようになれるよう頑張ろうと思う。また、先生が実際に働いている姿を見させていただいたり、おおまかな１週間のスケジュールを教えていただいたり、将来を鮮明にイメージすることができたように思う。今回新宮市の町を観光してみて生活や遊びに困ることはないと感じた。医師として働くことはもちろん、新宮のような地域で生活することが楽しみになった。

4．謝辞

最後になりましたがお忙しい中、研修を受け入れてくれた新宮市立医療センターの皆様、指導してくださった西岡先生、医局の先生方、そしてこのような貴重な機会を作っていただいた地域医療支援センターの方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

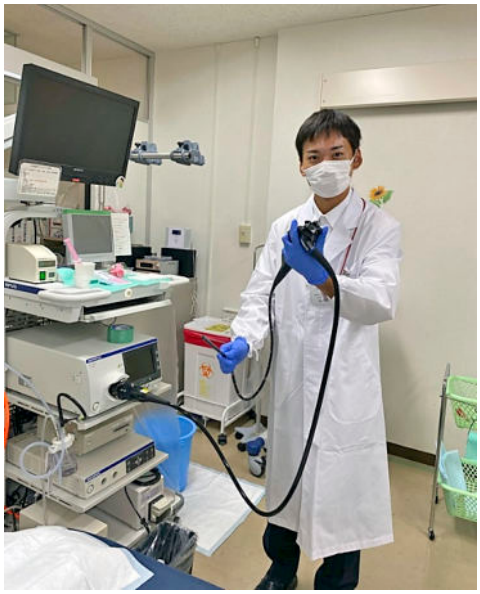
和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

４年生　谷上　大典

1．実習施設とその地域の概要・特徴

私が今回実習させていただいた病院は新宮市立医療センターです。新宮市立医療センターは新宮市・東牟婁郡の新宮保健医療圏の患者さんだけでなく、田辺市本宮町・奈良県十津川村・三重県熊野市及び南牟婁郡といった広範な地域の患者さんを診る病院で、地域中核病院の役割を果たしています。診療科目は内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、呼吸器外科・心臓血管外科の 19 科があり、病床数は一般病床が 276 床、2 類感染症病床が 4 床、HCU が 5 床あります。病院がある新宮市は紀伊半島の東南部に位置し、総人口が 26,500 人（令和 5 年 8 月 1 日時点）、255.23㎢の市で、和歌山駅から新宮駅までは電車で約 3 時間かかり、新宮市立医療センターは新宮駅からバスで約 30 分のところにあります。

2．実習内容



●1日目（7月26日（水））

9時前に医局に到着し、9時から9時10分まで指導医である山田先生に上部消化管の内視鏡画像を食道から胃、十二指腸、小腸の順に説明していただき、ピロリ感染者と非感染者における画像の違いを教えていただきました。9時10分から10時15分まで山田先生の上部消化管内視鏡検査の見学を行いました。この患者さんは以前早期胃がんでESDの処置を受けており、その後のフォローで内視鏡検査を受けていました。内視鏡のカメラをズームして他にも胃癌ができていないかを確認することが大切であると知りました。また、ESDをした場所では血管新生が盛んで少し発光しており、内視鏡の画像が赤や黄色にぼやけているところを拡大するとむくみや発赤といった病変が見つかることを学びました。次に10時15分から11時ごろまで西岡先生の救急外来の見学を行いました。この患者さんは椅子に座り5分くらい意識が消失し運ばれてきた方でした。名前、生年月日、日時、今いる場所、自分が置かれている状況などを聞き見当識が保たれていたのでJCSの0か1と判断されていました。患者さんに眼をみせてもらい、口を開けて舌を出してもらい舌の乾燥がないかをみていました。また足先の冷感や浮腫、お腹の張りの有無、握力に左右差があるかどうかやバレー徴候がみられるかを診察していました。舌の乾燥は見られたもののそれ以外は異常がみられなかったそうで心臓や脳の疾患による意識消失の可能性が低いとおっしゃっていました。最終的に脱水になり座りつづけ、一時的に脳血流が低下したことで意識消失が起こったのではと判断していました。西岡先生には救急外来ではまず緊急疾患を除外することが大事であることを教えていただきました。そして11時から11時25分ごろまで兼久先生の胃瘻の交換の手技を見学しました。この患者さんは脳梗塞による嚥下障害により胃瘻をつくっており、ガイドワイヤーを用いて胃瘻の交換を行っていました。胃瘻は劣化したりや中が詰まってきたりするので6ヶ月程度で交換が必要であることやガイドワイヤーを使うのは胃壁と皮膚の間に胃瘻が入らないようにするためであることを教えていただきました。11時25分から40分ごろまで山田先生の放射線治療のためにクリップをつける内視鏡の見学を行いました。この患者さんは前日にイレウスで運ばれてきており低分化で手術ができない胃癌の方でした。緩和的に放射線照射するための目印としてクリップをつけていました。11時40分から12時20分ごろまで宮井先生に初期研修や地域での業務について教えていただきました。12時20分から13時まで昼休みを取り、13時から14時30分まで山田先生の下部消化器内視鏡検査を見学しました。この患者さんは血便を主訴として来られており、腸が伸びやすい方で内視鏡が進みにくく体の向きを何度も変えて大腸の奥まで進めていました。事前にポリープを取ることを希望されていた方だったので、良性で浅いポリー

プに生理食塩水を注射して浮かせて内視鏡の画像を見ながら焼いて切除していました。この後採取できたものを生検して良性か悪性かを判断するとおっしゃっていました。最後に 14 時 30 分から 15 時までイレウス管の抜去の見学をしました。

● 2 日目（7 月 27 日（木））

9 時前に医局に到着し、山田先生の上部消化管内視鏡検査の見学を行いました。この患者さんは肝細胞癌があり、門脈の血流がほとんどないので食道や胃の静脈瘤を観察していました。また門脈や心臓に腫瘍栓があり非常に危険な状態であるそうで和医大に紹介状を書いていました。その後、山田先生に新宮市立医療センターの病院内を案内していただきました。3 階には HCU やオペ室、透析室があり、HCU には昇圧薬を使っている方や手術後の方などが入っているそうです。6 階には本来コロナウイルス感染者の病床があったそうですが、看護師さんが不足しているため使われていないことを教えていただきました。

3．考察

昨年とは異なり、臨床医学の講義を受けていることもあり、内視鏡検査や救急の処置で行われていることをある程度理解することができ、より地域で働く医師の業務の理解が深まりました。また、地域では 3 年目には医師 1 人で当直し救急外来や病棟急変患者を診るようになると聞き、研修医の間に救急における診察や診断の仕方をある程度身につける必要があると感じました。

地域枠の先生方がある患者さんへの処置について話し合っている様子を見て、地域枠の先生方は同期でなくても普段から交流し良い関係を築くことで、困ったときに自分の専門分野のことを教えたり、それぞれの経験を共有したりすることができ、研鑽につながっていると感じました。

4．謝辞

最後になりましたが、2 日間の実習で指導していただいた山田先生、西岡先生、兼久先生、宮井先生、その他先生方をはじめとする新宮市立医療センターの職員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。今回の実習を通して臨床医学の学習へのモチベーションが高まり、地域医療を支える医師の業務を知ることができました。ありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

4 年生　三住　晃士

1．実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市は和歌山県の南に位置する市であり、人口は 2021 年の調査では 27,171 人である。和歌山駅から新宮駅までは、特急「くろしお」を利用し、約 4 時間を要した。駅周辺にはコン

ビニやチェーン店などもあり、バスも普及しているため生活する分には何の問題もないと感じた。また新鮮な海の幸も豊富で、先生方にご馳走になったお料理もおいしかった。

新宮市立医療センターは計 19 科の診療科を標榜し、病床数は 285 床あり、新宮医療圏の中で最も大きい病院である。新宮駅からバスで 30 分ほどとやや時間はかかるが、海から離れた高い場所に位置しているため、津波の心配はないと感じた。

2．実習内容

[1 日目]

8:30 ～ 15:00　外来見学

15:30 ～ 17:00　オペ見学 (大腿骨頭近位部骨折)

[2 日目]

9:00 ～ 13:00　外来見学

13:00 ～　食事後に解散

整形外科の川村晃大先生にお世話になった。外来見学では、腰椎圧迫骨折や内果骨折、骨粗鬆症や骨性マレット、変形性肩関節症などの専門的な疾患を学ぶことができた。生の医療現場において、4 年生の臨床講義で学んだ種々の疾患を診ることは非常に勉強になった。

また整形外科領域における、画像診断の重要性も感じることができた。オペ見学では大腿骨頭近位部 (今回は転子部) 骨折の手術を見学した。認知症を併発している患者だったため、麻酔導入に苦戦するなど、医療現場の実情を知ることができた。

3．考察

整形外科の疾患を専門としておられる川村先生は地域医療枠医師であるが、現在卒後 6 年目の専門研修中のため、いわゆる総合診療とは別の形で地域医療に貢献されてらっしゃった。ある程度、診療科の制限がある地域医療枠だが、その範疇でも専門的な領域に携われることを知ることができた。また、大学病院と比較すると、外来診療に若いうちから携わるということも知った。まとめると、地域の病院だからと言って common disease のみに対応できれば良いというわけではなく、専門的な疾患の知識もある程度備えておかなければならないと感じた。今後は臨床実習が控えているが、それに向けてより一層勉学に励みたいと思う。

4．謝辞

最後になりましたが、去年に引き続きご指導して下さった川村先生、温かく受け入れて下さった整形外科の先生方及び職員の方々、実習の支援をしてくださった地域医療支援センターの皆

さん、本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことを活かし、今後の勉強も頑張っていきたいと思います。

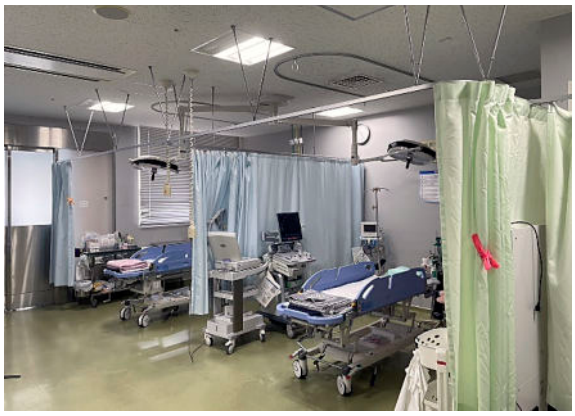
和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
3年生　小林　太基

1．実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市立医療センターは、新宮市のみでなく串本町や三重県の熊野市、奈良県の十津川村など、県境を越えて幅広い地域の患者を受け持っている。実際、実習期間中に見た車は三重のナンバープレートのものが和歌山ナンバーと同じくらい見受けられた。病院は新宮駅からバスで 30 分ほどの場所にあり、私もそのバスを利用したが朝はバス通学の高校生が多く乗車していた。

診療科は内科・腎臓内科・循環器内科・外科・脳神経内科・脳神経外科・泌尿器科・呼吸器外科、心臓血管外科・整形外科・小児科・産婦人科・皮膚科・眼科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・形成外科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科の 19 科あり、病床数は一般病床 276 床、2 類感染病床 4 床、HCU4 床である。

2．実習内容



実習は 2 日間、兼久先生にご指導頂いた。

1 日目は、午前中は外来と救急外来の診察を見学した。外来では主に検査日程を決定していて、患者と日程を調整し決まり次第検査部に連絡を行っていた。救急外来は、まず運ばれてきた患者の症状を緩和させ、原因を推測して各種検査を行うという流れであった。原因が分かった後は、治療のために短期の入院を行う人が多かった。午後からは内視鏡検査を見学した。

2 日目は、午前中に HCU、回診、内視鏡検査を見学した。HCU は患者の周囲に様々な機器が置いてあり、中でも人工呼吸器は最新のものを使用しているとのことであった。また、周りに大病院がないため稼働率は高いと仰っていた。回診では、どこが悪くて入院しているのかを教えていただいたが、足の怪我・肺炎・胃瘻など、入院の原因は様々であった。

3．考察

外来と救急外来を見学させていただいて、最も印象に残ったことは患者の年齢層が高いことであった。来院している人や入院している人も含めてほとんどが高齢者で、兼久先生は 80 代

後半以上の患者が多いと仰っていた。新宮市立医療センターは規模が大きいため、かかりつけ医からの紹介が多く、患者の主訴は多岐にわたっていた。

救急外来は、夏であることも影響してか熱中症の疑いの患者が多かった。熱中症による発熱なのか、新型コロナウイルスによる発熱なのかの区別をするために、別途検査も行われていた。熱中症患者の家庭にはエアコンが設置されていない場合が多く、地域の高齢者の家庭ではまだまだエアコンの設置が進んでいないのだと感じた。血液検査などは、筒状の容器に検体を入れて空気圧で検査室まで送る「シューター（気送管）」と呼ばれる設備を利用してスムーズに行っていた。和医大とは、緊急の場合はドクターヘリの要請や生検などで連携していると教わった。近くの三重県の病院とも、その後の対応などについて連携しているとのことであった。

HCU は、1 つのモニターで HCU の全ての患者のバイタルを確認できるようになっていて、異変があればすぐにわかる仕組みであったことが興味深かった。HCU は 4 床のみではあるが、各病床が離れているので一目で 4 床すべての状況を把握できるのは良いと思った。

実習全体を通して、地域医療に従事するためには専門分野の知識だけではなく、幅広い知識が必要であると改めて感じた。実習させていただいた 2 日間だけでも、外来・救急・内視鏡の操作など仕事内容は多岐にわたっていた。昨年の実習でも胆石やポリープの除去を見学したので、やはり医師が不足している地域ではさまざまな施術をすることができる医師が求められているのだろうと思った。

4．謝辞

実習中お世話になった兼久先生をはじめとして新宮市立医療センターの皆様、この度はお忙しい中実習の機会を設けてくださって本当にありがとうございました。地域によって患者の傾向が大きく変わることや他病院との連携など、実際に経験しなければ知ることができないことを多く学ぶことができました。また、卒後に実際に働くことになる現場を見たことで、将来の医師像がより明確になりました。今回学んだことを忘れずに、より一層勉学に励んでいきます。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生　西谷　美咲

1．実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市は、和歌山県、奈良県および三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置しており、人口は令和 5 年 8 月 1 日現在 26,500 人となっている。名古屋へは特急「南紀」で 3 時間 20 分くらい、新大阪へは特急「くろしお」を利用して 4 時間くらいでアクセスすることができる。新宮市は、温暖で高湿多雨な気候風土により豊かな水資源と樹木育成に恵まれた自然環境の中

にある。古くからの自然崇拝に根ざす『熊野信仰』が受け継がれており、こうした信仰心の現れである熊野速玉大社、熊野本宮大社、熊野那智大社などの聖地と、人々が巡礼の旅をした古道は 2004 年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。新宮市内には熊野速玉大社や神倉神社、阿須賀神社などの世界遺産が日常の風景に溶け込むように、まちのなかに点在している。

新宮市立医療センターは新宮市・東牟婁郡の新宮保健医療圏に加え、田辺市本宮町・奈良県十津川村・三重県熊野市及び南牟婁郡からの広範な地域の人口約 10 万人の医療対象者を受け持ち、急性期病床を中心としつつ、地域包括ケア病棟を含む 285 床を擁している。診療科は内科、腎臓内科、循環器内科、外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、形成外科、放射線科、皮膚科、歯科口腔外科、脳神経内科、呼吸器外科・心臓血管外科の 19 科が存在する。

2．実習内容

実習日程

1 日目（8/2）

午前　　病棟見学

　　宮井先生との面談

午後　　内視鏡見学

2 日目（8/3）

午前　　外来診療（救急）見学

実習内容

今回は、地域医療枠卒後 5 年目の宮井優先生のもとで 2 日間実習させていただいた。1 日目の午前中はまず病棟の見学を行った。6 階の病棟はコロナ専用の病棟になっていたが、現在は人手不足などにより使用せず、他の階に端の方にコロナ患者専用の部屋をつくり対応していた。その後、前もって質問してあった新宮地方の医療や私の住む紀美野町との違い、地域医療枠のことや専攻などについて宮井先生と様々な話をした。昼ご飯は職員専用の食堂を利用させていただき、キーマカレーとサラダを食べた。昼休憩を挟んで午後からは内視鏡検査の見学を行った。その日の内視鏡室担当の先生が決まっており、1 日中みっちりとカメラをするのだという。内視鏡室担当の看護師さんがいて、医師が内視鏡の映像に集中できるようにバイタルを確認したり、患者さんに声掛けしたり、医師が薬を投与する場合はアシストしたりしていた。その後、医師はパソコンでレポートを作成していた。また内視鏡エコーといって普通のエコーでは観察できない膵臓などのお腹の奥の方に位置する臓器をみる検査も見学した。また ERCP という内

視鏡の機器も見せていただいた。造影剤を使って胆管や膵管を検査するときやステントを使った治療に使われるらしい。

2日目は救急の外来診療を見学した。新宮市立医療センターでは内科医1人、外科医1人が初めの診察を引き受けるらしい。そこで不明点などがあった場合、内科だと消化器内科などの専門分野によって他の医師に引き継ぐこともある。実際に、救急の外来に訪れた患者さんを診察するのを見学した。持病を抱えており手術経験のある患者さんが高熱で運ばれてきており、コロナ陰性を確認した後、問診や触診などから考えられる病気を挙げていき、それに対して必要な検査をしていた。はじめは持病に関連する病気も含め、考えられる病名がたくさん上がっていたが、CT画像も微妙な違いしかなくまだ未確定だった。その後、血液検査から病名がわかったが、持病とは関連の少ない病気であった。CT画像を見る際にその患者さんの前回の画像と見比べてどう変化しているのか観察していた。コロナ陽性で自宅療養していたが肺炎が悪化して運ばれてきた患者さんは感染対策のため見学できなかったが、肺のCT画像を別室で見せていただいた。長年、ヘビースモーカーである患者さんだったため、喫煙者の肺はCT画像でどのように見えるのか、どの部分が肺炎になっているのかを近くにいた医師の方に説明していただいた。

3．考察

まず新宮市に着いたときに大型のショッピングセンターやスーパー、映画館などもある上に、電車は本数が少ないがバスは想像以上の路線数や本数があって、私の住む紀美野町よりはかなり暮らしやすい街だと実感した。しかし、やはり紀北からはかなり遠いなという印象を受けた。宮井先生との話の中で、新宮市の地域医療の特性を聞いた。人工心肺などの設備がある高次医療機関には遠く、ドクターヘリで搬送することがあるが、天候不良のときはもちろん、夜でもヘリを飛ばすことできない。救急車は新宮市内に2～3台しかなく、和歌山市までの搬送に使うと7時間かかるため新宮市に動ける救急車がなくなることや医師や看護師の人員不足でコロナ専用の病棟が作れないことを聞いた。私の住む地方のほうが田舎ではあるが救急車ですぐ搬送できるというメリットはあるため、新宮市だと限られた資源のなかで独立して大半の医療を引き受けなければならない難しさがあると思った。またどの地域でもその地域の特性を知ったうえで柔軟に対応する必要があると思った。

内視鏡カメラを初めて見たのだが、想像よりも自由自在に動くことに感動した。押したり引いたりたくさんのダイヤルを回したり消化液を吸引したり薬を投与するボタンがあったりと全体をくまなく見るためには操作に慣れが必要そうだと感じた。実際に動きのある映像として粘膜や分泌される消化液、蠕動運動を見たのは初めてだったので、思っていたのと違う部分もあって興味深かった。CT画像を細かいところまでじっくりと見比べたり、カルテの入力も少し工夫したりする先生たちの姿を見て、地味な努力の積み重ねが大切な職業なのだと思った。

4．謝辞

お忙しい中病院実習を受け入れてくださいました宮井先生や新宮市立医療センターの皆様、また実習の準備をしていただきました地域医療支援センターの皆様に感謝申し上げます。

同じ地域枠の先輩としていろんな話を聞けたり、アドバイスをしていただいたりして、楽しく充実した 2 日間を過ごすことができました。実習で得られた経験をもとにより一層勉学に励み、少しでも地域の役に立てるような医師になりたいです。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

2年生　野中　逸希

1．実習施設とその地域の概要・特徴

新宮市は、令和 4 年 1 月 1 日において人口 27,420 人、高齢人口比率 37.8% の市であり、平成 16 年 3 月 31 日において人口 32,489 人、高齢人口比率 26.0% であったことを考えると、少子高齢化が進んでいると推測される。

私が 8 月 7 日 (月)、8 月 8 日 (火) の 2 日間の間、実習させていただいた新宮市立医療センターは、新宮市蜂伏にある病院で、一般病床が 276 床、診療科目が内科、外科、泌尿器科などの 19 科である。外来の受診には、他の病院や診療所の紹介状が必要である。内科は消化器を主に扱っており、胃や大腸の内視鏡を多く行う。脳神経内科が存在するため、パーキンソン病の患者が入院することがしばしばある。存在しない科の領域は、普段は基本的な診察を行い、外勤の医師がいるときに詳しく診察する。また、新宮市では最多の病床、診療科を持つため、多くの病院や診療所から紹介を受ける。

新宮市の特徴として、白血病などの血液の病気が多いことが挙げられ、今回ご指導いただいた串先生は、直近 4 ヶ月で 3 人ほど診察したそうだ。また、来院する方の年齢層は高く、ほとんど 60 ～ 80 代の方だった。入院患者では、90 代の方が珍しくない。また、コロナ患者の数は増加傾向にあり、その中で入院するのは、独居の方や、酸素濃度が低下している肺炎を患った方などが主である。

2．実習内容

1 日目の午前は、串先生が担当する初診の外来を見学させていただいた。その中で気付いたことや、串先生に質問させていただいたことから、非常に多くの学びがあったので、それらを以下に記す。

初診で診察する患者は、他の病院や診療所から紹介を受けた方や、市や職場の健康診断で異常のあった方が対象である。前日までに予約をとる患者はいるが、ほとんどが紹介状を持って

当日に来院する。また、駆け込み患者がいないため、診察する患者の数は日によって多く差があり、紹介状を書く診療所が開いていない日には一人も来なかったこともあるそうだ。

救急治療の病床

初診外来の流れとしては、まず、紹介状に記載されている体の状態や健康診断の結果と、診察前に回答していただいた問診表を踏まえ、同居している方、お酒や煙草の状況、胃カメラなどの処置の経験、病歴、現在服用している薬など、生活の様子を尋ねる。また、まぶたの裏の色から貧血や、腕のむくみなどを確認し、聴診を行う。

この時、串先生は、初診の患者は不安になっていることが多いため、挨拶と自己紹介を行い、明るく振る舞って、事前にプランをある程度立てて診察が滞らないようにすることを意識しているそうだ。また、専門用語は用いるが、分かりやすいように補足を加えており、患者が話を飲み込みやすいようにする、基本的にデータを打ち込みながら話をするが、適度にアイコンタクトをとり、答えやすいように、「はい」「いいえ」で済む問いかけが多いようにする、といった工夫が感じられた。

その後、看護師に検査のオーダーを行い、すぐに結果が出ればその日のうちに伝え、病理検査が必要ならば和歌山県立医科大学附属病院に送り、帰ってきた結果を後日伝える。胃カメラのように後日行う場合は、医師が日程を複数提案し、患者に選択してもらう。継続的な治療が求められる場合は、2 診や 3 診で定期的に診察を行うか、危険な場合は入院となる。入院患者に対しては、内科の医師全員が集まってカンファレンスを行い、治療方針を話し合う。もし、他の病院の診療科での手術が必要な場合は、電話して連絡を取り、紹介状と CT 画像を入れたディスクをもって他院に行ってもらうこともある。

外来以外の時間では、担当する入院患者全員の診察を毎日行う。外来の前に行うか、後に行うかは医師によって異なり、串先生は外来前に行って、できるだけ入院患者の容態の憂いをなくして外来に臨むようにしているそうだ。また、臨時で救急外来の応援や、緊急の紹介の対応を行うこともある。

午後には、院内を案内いただいた。救急の病床や、内視鏡検査の部屋などを回り、写真も撮影させていただいた。

2 日目の午前は、内科 5 年目の宮井先生の 4 診を見学させていただいた。4 診を含む初診以外の外来では、初診時に決定した検査の結果を伝えるのが主である。宮井先生は、初診とは異なり事前に患者が分かるため、前日にカルテを確認し、当日の検査結果を踏まえて調整する。診察時は、内視鏡の画像を順に見せて説明するが、この際に難しい言葉を使わないようにしているそうだ。また、患者に対しての検査のねぎらいを決して忘れないのが印象的だった。

痰の検査では、肺炎球菌のようなものは 1 週間で検出できるが、ウイルスやカビ菌は培養に時間がかかることや、適した培地が種類によって異なることから、2 ヶ月ほど要することもある。肺炎の治療にはステロイドを打つが、処方しすぎると糖尿病の原因になる。実際に、私が見学している間に宮井先生が診察した患者さんの中に、ステロイドの処方量を減らしたところ、顕著に数値が悪くなった方がいた。そのため、またステロイドを少し増やす、代替するものを使用などで対応する。糖尿病は合併症として血管障害が多く、これを止めるのが糖尿病治療の目的である。

間質性肺炎を患っている方の診察時に、宮井先生が患者さんに許可を取っていただき、初めて患者さんの呼吸音を聞かせていただいた。カチカチという音が混じっており、コンプライアンスの低下によって肺の動きと同時に起こる音だそうだ。

午後からは、偶然開かれた薬剤説明会に同席させていただいた。患者が使用できるインスリンの注射器で、記録が対応するアプリで確認でき、常に注射の状況が担当医師に伝えられるようであり、説明後には、医師から高齢の患者の理解は追いつくのか、などの質問があった。

3．考察

私は以前、和歌山市の診療所の見学をさせていただいたのだが、ほとんどが定期的に診察を受けている患者で、70 歳以上の方が多かった。このように、健康維持のために通っている方の年齢層が高くなるのかと考えたのだが、新宮市立医療センターは何か異常がある方のみを診察するにもかかわらず、来院する方の年齢層が同じように高かった。このことから、新宮市の高齢人口比率の高さが実感できた。

串先生と宮井先生の外来を見学させていただいて、やはり患者とのコミュニケーションを大切にしており、話をかみ砕いて理解しやすいようにするといった工夫を重要としていた。また、患者の安心の一助となるように潤滑な診察を行うため、事前にカルテや紹介状を確認し、治療方針をある程度決定するという、診察前の取り組みが非常に印象的であり、何事も、事前の準備が大切なのだと感じた。

診療所からの紹介、他の病院への紹介を行い合うところから、地域の病院が互いに協力し、それぞれの役割を果たしていることから、地域としてのつながりを感じられた。

4．謝辞

この度は、外来の見学や、病院の施設の見学をさせていただき、ありがとうございました。串先生、宮井先生、そして新宮市立医療センターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

20 新宮市国保熊野川診療所

位　置　和歌山県新宮市熊野川町日足 322

保健所実習

令和５年７月 27 日（木）～８月 25 日（金）の１日間、本学地域医療枠１年生（10 名）が県内７か所の保健所に分かれて実習を行いました。それぞれの保健所では、所長先生や職員の皆様から保健所の概要について講義を受け、保健所事業の見学をさせていただいたことで、保健行政や公衆衛生の現場を体験することができました。

●参加者名簿　和歌山県立医科大学医学部　地域医療枠

実　習　先	学年	氏　名	対応医師名（保健所長名）	日　程
①橋本保健所	1	松田　篤彦	松本　政信先生	８月　７日㈪
②岩出保健所	1	笠間　心琴	池田　和功先生	８月 25 日㈮
③湯浅保健所	1	鯨　　千洋	北内　京子先生	８月 18 日㈮
④御坊保健所	1	楠山　博也	新谷　浩子先生	８月 18 日㈮
	1	山本　　晏		
⑤田辺保健所	1	濱　　颯汰	形部　裕昭先生	７月 27 日㈭
⑥新宮保健所	1	粉川ひなの	和田　安彦先生	８月 18 日㈮
	1	田尻　鈴夏		
⑦和歌山市保健所	1	小山　貴士	笠松　美恵先生	８月 18 日㈮
	1	松尾　美海		

1　橋本保健所

位　置　和歌山県橋本市高野口町名古曽 927

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
1年生　松田　篤彦

1．実習施設とその地域の概要・特徴

橋本保健所（伊都振興局健康福祉部）は橋本市、かつらぎ町、九度山町および高野町の 1 市 3 町を管轄としている。その管内は和歌山県の北東部に位置していて、総面積は 463.24km² で県面積の約 9.8% を占めている。橋本保健所は総務福祉課、保健課、衛生環境課の 3 つの課に分かれている。総務福祉課では障碍者福祉や老人福祉、児童福祉などを行っている。保健課では感染症予防

や難病患者対策、栄養改善などを行っている。衛生環境課では食品衛生や動物愛護、献血などを行っている。

橋本市は紀の川中流に位置し、かつては紀の川による材木運搬や高野山へ向かう際の宿場町として栄えた。

2．実習内容

午前中は橋本保健所について、総務福祉課、保健課、衛生環境課についてそれぞれ所長および各課の課長に説明していただいた。保健所とは地域住民の安全、安心、生命、くらし、生活を守ることが使命であり、その地域においてなくてはならない施設であるということを学ぶことができた。また、自分自身があまり知らなかった保健所とはいったい何をするところであるのかということを学べた。午後からは難病指定されているスモン病を患っている患者さんへの訪問診療に同行させていただいた。スモン病とは、患者さんが胃腸症状のために服用していたキノホルム剤が原因である薬害であり、主症状は視覚、感覚、運動障害だが、このほかに中枢神経および末梢神経が侵されることによる様々な症状が全身に幅広く併発する疾患であると認められている。訪問診療では医師、理学療法士、保健所職員の方々に同行させていただき、スモン病の診療、歩行能力などの運動能力の確認、その他日頃の生活で困っていることなどを伺っていた。医学知識がほとんどない自分にも、スモン病についてのことであったり、今は何々を確認しているなどその都度丁寧に教えてくださった。また、今ではなかなか見ることができない数十年前の紙のカルテを見させていただいた。

3．考察

今回の実習を通して、保健所について、新型コロナウイルス感染症の PCR 検査や感染者の聞き取りを行っているということしか具体的な業務について知らなかったが、保健所の方々のお話を聞いて、保健所が地域医療においてなくてはならないものであると実感した。特に印象的だったのは保健所が難病患者の訪問診療を実施しているということである。その理由は、自分の中の勝手なイメージで保健所は患者数の管理や衛生環境の向上などを主にして、診療などは病院などが主にしているというイメージがあったからである。自分のように保健所とは何をしているところなのかをあまり知らない人は多いと考えられる。地域医療をより充実させるには医療機関と地域の人々との連携は必要不可欠であり、人々が保健所についてもっと知り、活用していくことが大切であると感じた。

4．謝辞

この度はお忙しい中、保健所実習という時間を設けていただき松本所長をはじめ職員の皆様本当にありがとうございました。1 年生の間にこのような貴重な経験ができたことは将来、和歌山県の地域医療に携わる自分にとってとても貴重な経験となりました。今回の実習での経験を活かして和歌山県に貢献できる医師になるために精進していきます。

2 岩出保健所

位　置　和歌山県岩出市高塚 209

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
1年生　笠間　心琴

1．実習施設とその地域の概要・特徴

岩出保健所の管轄地域は、紀の川市と岩出市であり、面積は県面積 4,724.68㎢の約 5.6％にあたる 266.72㎢で、人口は令和５年４月１日で 111,587 人と県全体の 12.5％を占めている。

那賀地方は、いにしえより大和街道や淡路街道などの交通の要所として発展した地域で、紀の川流域に数多くの史跡・古刹などの文化遺産が残されている。更には和泉かつらぎ山脈の南麓地域に広がる、緑あふれる環境と温暖な気候に加えて紀の川や貴志川が育んだ肥沃な平野が広がる豊かな地域でもある。

また、関西国際空港から約 20km の距離に位置していて、和歌山県の表玄関として発展する

大きな可能性を秘めた地域でもある。

こうしたことから、府県間道路や京奈和自動車道などの道路交通網が整備されており、また、農林業・商工業の振興や企業誘致の推進など、産業の振興が図られている。さらに、住みやすい環境づくりとして、公共下水道の整備や廃棄物不法投棄対策など生活環境に配慮した施策の推進が行われている。

岩出保健所（那賀振興局健康福祉部）は総務福祉課、保健課、衛生環境課に分かれている。主に、医師、保健師、獣医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、衛生公害技師などの方々が、それぞれの専門知識を生かして働いている。他にも事務や精神保健相談員や手話通訳などの職種の方もいた。

総務福祉課は、生活保護、知的障害者、身体障害者、高齢者の福祉を主に行っており保健課は、医療関係や感染症予防、健康づくり、精神保健福祉、医療圏の相談などを行う。衛生福祉課は、食品衛生、動物愛護、環境衛生（水道、公害、不法廃棄物）、献血、薬物乱用防止などを行っている。

2．実習内容

9:00 ～ 9:30　所長訪問、事業概要の説明
9:30 ～ 11:00　医療圏についての会議の打ち合わせの見学
11:00 ～ 12:15　スクールカウンセラーの方々と施設の方、保健所の方との交流の見学
12:15 ～ 13:05　昼休憩
13:05 ～ 15:00　施設見学、事業概要の説明の続き
15:00 ～ 15:45　保健所での動きの体験

はじめに、所長に挨拶させて頂き、その後、保健所とはどのようなものなのかを教えて頂いた。次に、8 月 28 日の医療圏についての会議の打合せに参加させて頂いた。そして、保健師さんやスクールカウンセラー、教育委員会の方、施設の代表の方の交流会を見学させていただき、午後は施設の中を所長に案内して頂き、午前中の続きの説明を全ての課をして頂いた。それが終わった後は、保健所の所長ならどうするかというシミュレーションクイズをし、所長にいろいろと教えて頂いた。

3．考察

これまで保健所というものがどのような施設かを知らなかったので、今回実際に見学させて

いただき、どういう役目を果たしているのかなどを知ることができ、とても良い機会だった。実際に会議に参加させて頂くことで、各病院の先生や地域の保健所の方々が尽力していただいているおかげで和歌山の地域医療が成り立っていることを改めて知ることが出来た。内容はやはり難しく、これまで患者側であった自分には分からない部分が多々あったが、その度に所長が詳しく教えてくださったおかげで理解でき、学んだことが多かった。教育の話の時は、これまでスクールカウンセラーの先生がどのような働きをしているのかなど知らなかったが、保健所で保健師の方や福祉施設の方々と交流して、色々なことを考えてくださっているということをはじめて知った。

午後にも、所長が施設の中を案内して下さり、今は稼働していない所も多かったが様々な施設があり、保健所にはいろんな役割があることを教えていただき、事業概要について説明していただいたときも、今の岩出市や紀の川市の現状を教えて頂き、くわしく知ることができた。シミュレーションのクイズの時も、知らない単語や、私が選んだ答えについて詳しく教えていただき、保健所の役割をより詳しく知ることが出来た。

4．謝辞

今回、保健所を実際に見学させて頂き、保健所の存在がどれほど重要なものなのか改めて知ることが出来ました。お忙しい中、所長をはじめ、様々な方に貴重なご機会を頂き本当にありがとうございました。この機会に学んだことをこの先活かしていきたいです。

3 湯浅保健所

位　置　和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2355-1

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1年生　鯨　千洋

1．実習施設とその地域の概要・特徴

和歌山県有田振興局健康福祉部（湯浅保健所）は、有田市、湯浅町、広川町、有田川町を管轄しており、総面積は和歌山県の約 10 パーセントにあたる 474.82km^2、人口は令和 5 年 4 月 1 日現在で和歌山県全体の約 7.5 パーセントにあたる 66,946 人である。

湯浅保健所は総務福祉課、保健課、衛生環境課の 3 つの課からなり、さらにそこから複数のグループに分けて業務を分担している。総務福祉課では主に生活保護や児童虐待防止、高齢者や障害者等の福祉対策に関する業務、保健課では感染症予防や難病対策、健康づくり対策等に関する業務、衛生環境課では食品衛生や生活衛生、水道関係施設指導などの業務を行っている。

保健所では、専門的かつ技術が求められるため、保健師、薬剤師、獣医師、栄養士、精神保健福祉士など多職種の職員が勤務している。

2．実習内容

9:30 ～ 10:20　オリエンテーション

まず、所長に挨拶をした後、保健所内を案内していただき、保健所としての役割やそれぞれの課の業務についての説明をしていただいた。

10:20 ～ 10:50　合同オリエンテーション　感染症予防対策について

保健所内の見学を終えた後、合同オリエンテーションに参加させていただき、最初に感染症予防対策について説明していただいた。そこでは、クリニックに関して行っていることや大切にしていること、また、結核や新型コロナウイルス感染症に関して、どのような業務を行い、どのような流れで他の医療機関等との連携をとるかなどに関して説明していただいた。

10:50 ～ 11:30　合同オリエンテーション　保健所の役割と公衆衛生活動について

次いで、保健所の役割と公衆衛生活動に関して説明していただいた。そこで、保健所が地域住民に必要なサービスを提供する仕組みづくりや、健康危機管理の拠点となることを目指し、どのようなことを業務として行っているかを詳しく説明してくださった。それらの業務の中には、地域保健にかかわる統計の作成や難病対策、精神保健福祉に関すること、生活衛生に関することなど、高い専門性が求められる業務が含まれており、保健所は様々な職種の職員を配置する必要がある施設であることを改めて知った。

11:30 ～ 12:00　合同オリエンテーション　健康づくりについて

さらに、健康づくり対策についても説明していただいた。ここでは、住民の健康づくりにむけてどのような運動、計画が行われているかについて教えていただき、健康日本 21、元気わかやま行動計画、オレンジパワープランなどの健康づくりに向けた取り組みがあることを知った。

12:00 ～ 13:00　昼休憩

13:00 ～ 13:40　合同オリエンテーション　衛生環境課の業務について

昼休憩後の合同オリエンテーションでは、最初に衛生環境課の業務について説明していただいた。衛生環境課の業務としては、食品衛生や生活衛生、水道事業に関することのほか、薬事に関することや廃棄物に関することが含まれており、これらは専門性を要する業務であるので、多職種の職員が配置された体制で業務にあたっていることが分かった。

13:40 ～ 14:20　合同オリエンテーション　総務福祉課の業務について

次に、総務福祉課の業務について説明していただいた。ここでは、生活保護や生活困窮者自

立支援などの保護に関することや、高齢者福祉、障碍者福祉、女性保護等の福祉に関する業務内容について教えていただいた。

14:30 ～ 14:50　訪問看護にかかるオリエンテーション

合同オリエンテーションを終えたあと、精神保健福祉士の方との訪問看護にあたって、訪問する方の情報や背景などに関して教えていただき、訪問看護ではどのようなことを行うのかについて説明してくださった。

15:00 ～ 16:00　訪問看護の見学

オリエンテーションを終えた後、精神保健福祉士の方と実際に訪問看護に向かった。訪問させていただいた方には、何気ない日常的な会話や自分のつらい過去に関する話をしていただき、精神保健福祉士の方はそれに対して終始共感的な態度をとられていた。この相手に対する接し方から、訪問看護における相手の背景や感情に配慮することの重要さを改めて実感することができた。

3．考察

これまでは、保健所の名前だけ知っており、その役割などに関してはあまり知識がなかったが、今回の実習を通して、保健所は地域住民の健康増進に向けた様々な取り組みがなされる場であり、住民の健康、生活に対して重要な役割を担っていることが分かった。特に、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況において、保健所は拡大防止に大きく貢献していると感じた。さらに、訪問看護の見学を通して相手の感情を意識した接し方にふれ、こうした住民ひとりひとりとの良好な関係を築き上げることが地域全体における健康づくりを実現しているのだと思った。

4．謝辞

この保健所実習で、ご多忙にもかかわらず私に様々なことを教えていただいた北内所長、今回の実習にご協力いただいた湯浅保健所の職員の皆様、実習の機会を与えてくださった和歌山県立医科大学地域医療支援センターの方々、本当にありがとうございました。今回の経験を将来に活かしていけるよう、より一層努力してまいります。

4 御坊保健所

位　置　和歌山県御坊市湯川町財部 859-2

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
1年生　楠山　博也

1．実習施設とその地域の概要・特徴

御坊保健所（日高振興局健康福祉部）は御坊市、日高町、日高川町、由良町、美浜町、印南町の一市五町を管轄している。日高振興局健康福祉部は総務福祉課、衛生環境課、保健課の三つの課で構成されており、総務福祉課は総務・保護グループと福祉グループ、保健課は保健グループと健康グループ、衛生環境課は衛生環境グループで構成されている。医師、保健師、薬剤師、獣医師、放射線技師など、さまざまな職種の方が働かれている。管轄内の人口は合計 57,923 人 (2023 年 4 月 1 日) で県全体の約 6.5%、面積は約 580km^2 で県全体の約 12%である。和歌山県のほぼ中央に位置し、和歌山市内まで自動車で一時間弱で行くことができる、比較的便

利な地域である。また、御坊市内には飲食店や娯楽施設なども多くあり、周囲の地域から人が集まりやすい。自然も豊富で魚釣りやキャンプができる施設もある。

2．実習内容

8:50 ～　新谷所長へ挨拶

9:00 ～　朝礼、各課へ挨拶、新谷所長による保健所の説明と実習のオリエンテーション

保健課にて朝九時の朝礼に参加させていただき、手話を少し習った。その後、各課へ挨拶と軽く自己紹介をして回った。その後、新谷所長から保健所と実習スケジュールの説明をしていただいた。

9:30 ～　食品衛生についての講義

高木さんに食品衛生監視に行く前に事前学習として食品衛生に関する講義をしていただいた。

9:45 ～　食品衛生監視

高木さんに同行し、日高川町の谷口チョコレート工場を見学させていただいた。

11:15 ～　福祉関係の講義

杉琴副部長に保健所が行っている福祉関係の仕事についての講義をしていただいた。

昼休憩

13:00 ～　感染症 (結核) の講義

花光放射線技師に感染症、特に結核と新型コロナウイルス感染症についての講義をしていただいた。

13:30 ～　保健課の仕事の説明

内田保健課課長に保健課の仕事内容についての講義をしていただいた。

14:20 ～　DOTS 会議の見学

新谷所長、西保健師に同行して、和歌山病院で行われた DOTS 会議を見学させていただいた。

16:00　実習終了

3．考察

保健所は、新型コロナウイルス感染症の流行時に感染者への対応や感染状況を発信したりと、感染症に関することの業務しか知らなかったが、実習を通して様々な業務があることを学んだ。

管轄内の食品工場や飲食店での食品衛生監視業務や生活保護に関する業務、感染症に関する業務、高齢者・障がい者・児童福祉に関する業務など、非常に多岐にわたる業務により、人々の生活が守られていることを実感した。また、これらの業務をこなすために様々な職種の方々が協力して働いていることも学んだ。また、DOTS 会議では保健所と病院が連携している様子を見学することができた。病気を治すためには病院だけでなく保健所の力も必要であることを実感した。特に、長期的な治療を要する病気に関しては、保健所の担う役割は非常に大きいと感じた。

実習を通して保健所の業務について学んだことで、保健所が様々な業務を行うことによって人々の生活を守っていることが分かった。また、そのためには保健所内だけでなく、病院などほかの機関との協力が必要不可欠であると感じた。

4．謝辞

お忙しい中、実習を受け入れてくださった新谷所長をはじめとする御坊保健所の職員の方々に深く感謝申し上げます。また、工場見学をさせてくださった谷口チョコレートの方々、DOTS 会議を見学させてくださった和歌山病院の方々、各保健所の方々に深く感謝申し上げます。今まで知らなかったことをたくさん学べたことはもちろん、非常に貴重な経験をたくさんさせていただきました。特に DOTS 会議の様子は印象に残っています。実習を通して学んだことをこれから活かしていきたいと考えています。短い時間でしたが本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1 年生　山本　晏

1．実習施設とその地域の概要・特徴

御坊保健所（日高振興局健康福祉部）の管轄は、御坊市、日高町、日高川町、由良町、美浜町、印南町となっている。健康福祉部には、総務福祉課、衛生環境課、保健課がある。所長は新谷医師で、ほかにも保健師、薬剤師、放射線技師などの様々な職種の方が勤務されている。保健所の管轄内の総人口は、57,923 人 (2023/4/1) であり、総面積は 540km^2 である。人口は県全体の約 6.5% である。市内へのアクセスは、高速で 1 時間ほどで、御坊市内は比較的都会である。また、管轄内の国立病院機構和歌山病院には県内唯一の結核病棟があり、結核に対して力を入れている。

2．実習内容

8:50　新谷所長挨拶

9:00　朝礼、各課への挨拶、新谷所長による保健所についての説明と実習スケジュールのオリエンテーション

保健課にて朝礼に参加し、手話のレクチャーを受けた。その後、各課に挨拶回りをした。その後新谷所長から説明とオリエンテーションをしていただいた。

9:30　食品衛生の講義

衛生環境課の高木さんに食品衛生監視に行く前に事前学習として食品衛生についての講義をしていただいた。

9:45　チョコレート工場での食品衛生監視

高木さんに同行させていただき、日高川町の谷口チョコレート工場を見学させていただいた。

11:15　福祉についての講義

杉琴副部長から、保健所の福祉関係の仕事についてご講義をしていただいた。

13:00　感染症講義

花光放射線技師に感染症、主に結核についての講義をしていただいた。

13:30　保健課についての説明

内田保健課課長に保健課の仕事内容についての講義をしていただいた。

14:20　DOTS 会議見学

新谷所長、西保健師に同行し、和歌山病院での DOTS 会議を見学させていただいた。

16:00　実習終了

3．考察

御坊保健所は健康福祉部を兼ねており、兼務の方もいてたくさんの仕事があった。見学させていただいた食品衛生監視では、実際チョコレート工場を訪れ、見学させていただき、実際どのような衛生管理がなされているのかを知れた。機械と人の手を使い、厳重に行っているようであった。高木さんの話を聞くと、工場生産など、大々的に食品を扱っているところでの食中毒などは、ほとんどないらしく、1 番食中毒が起きやすいのは、おにぎりで、理由は人の手がつくとどうしても時間が経つと雑菌が繁殖してしまうからだそうだ。また花光放射線技師からは結核について話をいただき、結核は未だ少なくなったとはいえ今でも最大の感染症で、特に高齢者にとってはよくある症状がでにくく、重い病気として残っているということを学んだ。また DOTS 会議への参加にあたって、症状が軽くなった高齢者患者の管理は保健所に渡され、病院と保健所の連携の大切さなどが学べた。また、保健師さんの禁煙活動などの予防医療への取組などのお話もしていただき、日々、県民の命と健康を守る保健所の大切さが学べた。

4．謝辞

この度はお忙しい中、実習をさせていただいた新谷所長をはじめとする職員の皆様方、見学をさせていただいた谷口チョコレートの皆様、および DOTS 会議に参加させていただいた和歌山病院の皆様、全ての方に深く感謝申し上げます。この度は貴重な体験をさせていただき、たくさんのことを学べました。また同時に、自分が地域で働く医師となった際に、どのように保健所と連携をとるべきかの展望も明らかになりました。これからも地域の医療を守る医師となるため、精進させていただきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

5 田辺保健所

位　置　和歌山県田辺市朝日ヶ丘 23-1

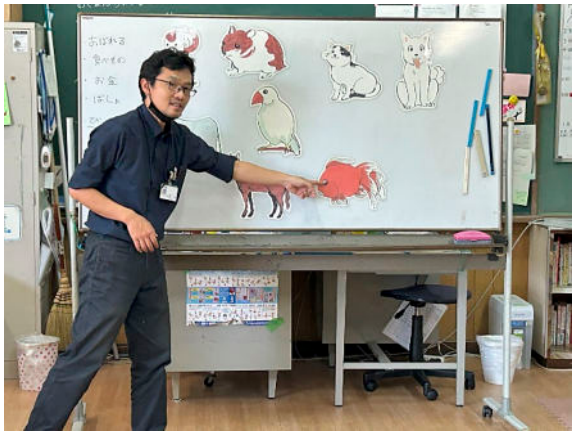
和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
1年生　濱　颯汰

1．実習施設とその地域の概要・特徴

田辺保健所は、田辺市、日高郡（みなべ町）、西牟婁郡（白浜町、上富田町、すさみ町）の 1 市 4 町を管轄しており、和歌山県のほぼ中央に位置している。面積は 1,580㎢である。田辺保健所は西牟婁振興局の健康福祉部として存在し、総務福祉課、保健課、衛生環境課の 3 つの課がある。熊野本宮大社や、熊野参詣道、白良浜など、観光の名所が多く存在する。

2．実習内容

到着後、館内のオリエンテーションを行った。



続いて、公用車で田辺保健所から稲成小学校に移動し、「わうくらす」を見学した。わうくらすとは、県内に通学する小学生を対象に、動物をとおして命の大切さや他者とのかかわりを学ぶことによって、こどもたちの豊かな心を育むことを目的に実施している動物愛護啓発事業のことである。わうくらすは、ボランティアの方がいない場合、保健所から職員が赴くそうだ。幼い子供たちにもわかるような言葉選びや口調、展開づくりなど伝えたい対象に届くような話し方が参考になった。

その後地域保健における保健所の役割を教えてもらった。

午後は、結核審査会と第八次和歌山県保健医療計画圏域別検討会を見学した。

3．考察

今回の保健所実習を通して、保健所は衛生・感染対策の業務のイメージしかなかったが、予想以上に幅広い範囲のことを担っていたとわかった。また、講演を行ったりと、自分の考えていたことよりも多くの仕事があると知った。結核審査会を見学した際にはどこが異常でどこが正常なのかわからず、理解するために早く医学の勉強に取り掛かりたいと思うようになった。また、第八次和歌山県保健医療計画圏域別検討会で田辺医療圏における医療の問題を聞いて、どこか他人事であった和歌山の医療問題が身近なものになった。また、医師の不足の話をされていた際に、自分たちが医師として将来和歌山で働くことを期待されているのだと肌で感じた。

4．謝辞

最後に、今回の保健所実習のためにお忙しい中貴重なお時間を割いてくださった田辺保健所の職員の皆様、貴重な経験をさせてくださりありがとうございました。

6 新宮保健所

位　置　和歌山県新宮市緑ケ丘２丁目 4-8

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠
１年生　粉川　ひなの

１．実習施設とその地域の概要・特徴

今回実習をさせていただいた新宮保健所は、新宮市及び東牟婁郡那智勝浦町、太地町、北山村を所管している。この地域は高齢者が多く、年を追うごとに過疎化が進んでいる。観光については、熊野三山や熊野古道、熊野速玉大社などが有名で、中でも生マグロの水揚げで日本一を誇る那智勝浦町はマグロ料理が盛んである。新宮保健所は、このような、高齢化が非常に進行し、高齢者が多い一方で、国内外問わず比較的若年の旅行客がたびたび訪れるような地域で、人々の環境と健康を守るために機能している。

2．実習内容

8:50　保健所集合
9:00　健康福祉部長へ挨拶・面談、オリエンテーション、保健所施設の案内
10:00　総務福祉課、保健課、衛生環境課の各課から業務の説明
10:45　衛生環境課関連の見学
12:00　昼食
13:30 ～ 16:30　神経難病の個別相談の見学（保健課）
16:30　まとめ
17:10　終了

今回見学させていただいた中で、私が最も印象に残っているのは、NPO 法人若者応援センターのヨリドコの見学と神経難病の個別相談の見学だ。

まず、ヨリドコとは、若者の自立を応援し働く場所を提供する事業のことだ。私が見学をさせていただいたときは、薪割りや回収したペットボトルの洗浄、PC を使った名刺のデザインやホームページの制作が行われていた。薪割りのときに出たおがくずは森の香りがして、そのおがくずを袋に詰めて売ることで、資源を無駄にせず最大限の仕事を生み出している。PC を使う仕事の方は、リモートでも可能だそうで、あまり外出が得意ではない若者でも働けるように工夫されているのだと思った。また、ヨリドコは若者の就労だけでなく若者の学びも応援している。中高生の居場所づくりや高卒資格の取得の支援などをしているそうだ。このように、ヨリドコは、私たちのような若者が社会に出ていく機会をつくってくれているのだ。

神経難病の個別相談会では、主にパーキンソン病の患者さんが相談に来られていた。正直パーキンソン病とはどんな病気なのかも知らなかったが、患者さん本人やそのご家族のお話を伺うことで、どんな病気なのかをある程度把握することができた。患者さん本人は、だんだん衰えていく自分の体にとても不安を感じている様子で、それに伴ってその介助者であるご家族の方々に迷惑をかけていると思い込んでいる人が多かった。保健所の職員さんは、そんな気落ちしている患者さんに優しく接し、話をたくさん聞いていた。そして、理学療法士の先生と患者さんとの対談のときに、先生が患者さんが前回来られた時の体の状態を記憶していたことにとても驚いたし、患者さんの状態を少しでも改善するために先生が患者さんに出す課題が、患者さんの年齢に合わせて個数や難易度を決められているのだということに、本当にいろいろなところで工夫がなされているのだと思った。

3．考察

今回、保健所がどんな役割を担っているのかを初めて知った。最近ではあまり行われていないが、新型コロナウイルスの検査がドライブスルーで行われていたということを聞いて、最も感染が広がりにくい検査方法だと感じた。保健所は、地域と密着しているおかげで、その町の環境衛生を守ったり労働の方法を増大したりしてくれているのだと実感した。

4．謝辞

今回、私たち実習生のために貴重なお時間をくださり、本当にありがとうございました。大学のある地域、または私の住む地域とは全く異なった地域で、住民の安心・安全なくらしがどのように支えられているのかを知れて、とても勉強になりました。私も、将来、保健所の方々のように地域の皆さんに頼っていただけるような医師になりたいと思います。本当にお世話になりました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1年生　田尻　鈴夏

1．実習施設とその地域の概要・特徴

今回、実習をさせていただいた新宮保健所は東牟婁振興局健康福祉部内にあり、新宮市と東牟婁郡内町村を分担して所管している。総務福祉課、保健課、衛生環境課の３つの課に分かれて、業務を分担している。所管区域は新宮市及び東牟婁郡那智勝浦町、太地町、北山村の１市２町１村で、総面積492.55平方キロメートル、人口は43,232人（令和４年４月１日時点）である。また、人口構造は高齢者が多く、若年層が少ない。世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道などがあり、観光を主産業としている。沿岸部ではマグロなど漁業が盛んとなっている。

2．実習内容

9:00	新宮保健所長、健康福祉部長に挨拶 保健所施設案内
10:00	総務福祉課、保健課、衛生環境課の業務の説明
10:45	衛生環境課関連の見学

12:00　　昼食休憩
13:30　　神経難病の個別相談の見学
16:30　　見学の振り返り

はじめにご挨拶をさせていただいたあと、お話をさせていただいた。保健所のことや、新宮のことなどを伺った。保健所施設案内では、思っていたよりも多くの部屋があった。また、現在はあまり使われない部屋や、昔とは少し違った使われ方をする部屋などから保健所業務が少しずつ変化しているように感じた。それぞれの課で、課の中でさらにグループに分け業務を行っているそうだ。

国道 168 号でゴミのポイ捨てが多かったため、公衆ゴミ箱の設置を行なったことについてのお話を伺った。無料で運営することはできないので、寄付金を募り、「ヨリドコ」という NPO 法人にゴミの回収や分別などをお金を払って委託しているそうだ。ヨリドコの施設内を見学させていただいた。ヨリドコでは一般企業への就職が困難な方に施設内か自宅から遠隔で薪や名刺の作製などの仕事をしてもらうそうだ。

神経難病の方やそのご家族を対象とした医療相談会の見学をさせていただいた。一つ目の部屋で先生に聞きたいことなどの整理をした上で、二つ目の部屋で脳神経内科医師の先生と主に症状や薬のことなどを話し、三つ目の部屋で理学療法士の先生と体の動かし方やリハビリのことについて話していた。患者さんの悩み事自体は似たものが多いと感じたが、特にリハビリのアプローチは患者さんに合わせ大きく違うものとなっていた。

3．考察

医療がないところは人が減っていくと伺い、医療や福祉、保健の大切さを感じた。保健所が担っている仕事の多さと働いている職員の方の職種の多様性に驚いた。私たちが生活する上でなくては困る仕事ばかりだったが、保健所が担っていると知らないものもあった。保健所では地域内での連携をとるための仕事も多くあると学んだ。医師や病院も地域の人の健康を守るために保健所と協力することも多くあるのだとお話を聞いて感じた。色々な考え方や、職業の人とコミュニケーションをとり、たくさんの人と協力することがより良い地域を作ることに必須なのだと学んだ。

4．謝辞

お忙しい中、貴重な時間を割いて実習を受け入れていただき本当にありがとうございました。今回の実習で、保健所の職員の方々が行っている業務を知り、実際に見学できたことはとても

貴重な経験でした。実習で学んだことを活かして、将来地域医療に貢献できるよう精進していきたいと思います。和田所長をはじめ、新宮保健所の職員の方々に心よりお礼申し上げます。

7 和歌山市保健所

位　置　和歌山市吹上 5-2-15

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1 年生　小山　貴士

1．実習施設とその地域の概要・特徴

和歌山市保健所は和歌山市の中心部に位置し、管轄地域は人口 348,925 人（2023 年現在）、面積約 208.84km2 の和歌山市である。和歌山市保健所は保健対策課、地域保健課、生活保健課、総務企画課の 4 つの課が存在している。保健対策課では難病対策や感染予防対策など公衆衛生に関わる仕事を行っている。地域保健課では成人保健や母子保健事業に関わっており、健康セミナーや栄養教室を開いている。生活保健課では食品や環境衛生に携わるほか動物愛護行政も行っている。総務企画課では保健所の運営や施設管理、統計調査なども行っている。和歌山市は和歌山県の中で最も医療体制が整っており、待機児童がほぼ 0 で、医療介護体制が整う

41 圏域に選出されている。

またヒラメやアシアカエビの海の幸やみかんや梅の山の幸も豊富であり、県内の 4 割の事業所が集積しており、県内で最も生活しやすい市である。

2．実習内容

9:15 ～ 12:00　13:10 ～ 16:00

「看護実習生合同オリエンテーション」

16:15 ～ 17:00

和歌山市保健所長との面会と施設案内

看護実習生合同オリエンテーションでは和歌山市保健所の 4 つの課の具体的な業務内容について詳しく学んだ。例えば生活保健課の動物愛護センターでは主に和歌山市の野良犬を捕獲し、育て、健康な犬を欲しい人に譲渡する活動を行っており、それによって年々犬の殺処分される数が減っており、和歌山市の野良犬の殺処分 0 を目指しているとおっしゃっていた。また近年予想される南海トラフに備えた避難訓練をハザードマップを用いて、在宅医療を受ける患者、患者の家族、訪問看護ステーションの方々と一緒に行っていることも学んだ。

和歌山市保健所の施設案内では新型コロナウイルス対策室、各課の事務室、乳幼児の診察室、救急車、統合失調症の方々同士が会話するための部屋、栄養管理のための相談室や栄養教室と多くの場所を案内してもらった。一つの保健所の中でも多くのことがなされていることを実感した。また和歌山市の医療機関に配るワクチンの段ボールも大量に置いてあった。保健所の医師の仕事は県知事への医療的な説明、議会での医療的な質問に対する答弁の補佐、病院間の仲介役、乳幼児健診などを行っていることを保健所長から学んだ。

3．考察

今回和歌山市保健所に訪問させていただいて、以前までは保健所の業務内容についてほとんど知らなかったが、保健所は地域の特色、問題点を踏まえ地域の人々がより安心に快適に暮らせるように多岐に渡りサポートしていることが分かった。また保健所内では保健師や医師、薬剤師などの連携も欠かせないことを痛感した。将来地域医療を支えるにあたって各地域での保健所が行っていたり、大切にしていることを理解し、取り入れ、患者の病気を診るだけでなく、患者の個人の生活全体を見ていける医師になりたいと感じた。

4．謝辞

今回和歌山市保健所長や各課の職員の方々、大変お忙しい中貴重な時間を割いて下さり本当にありがとうございました。今回の実習では保健所が行っている業務について深く学ぶことができ大変貴重な経験になりました。将来医師になった際、今回の実習で学んだことを生かしたいと思います。今回は本当にありがとうございました。

和歌山県立医科大学医学部地域医療枠

1年生　松尾　美海

1．実習施設とその地域の概要・特徴

和歌山市保健所の管轄区域は和歌山市である。和歌山市の令和5年8月1日現在の人口は348,917人、面積は208.85平方キロメートルである。和歌山市保健所の周辺の医療施設としては日本赤十字社和歌山医療センターがある。

和歌山市保健所には保健対策課、地域保健課、生活保健課、総務企画課の4つの課があり、課はさらに班に分かれて班ごとに異なる業務を行っている。保健対策課は難病対策や感染予防対策を行っており、地域保健課では母子健康事業を行ったり健康セミナーを開いたりしている。乳幼児の診察も地域保健課の仕事の1つである。生活保健課は食品や環境衛生に携わっているほか、動物愛護行政の役割も担っている。そして、総務企画課では保健所の運営や施設管理、統計調査などを行っている。

2．実習内容

9時～16時　　保健所各課のオリエンテーション
16時～17時　　保健所長との面会、保健所内見学

オリエンテーションはあいあいセンターで行われた。ここでは、各課や各班がどのような業務を行っているのかについて詳しく説明して頂いた。保健所と保健センターの違いや、健康危機管理、成人保健事業についてなど、今まで自分が知らなかった事柄についての話が聞けた。また公衆衛生や動物愛護など、一度は聞いたことがあるような身近な業務についても具体的な話を伺うことができた。

保健所では保健所長と面会し、保健所内を案内して頂いた。各課の事務室や乳幼児の診察室のほか、栄養管理相談室や新型コロナ対策室を見ることができ

た。見学の合間には保健所での医師の仕事内容を説明して下さったり、質問に対応して下さったりした。医師の仕事としては、乳幼児健診の他に、議会での医療的な質問に対する答弁の補佐や病院間の仲介役など、行政的な仕事が多いことがわかった。

3．考察

今までは保健所が具体的にどのような業務を行っているのかを知らなかったのだが、今回の実習を通して、保健所は地域の特色を踏まえ、その地域で暮らす人々がより安全で快適に暮らしていけるようなサポートを数多く行っている施設だと知ることができた。子どもの健診を行ったり、がん検診の受診率を上げるための対策をしたり、子育てを応援する事業を行ったりなど様々な年齢層の市民に対するサポートが行われていることがわかった。また、難病を患っている方や精神障害のある方への福祉サービスを提供するなど、日常生活で支援が必要な方に対しての業務内容も充実していることを学んだ。すべての市民が健康に暮らすために色んな職種の方々が尽力して下さっていることがわかり、保健所がいかに必要不可欠なものであるかを実感した。

4．謝辞

この度はお忙しい中、実習の機会を設けて頂きありがとうございました。保健所で働く方々から多岐にわたるお話を直接伺うことができ、とても貴重な経験となりました。業務内容や保健所の設備について等様々な説明をして下さったほか、質問にも丁寧に答えて下さり、学ぶことがとても多い実習となりました。今回の経験で学んだことを活かし、日々邁進していきたいと思います。

実習報告会・交流会

令和５年８月 19 日（土）に地域枠学生及び医師の実習報告会・交流会を開催しました。

実習報告会では、代表者９名が各自の実習内容や感想を発表し、参加者はそれぞれの医療機関や地域の特色を知ることができました。

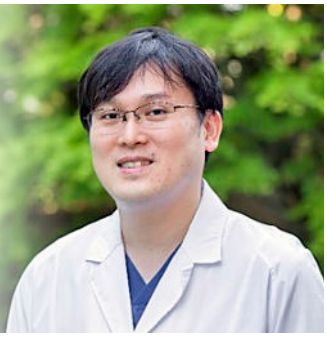
交流会は４年ぶりにオンラインではなく対面で開催し、学年を超えた交流を行う機会となりました。地域枠医師 10 名にもご参加いただき、地域枠の先輩として、学生からの様々な質問へのお答えや、将来へのアドバイスをいただきました。

●実習報告会

	実　習　先	学年	発表者氏名
1.	新宮市立医療センター	５年	井上　弘康
2.	国保野上厚生総合病院	５年	浦﨑　　杏
3.	新宮市立医療センター	５年	濱田琳太朗
4.	那智勝浦町立温泉病院	５年	渕脇　颯太
5.	国保すさみ病院	５年	山路　千咲
6.	川添診療所・白浜はまゆう病院	５年	山下　　光
7.	南和歌山医療センター	５年	和田　愛梨
8.	和歌山市保健所	１年	小山　貴士・松尾　美海

●交流会

おわりに



和歌山県立医科大学地域医療支援センター　副センター長・講師
和歌山県地域医療支援センター　副センター長

蒸野　寿紀

今年度は新型コロナウイルス感染症５類移行後、初めての夏季実習となりました。昨年・一昨年は実習にあたり、感染症流行・それに伴う活動制限の影響を受けましたが、今年度は影響も少なく、実り多き実習ができたものと思います。実習に関する業務は、今年度より当センターに地域医療支援コーディネーターとして着任した川端助教が担当し、学生からの事前アンケートを受け入れの先生方に共有することで、より学生のニーズに合わせた実習ができたものと思われます。本学では、昨年度より高知大学･三重大学と「黒潮医療人養成プロジェクト」と題した事業を行っています。今年度は夏季実習の一部を本プロジェクトの「アクティブラーニング（災害･救急コース)」として実施しました。また、今年度より地域枠の１～４年生を対象とした地域マインド教育Ⅰ～Ⅳが開始となりましたが、この時間を夏季実習報告会に充てることで、地域での学びの共有につなげました。さらに、今年度は県民医療枠Ｂ・Ｃの１年生が入学しましたが、県民医療枠Ｂの学生には産科の、県民医療枠Ｃの学生にはそれぞれ産科・小児科・精神科の早期体験の機会とすることができました。今後も学内外との連携の中で、実習内容を発展させ、地域医療に参加する意欲と地域社会に貢献する気概を養っていきたいと思います。最後になりましたが、この場をお借りして、実習に関与して頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

和歌山県立医科大学地域医療支援センター　地域医療支援コーディネーター・助教
和歌山県地域医療支援センター　地域医療支援コーディネーター

川端　大輝

今年度より地域医療枠および県民医療枠学生の夏季実習をサポートさせていただきました。自分が実際に地域の病院で勤務していた際に学生実習を引き受けさせていただいて、感じたことや反省したことがたくさんあったため、それを改善して学生にとってより充実した実習にできるよう検討しました。今回は、学生の実習に対してのニーズや目的を指導医に共有するようにし、また指導医にも前もって実習内容を計画していただきました。お忙しい指導医の先生方にとってはご面倒をおかけしましたが、おかげさまで学生にとっては充実した実習になったのではないかと、先日の夏季実習報告会を聞いていて感じました。

今後もこのような実習の機会を通して、地域医療枠および県民医療枠生とそれぞれの卒業生の絆が深まり、地域医療にさらに貢献できることを願っています。

ホームページ・http://www.cmsc.jp/

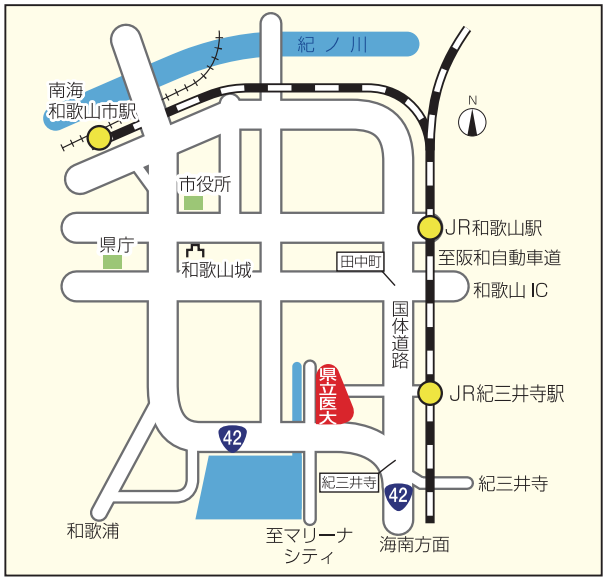
Facebook・https://www.facebook.com/W.CMSC

和歌山県地域医療支援センター

和歌山県
地域医療支援センター

〒641−8509
和歌山市紀三井寺811番地１
TEL：073−441−0845
FAX：073−441−0846

アクセス方法



- JR 紀三井寺駅　→　徒歩（約 10 分）
- JR 和歌山駅　→　バス・タクシー
- 南海和歌山市駅　→　バス・タクシー

- JR 和歌山駅前
  1 番のりば「医大病院」行　約 30 分
  2 番のりば「医大病院」行　約 30 分

- 南海和歌山市駅前
  1 番のりば「医大病院」行　約 50 分
  2 番のりば「医大病院」行　約 25 分
  3 番のりば「医大病院」行　約 30 分

令和５年 10 月　発行
発 行　和歌山県立医科大学地域医療支援センター　センター長・教授
和歌山県地域医療支援センター　センター長
上　野　雅　巳